

第一章 旅客室

第七十九條 左ニ掲グル旅客以外ノ旅客ニ對シテハ本章ノ規定ニ依リ旅客室ヲ設備スベシ

一 甲板旅客

二 航行豫定時間三時間未滿ノ航路ニ於テ搭載スル臨時旅客

三 沿海以下ノ航行區域ニシテ航行豫定時間三時間未滿ノ航路ニ於テ搭載スル旅客

管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ七月一日ヨリ八月末日ニ至ル期間ニ限り前項第二號及第三號ノ規定ニ依ル航行豫定時間ヲ五時間迄延長スルコトヲ得

第八十條 旅客室ハ滿載吃水線ノ直下ノ甲板以上ニ之ヲ設クベシ

第八十一條 甲板間ニハ其ノ高サ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二・一メートル以上、近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以上、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上ノ場所ニ非ザレバ旅客室ヲ設クルコトヲ得ズ但シ船尾ノ如キ斜曲ノ場所ニ設ケタル腰掛様ノ平欄ニシテ其ノ上面ヨリ甲板ノ裏面迄ノ高サ一・二メートルナルトキハ之ヲ客席ト爲スコトヲ得

第八十二條 上甲板以上ニ於ケル旅客室ノ高サハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二・一メートル以上、近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以上、沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上ナルコトヲ要ス

第八十三條 客席ヲ二層以上ト爲ス場合ニ於テハ客席ノ上面ヨリ甲板ノ下面又ハ上層客席ノ下面迄ノ高サハ移民ヲ搭載スル移民船ノ雜居客席ニ在リテハ一メートル以上、其ノ他ノ船舶ノ三等客席ニ在リテハ〇・七六メートル以上ト爲スベシ

前項ノ場合ニ於テハ甲板ノ上面ヨリ下層客席迄ノ高サチ一五センチメートル以上ト爲スベシ

第八十四條 旅客室ハ燃料油槽ノ隔壁又ハ頂板ニ隣接シテ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ油槽隔壁ト旅客室トヲ隔離スル爲通風十分ニシテ且通行シ得ル間隙ヲ以テ氣密ナル鋼製隔壁ヲ設ケタル場合又ハ人孔其ノ他ノ開口ナキ油槽頂板ノ上面ヲ厚サ三八ミリメートル以上不燃性塗料ヲ以テ塗裝シ且該場所ノ通風ヲ特ニ十分ト爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十五條 旅客室ハ假設ノ梁上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ

旅客甲板ハ梁ニ固著シ隙シタルモノナルコトヲ要ス

旅客室直上ノ暴露鋼甲板及旅客ヲ搭載スル暴露鋼甲板ニハ木甲板ヲ張ルコトヲ要ス

第八十六條 臨時旅客ヲ搭載スル船舶又ハ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

甲板旅客ヲ搭載スル船舶ハ管海官廳ニ於テ航路ノ狀況等ニ依リ差支ナシト認ムルトキハ前條第三項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第八十七條 雜居客室ニハ出入口ニ通ズル通路ヲ適當ニ設クベシ但シ客席ヲ一層ト爲ス場合ニ於テ客席ノ面積ノ六分ノ一ヲ通路ニ充ツルトキ又ハ長サ及幅三・七メートル以下ノ客席ニシテ他室ノ通路ニ當ラザルトキハ別ニ通路ヲ設ケザルモ妨ナシ

前項ノ通路ノ幅ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ九〇センチメートル以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ六〇センチメートル以上ト爲スベシ

第八十八條 左ニ掲グル場所ハ客室ニ充ツルコトヲ得ズ

一 外車汽船ノ車覆

一 外車汽船ノ車覆

- 二 船首隔壁アル船舶ニ在リテハ其ノ前部、船首隔壁ナキ船舶ニ在リテハ上甲板上面ニ於テ船首材ノ内面ヨリ船ノ最大幅ノ二分ノ一ニ當ル箇所ヨリ前部
 - 三 幅又ハ長サ六〇センチメートル未満ノ場所
 - 四 汽罐室ノ周圍ニ防熱裝置ヲ施サザル場合ニ於テハ其ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所
 - 五 其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ起臥動作ニ不適當ト認ムル場所
- 第八十九條 左ニ掲グル場所ハ客室ノ面積ニ算入セズ但シ湖川港内ノミテ航行スル船舶又ハ發航港ヨリ到達港迄直航スル船舶ニ在リテハ艙口ノ上面、周圍及載貨門ノ内側ヲ客席ニ算入スルモ妨ナシ
- 一 通路
 - 二 艙口ノ上面
 - 三 艙口ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所
 - 四 載貨門ノ前後各三五センチメートルノ箇所ヨリ其ノ幅ニテ艙口ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所
- 第九十條 上甲板其ノ他閉塞セザル場所ニ旅客ヲ搭載スル場合ト雖モ左ニ掲グル場所ハ之ヲ旅客搭載場所ニ充ツルコトヲ得ズ
- 一 艙口、天窗、舷側水道其ノ他障害物ノ占ムル部分
 - 二 甲板室、艙口、天窗及舷側水道ノ間ニ於ケル幅六〇センチメートル未満ノ場所
 - 三 短船首樓甲板上ノ場所
 - 四 船首材ノ前面ヨリ船ノ長サノ八分ノ一間ニアル上甲板及長船首樓甲板上ノ場所
 - 五 其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ搭載ニ適セズト認ムル場所

- 第九十一條 旅客室ノ容積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル
- 一 形狀整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サ及高サヲ乘ズ
 - 二 形狀整正ナラザル場所ニ在リテハ各室毎ニ其ノ前中後ノ三箇所ニ於テ上中下ノ幅ヲ測リ前後ニ於ケル上下ノ幅ノ和ニ前後ノ中幅ノ四倍及中央ニ於ケル上下ノ幅ノ各四倍ヲ加ヘ且中央ノ中幅ノ十六倍トヲ加ヘタルモノヲ三十六ニテ除シ之ニ長サ及平均ノ高サヲ乘ズ
 - 三 船尾斜曲ナル場所〔長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ノ箇所ヨリ後部〕ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前端ノ幅ト高サトヲ乘ズ
 - 四 前各號ノ規定ニ依リ定メタル容積ヨリ該容積内ニ於テ客室ニ充ツルコトヲ得ザル場所ノ容積ヲ減ズ
- 第九十二條 客席ノ面積又ハ第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル場所ノ面積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル
- 一 形狀整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サヲ乘ズ
 - 二 形狀整正ナラザル場所ニ在リテハ前中後ノ三箇所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ノ和ニ中央ノ幅ノ四倍ヲ加ヘ六ニテ除シ之ニ長サヲ乘ズ
 - 三 船尾斜曲ナル場所〔長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ニ等シキ箇所ヨリ後部〕ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前端ノ幅ヲ乘ズ
 - 四 前各號ノ規定ニ依リ定メタル面積ヨリ第八十九條ノ規定ニ依リ客室ノ面積ニ算入セザル場所及第九十條各號ニ掲グル場所ノ面積ヲ減ズ
- 第二章 旅客定員

第九十三條 旅客室ノ定員ハ第九十一條ノ規定ニ依リ定メタル旅客室ノ容積(立方メートルニテ)ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル員數ト寢臺ヲ備フル旅客室ニ在リテハ寢臺ノ數其ノ他ノ旅客室ニ在リテハ第九十二條ノ規定ニ依リ定メタル客席ノ面積(平方メートルニテ)ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トノ中小ナルモノトス

航 行 區 域	等 級	上甲板以上ノ場所及		第二甲板ヨリ下方ノ場所		
		單位面積 (平方米)	單位容積 (立方米)	單位面積 (平方米)	單位容積 (立方米)	
遠 洋	一 等 室	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	
	二 等 室	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	
	三 等 室	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・七五	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・〇〇	
	近 海	一 等 室	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇
		二 等 室	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・〇五	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・五五
		三 等 室	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一・五五	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・〇五
沿 海	一 等 室	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・〇五	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・五五	
	二 等 室	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	一・五五	〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・〇五	

第九十四條 臨時旅客ヲ搭載スル室ノ定員ハ左表ニ掲グル單位面積及單位容積ニ依リ前條ニ準ジ之ヲ定ム

航 行 豫 定 時 間	上甲板以上ノ場所及		第二甲板ヨリ下方ノ場所	
	單位面積(平方米)	單位容積(立方米)	單位面積(平方米)	單位容積(立方米)

備考

- 一 沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單位面積ハ表ニ掲グルモノノ一・五倍トス
- 二 近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單位面積及單位容積ハ表ニ掲グルモノノ一・三倍トス
- 三 平水ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ一時間以内ニ航行シ得ベキ船舶ノ旅客室ノ定員ヲ算定スルニ當リテハ其ノ航路ノ狀況ニ依リ三等室單位面積ヲ上甲板以上ノ場所又ハ其ノ直下ノ場所ニ於テハ〇・三平方メートル迄、第二甲板ヨリ下方ノ場所ニ於テハ〇・四五平方メートル迄減ズルコトヲ得

水 平	一 等 室			二 等 室			三 等 室		
	單位面積	單位容積	單位面積	單位容積	單位面積	單位容積	單位面積	單位容積	
一 等 室	〇・八五	一・一五	〇・八五	一・一〇	〇・四五	一・一五	〇・八五	一・五五	
二 等 室	〇・五五	一・一〇	〇・五五	一・一〇	〇・四五	〇・八五	一・一〇	一・五五	
三 等 室	〇・四五	一・一〇	〇・四五	一・一〇	〇・四五	〇・八五	一・一〇	一・五五	

一時間未滿	〇・三〇	一	〇・四五	一
六時間未滿	〇・四五	一	〇・五五	一
六時間以上 十二時間未滿	〇・五〇	一・〇〇	〇・七五	一・四〇
十二時間以上 二十四時間未滿	〇・六五	一・二〇	〇・九五	一・七〇
二十四時間以上	〇・八五	一・五五	一・一〇	二・〇五

第九十五條 第七十九條第一項第二號又ハ第三號ニ掲グル旅客ヲ搭載スベキ上甲板上其ノ他閉塞セザル場所ノ定員ハ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル甲板面積(平方メートルニテ)ヲ第九十三條又ハ前條ノ表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス

第九十六條 甲板旅客ノ定員ハ其ノ運送區域ニ應ジ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル面積(平方メートルニテ)ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス

區 域	單位面積 (平方米)	
	暴露上甲板	其ノ他ノ暴露甲板
甲 區 域	〇・八五	〇・八五
乙 區 域	〇・八五	一
丙 區 域	〇・八五	〇・八五
丁 區 域	一・一〇	一

前項ニ於テ甲區域トハ大小「スンダ」列島ノ西方ニ在ル南緯一度以北、北緯八度以南ノ印度洋ヲ謂ヒ乙區域トハ北緯八度以北ニ於ケル印度洋、「ベンガル」灣、「アラビヤ」海、「ペルシヤ」灣及紅海ヲ謂ヒ丙區域トハ南緯一度ノ線ニ依リ北ハ東經一三〇度以西ニ在リテハ北緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ大小「スンダ」列島及馬來半島ニ依リ限ラレタル區域ヲ謂ヒ丁區域トハ南緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ北ハ北緯三五度(黃海及渤海ヲ含ム)ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ亞細亞ノ沿岸ニ依リ限ラレタル船舶安全法施行地外ノ區域ヲ謂フ

乙區域及丁區域ニ於テハ上甲板以外ノ暴露甲板ニ甲板旅客ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ特ニ限定セラレタル區域内ニ於テ甲板旅客ヲ運送スル場合ニ於テ管海官廳ニ於テ差支ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ單位面積ヲ暴露上甲板其ノ他ノ暴露甲板ニ對シ何レモ〇・八五平方メートルトシ甲板旅客ノ定員ヲ算定ス

第九十七條 管海官廳ハ航路、季節、船舶ノ大小、乾舷、復原力、救命設備又ハ旅客ニ關スル設備等ヲ考量シ旅客定員ヲ第九十三條乃至前條ニ依リ算定シタルモノヨリ適當ニ減ズルコトヲ得

第三章 旅客ニ關スル設備

第九十八條 旅客室ニハ少クトモ筵、疊其ノ他旅客ノ坐臥ニ適スベキ敷物ヲ備フベシ

第九十九條 旅客室ニハ採光通風ノ爲相當ノ窓ヲ設クベシ

第一百條 甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ベキ出入口ヲ設ク之ニ梯子ヲ備フベシ
沿海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ前項ノ出入口ハ天氣ノ如何ニ拘ラズ何時ニテモ甲板上

ニ出入シ得ベキ装置ト爲シ又其ノ梯子ハ旅客定員五十人未滿ナルトキハ幅六〇センチメートル以上ノモノ一箇以上、五十人以上百人未滿ナルトキハ幅一〇〇センチメートル以上ノモノ一箇以上若ハ幅六〇センチメートル以上ノモノ二箇以上、百人以上ナルトキハ一人ニ付一センチメートルノ割合ニテ定メタル總幅ニ達スル迄幅六〇センチメートル以上ノモノヲ備フベシ
 回り梯子又ハ勾配急ニシテ段面狭ク柵欄ニ依ラザレバ昇降シ難キ梯子ハ其ノ幅ノ三分ノ二ヲ以テ、出入口ニ近ク梯子ヲ架ケタル場合ニ於テ出入口ノ幅ガ梯子ノ幅ヨリ狭キトキハ該出入口ノ幅ヲ以テ又梯子ノ下部ニ於テ之ニ面スル壁又ハ他ノ梯子迄ノ距離不十分ニシテ昇降ニ不便ナルトキハ管海官廳ノ適當ト認ムル實際ヨリ狭キ幅ヲ以テ梯子ノ幅ト看做ス
 臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル梯子ノ幅ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ
 梯子ハ成ルベク前後ノ方向ニ置キ且甲板ト六〇度以内ノ角度ニ据エ柵欄ヲ附シ其ノ後面ニ板ヲ張ルベシ
第一百條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニハ通風管ヲ旅客甲板毎ニ各別ニ設ケ其ノ截面積ハ旅客定員一人ニ付出入口トモ各一六平方センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ムベシ但シ機關室ノ兩側ニ於ケル雜居客室ニ於テハ通風管ノ截面積ハ二一平方センチメートルノ割合ト爲スベシ
 屈曲セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ屈曲ノ度ニ應ジ各屈曲ニ對シ前項ノ截面ノ百分ノ五乃至十ヲ増スベシ又屈折セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ各屈折ニ對シ屈折ノ度ニ應ジ百分ノ十六乃至三十六ヲ増スベシ

船體内又ハ甲板室内ニ在ル上甲板口ヲ通ジ雜居客室ニ通風シ得ル場合、機械的通風ノ装置アル場合雜居客室内ノ容積ニ餘剩アル場合又ハ雜居客室ト他室トノ空氣ノ流通シ得ル場合ニ於テハ管海官廳ノ見込ニ依リ通風管ノ截面ヲ適當ニ減少スルコトヲ得
 臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル通風管ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ
第二百條 移民ヲ搭載スル移民船ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニ對シテハ適當ナル機械的通風裝置ヲ設クベシ
第二百三條 第九十六條第二項ニ掲グル甲、乙又ハ丁區域ニ付左ニ掲グル荒天季節ニ於テ甲板旅客ヲ搭載スルトキハ甲板旅客逃避ノ爲甲板旅客一人ニ對シ甲板面積一・一平方メートル容積一・〇五立方メートルノ割合ノ遮蔽場所ヲ甲板室内、船體内又ハ甲板間ニ備フベシ但シ甲板旅客ヲ搭載スル部分ノ天幕ヲ二重ト爲ストキハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
 一 甲區域 四月十六日ヨリ十月三十一日迄
 二 乙區域 五月一日ヨリ八月三十一日迄
 三 丁區域 六月一日ヨリ十月十四日迄
第二百四條 旅客船ニ於テハ高サ一メートル以上ノ舷牆又ハ柵欄ヲ堅牢ニ取附クベシ但シ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ舷牆若ハ柵欄ノ高サヲ減ズルカ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
 柵欄ノ横棒ハ其ノ間隔二三センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ之ニ帆布若ハ網ヲ取附クルカ又ハ管海官廳ニ於テ安全ト認ムル他ノ裝置ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第百五條 旅客船ニハ適當ノ舷梯ヲ設ケ且堅牢ナル舷梯鈎ヲ備フベシ但シ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ舷梯ニハ柵欄ヲ附シ且其ノ裏面ニ板又ハ帆布ヲ張ルベシ

第百六條 熱帶地方ヲ航行スル船舶ニハ旅客及船員ニ對スル適當ノ防熱設備ヲ爲スベシ

第百七條 第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル場所ニハ天幕ヲ設備スベシ

第百八條 移民ヲ搭載スル移民船ニ於テハ雜居室ニ旅客ノ手廻品ヲ格納スル物入ヲ設備スベシ但シ甲板ノ上面ヨリ下層客席迄ノ高サ四〇センチメートル以上ニシテ其ノ間ノ場所ヲ物入ニ利用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章 船員室等

第百九條 船員室ノ定員ハ其ノ容積(立方メートルニテ)ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル員數ト寢臺ヲ備フル船員室ニ在リテハ寢臺ノ數、其ノ他ノ船員室ニ在リテハ其ノ座席面積(平方メートルニテ)ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トノ中小ナルモノトス

船舶ノ航行區域	單位面積(平方米)	單位容積(立方米)
遠洋區域	一人ニ付一・一〇平方米 以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・七五
近海區域	一・一〇	二・〇五
沿海區域	〇・五五	一・一五
平水區域	〇・四五	一

備考

沿海ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ航行スル時間十二時間以上ヲ要スル船舶ノ船員室ノ定員ハ近海區域ニ對スル單位面積及單位容積ニ依リ算定スルモノトス

管海官廳ハ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ前項ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百十條 第八十條乃至第八十九條、第九十一條及第九十二條ノ規定ハ船員室ニ之ヲ準用ス但シ第十八條第二號ニ掲グル場所ハ之ヲ船員室ニ充ツルコトヲ得

第百十一條 船員室其ノ他船員ニ供用スル室ニハ鎖管ノ開口又ハ揚錨機、捲揚機其ノ他ノ機具ヲ設置スルコトヲ得ズ

第百十二條 船員室ニハ其ノ定員ニ相當スル押入又ハ戸柵ヲ設クベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第百十三條 船員室ニハ釣床、寢臺又ハ船員ノ坐臥ニ適スル敷物ヲ備フベシ

第百十四條 船員室ニハ舷窓、甲板明取り又ハ天窗ヲ設クベシ
上甲板下ノ雜居船員室ニハ適當ノ通風管ヲ設クベシ

前項ノ通風管ノ截面積ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ船員室定員一人ニ付出入口トモ各一六平方センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 衛生設備

第百十五條 船員又ハ旅客ノ何レニモ非ザル者ノ居室ニ付テハ旅客室ニ關スル規定ヲ準用ス

第百十六條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ船舶検査證書ニ掲グル旅客定員一人ニ付〇・四

五平方メートルノ割合ヲ以テ上甲板以上ノ閉塞セラレザル場所ニ適當且安全ナル運動場ヲ設クベシ
第一百七條 旅客船ニハ最大搭載人員五十人ニ對シ一箇ノ割合ヲ以テ大便所ヲ設クベシ但シ最大搭載人員三百人以上ノ船舶、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シテ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノ航海ヲ爲ス船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

第一百八條 移民船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ病室ヲ設ケ最大搭載人員二百人迄ハ四十人毎ニ一箇、二百人ヲ超ユル人員ニ付テハ超過人員六十人毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ寢臺ヲ備フベシ病室ハ一・八三メートル以上ノ高さヲ有シ且收容人員一人ニ付四立方メートル以上ノ容積ヲ有スルコトヲ要ス

第一百九條 前條ノ病室及寢臺ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル
一 病室ノ一部ハ之ヲ隔離室ト爲シ病室用寢臺ノ四分ノ一以上ヲ設備シ得ル構造ト爲スベシ
二 病室ニハ規定ノ數ノ二分ノ一以上ノ寢臺ヲ常置スベシ
三 寢臺ハ金屬製ニシテ長サ一・八三メートル以上幅六〇センチメートル以上ノモノトシ之ヲ上下ニ重ナルコトナク其ノ一側ニ幅一メートル以上ノ通路ヲ存シ据附クベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ寢臺ヲ上下ニ重ネテ配置スルコトヲ得

第二十條 移民船ニハ病室附屬ノ浴室、便所、診療室並ニ藥局ヲ設クベシ但シ藥局ハ之ヲ診療室ニ兼用スルモ妨ナシ

第二十一條 移民船ハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスル際該港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ航行豫定時間ニ應ジ特殊船舶検査證書ニ掲グル旅客ニ對シ支給スベキ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ

第二十二條 移民船ニハ第三號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衛生用品ヲ備フベシ

第四編 航海用具等

第一章 錨、錨鎖及索

第二十三條 鋼製汽船ニ於テ鐵裝數トハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サト幅トノ和ニ其ノ長サヲ乗ジタル數ニ船樓又ハ甲板室ノ種類ニ應ジ左ノ各號ニ掲グル數ヲ加算シタルモノヲ謂フ

一 低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ該樓ノ長サト高サトヲ相乘シタル數

二 船首樓、船橋樓又ハ船尾樓等ヲ有スル船舶ニ在リテハ船樓ノ長サト高サトヲ相乘シタル積ノ四分ノ三

三 船ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユル長サ又ハ幅ヲ有スル甲板室其ノ他類似ノ構造物ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ長サト高サトヲ相乘シタル積ノ二分ノ一

鋼製帆船ニ於テ鐵裝數トハ船樓ヲ有セザル場合ニ於テハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サト幅トノ和ニ長サヲ乘ジタル數ヲ謂ヒ船樓ヲ有スル場合ニ於テハ該數ニ其ノ十五分ノ一ヲ加算シタルモノヲ謂フ前二項ノ長サ、幅、深サ及高サハ單位ヲメートルトシ單位以下第二位ニ止ム

第二十四條 木船ニ於テ鐵裝數トハ船樓ヲ有セザル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量(立方メートルニテ)ヲ謂ヒ船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ該積量(立方メートルニテ)ニ船樓ノ積量(立方メートルニテ)ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第二十五條 船舶ニハ其ノ鐵裝數ニ應ジ第四號表又ハ第五號表ニ定ムル錨、錨鎖及索ヲ備フベシ

第二十六條 大錨ノ合量ガ表ニ掲グルモノヨリ減少セザル限り大錨二箇ヲ備フベキ船舶ニハ中一箇ハ百分ノ七・五以内又三箇ヲ備フベキ船舶ニハ中一箇ハ百分ノ十五以内、一箇ハ百分ノ七・五以内表

ニ掲グル單量ヨリ少量ナルモノト爲スモ妨ナク又各大錨ノ單量ヲ相等シキモノト爲スモ妨ナシ
沿海以下ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨三箇ヲ備フ
ベキ場合ト雖モ其ノ數ヲ二箇ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨ノ錨量ハ表ニ掲グル單量以上、他ノ
一箇ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ

第百二十七條 有錐錨ノ錨錐ノ重量ハ錨錐ヲ除キタル錨ノ重量ノ四分ノ一以上ナルコトヲ要ス
無錐錨ノ錨柄ヲ除キタル重量ハ錨ノ全重量ノ五分ノ三以上ナルコトヲ要ス

第百二十八條 遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶、近海ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ備フル錨（錨錐ヲ含ミ
タル重量七六・二キログラム以下ノモノヲ除ク）、錨鎖及鋼索ハ試驗規程ニ適合シタルモノナルコト
ヲ要ス

第百二十九條 近海以下ノ航行區域ヲ有スル帆船及總噸數五十噸未満ノ汽船ニ在リテハ日本形錨ヲ代
用スルモ妨ナシ

前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ
日本形錨ノミヲ備フル帆船ノ錨、錨索及索ハ第五號表ニ代ヘ錨裝數ニ應ジ第六號表ニ定ムルモノヲ
備フベシ

前項ノ船舶ニ備フル大錨索以外ノ錨索ノ長サハ第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ等シクシ其ノ徑ハ
其ノ錨量ニ應ジ第七號表ノ定ムル所ニ依ル

第百三十條 第四號表及第五號表ニ定ムル中錨ノ鎖又ハ鋼索ハ相當ノ大サノ麻索又ハ棕梠索ヲ以テ之
ニ代用シ又同表中挽索ノ麻索ハ相當ノ大サノ棕梠索ヲ以テ之ニ代用スルモ妨ナシ
第百三十一條 錨鎖ハ衰耗ノ最モ甚シキ箇所ニ於ケル平均ノ徑ガ其ノ原徑ニ應ジ第八號表ニ定ムルモ

ノ以下トナリタルトキハ之ヲ使用スベカラズ

第百三十二條 總噸數三十噸未満ノ帆船、淺瀬船、總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除キタル平水ノ航行區
域ヲ有スル船舶及湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ錨數、錨量並ニ錨鎖、大索等ノ徑及長サハ管
海官廳ニ於テ適當ト認ムル程度迄之ヲ減ズルコトヲ得

第百三十三條 錨ハ常時使用セザルモノト雖モ取出シ易キ場所ニ備置クベシ
重量一五〇キログラム以上ノ錨ヲ備フル船舶ニハ適當ナル揚錨ノ設備ヲ爲スベシ

第二章 操舵設備

第百三十四條 長サ六〇メートルヲ超ユル汽船ニハ動力ニ依ル操舵裝置ヲ備フベシ

第百三十五條 手用操舵具ヲ常用スル船舶ニハ豫備操舵索一揃ヲ備フベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有ス
ル船舶及總噸數五十噸未満ノ船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

第百三十六條 動力ニ依ル操舵機ヲ常用スル船舶ニハ舵柄ノ制動裝置又ハ制動索ヲ備ヘ且豫備トシテ
手用操舵具又ハ動力ニ依ル操舵機ヲ用ウベシ

小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ前項ノ舵柄制動索ヲ以テ豫備手用操舵具ニ兼用セシムルコト
ヲ得

第百三十七條 動力ニ依ル操舵機ヲ有スル船舶ニハ其ノ操舵裝置ニ發條其ノ他ノ緩衝裝置ヲ備ヘ且舵
柄ニ連絡スル部分ノ操舵鎖ノ豫備ヲ備フベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及總噸數五百噸未満
ノ船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

總噸數五百噸以上ノ船舶ニ備附クル操舵鎖又ハ操舵鋼索ハ試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要
ス

第三章 航海用具其ノ他ノ屬具

第三百二十八條 船舶ニ備フベキ航海用具其ノ他ノ屬具ハ第九號表ノ定ムル所ニ依ル

本章ニ於テ船燈トハ檣燈、舷燈、船尾燈、碇泊燈、紅燈其ノ他海上衝突豫防法ニ規定スル燈ヲ謂フ

第三百二十九條 電氣船燈ヲ常用スル船舶ニ在リテハ第九號表ノ規定ニ依リ豫備燈ヲ要セザル場合ト雖

モ各電氣船燈ニ對シ豫備ノ油船燈ヲ備フベシ

第四百十條 船燈、油信號燈、霧中號角、火箭、榴彈及信號青焰ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要

ス

船燈ニ付テハ其ノ船名及備附年月日ヲ記載シタル合格證明書又ハ檢定證明書ヲ船内ニ保管シ置クベ

シ

第四百十一條 船燈ノ備附ニ付テハ左ノ規定ニ依ル

一 油船燈ヲ備フル船舶ニ於テハ船燈一種ニ付沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ三箇以上、

近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フベシ

二 船燈ハ其ノ射光ニ妨ナキ適當ノ場所ニ於テ其ノ燈光ヲ甲板上ニ發射セザル裝置ヲ爲スベシ

三 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ綠紅ノ挿入硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フルトキハ綠

紅各二箇ノ豫備挿入硝子ヲ備フベシ

四 舷燈ヲ常平架ニ裝置スルトキハ其ノ支點ハ透鏡ノ中心ト同一水平面内ニ在ルコトヲ要ス

五 油船燈二對ヲ備フル場合ニ於テハ該燈ハ何レモ同一ノ隔板ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

六 電氣船燈及油船燈ニ對シテハ各別ノ隔板ヲ備フベシ

第四百十二條 舷燈隔板ノ形狀及寸法ハ船燈試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

隔板ハ其ノ側板ガ垂直ニシテ且船ノ首尾線ニ平行ナル様之ヲ船舷又ハ其ノ他ノ固定物（檣ノ靜索ノ如キハ固定物ト看做サズ）ニ取附クルコトヲ要ス

第四百十三條 汽船及機關ヲ有スル帆船ニハ適當ナル場所ニ汽笛若ハ汽角又ハ適當ノ音響信號器ヲ裝置スベシ

第四百十四條 沿海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ其ノ航行スベキ區域及港灣ノ海圖ヲ備フベシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノヲ使用スベシ但シ最近ノ刊行ニ非ザルモ改正ノ廉ヲ記入シタル

モノ又ハ外國出版ノ海圖ニシテ最近ノ刊行ニ係ルモノヲ使用スルモ妨ナシ

第四百十五條 帆船ニハ檣ニ相當スル帆一揃ヲ備フベシ

近海以上ノ航行區域ヲ有スル帆船ニ於テハ前項ノ帆ノ外左表ニ依リ豫備帆ヲ備フベシ

區別	豫備帆ノ種類	數
横帆ヲ備ヘザル船	「フオール・ステール」	—
横帆ヲ備フル船	「フオール・ステール」又ハ「メイ ン・ステール」	—
	「フオール・ステール」 「トップ・ステール」	—

第四百十六條 總噸數五千噸以上ノ旅客船ニハ無線方位測定機ヲ備フベシ

第五編 特殊貨物ノ積附設備

第一章 火藥庫

第四百十七條 火藥庫ハ成ルベク熱氣ナク且旅客室又ハ船員室ニ接近セザル甲板間ノ場所ニ設置シ其ノ扉ハ艙口ヨリ容易ニ接近シ得ル箇所ニ設クベシ

管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ火藥庫ヲ甲板間以外ノ場所ニ設ケシムルコトヲ得

第四百十八條 鋼製火藥庫ノ内面ハ亜鉛鍍スルカ又ハ之ニ塗料ヲ施スベシ

第四百十九條 木製火藥庫ノ構造ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 庫壁ハ六一センチメートルヲ超エザル間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ固著セラレタル七五ミリメートル角以上ノ支柱ノ内面ニ厚サ三〇ミリメートル以上ノ板ヲ取附ケタル構造ト爲スベシ
- 二 各支柱ノ連結ヲ完全ナラシムル爲其ノ上部及下部ニ幅二三〇ミリメートル以上厚サ三〇ミリメートル以上ノ板ヲ固ク取附クベシ

第四百十條 鋼製又ハ木製火藥庫ノ内面ニハ鐵釘其ノ他ノ鐵材ヲ露出セザル様木板、革又ハ毛布ノ類ヲ以テ内張スベシ

第四百十一條 火藥庫ノ床ハ三〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレタル幅七五ミリメートル以上厚サ二五ミリメートル以上ノ横木ノ上ニ之ト同一寸法ノ内張板ヲ七五ミリメートル以下ノ間隔ニ取附ケタル網目格子ニシテ掃除ノ爲取外シ且持出シ得ベキ構造ト爲スベシ

第四百十二條 火藥庫ガ船側迄達スル場合ニ於テハ船側ニ二三センチメートルヲ超エザル間隔ニ内張板ヲ取附クルコトヲ要ス

第四百十三條 船ノ横ノ方向ニ於ケル幅一一・二メートルヲ超ユル火藥庫ニハ縱通隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ隔壁ハ九〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ固著セラレタル七五ミ

リメートル角以上ノ支柱ノ兩側ニ厚サ二五ミリメートル以上ノ木板ヲ一五センチメートル以内ノ間隔ヲ以テ交互ニ取附ケタル構造ノモノト爲スベシ但シ船舶ノ常設支柱ガ適當ノ位置ニ在リテ其ノ間

隔一八〇センチメートルヲ超エザルトキハ之ヲ縱通隔壁ノ支柱ニ代用スルコトヲ得

第四百十四條 火藥庫ノ扉ハ堅牢ナル構造トシ之ニ強固ナル錠ヲ備フベシ

第四百十五條 火藥庫ニハ適當ナル通風裝置ヲ備フベシ
火藥庫ニ通ズル通風管ノ管口ニハ二枚ノ細目金網ヲ附スルカ又ハ他ノ適當ナル防火蓋ヲ備フベシ
通風管ヲ備ヘザル鋼製火藥庫ニ於テハ側壁ノ成ルベク上部ニ十分ナル數ノ徑五〇ミリメートル以上ノ換氣孔ヲ穿ツベシ

第四百十六條 持運式火藥庫ハ容積二・二六立方メートル以下ニシテ其ノ床及側壁ハ厚サ七五ミリメートル以上幅五〇ミリメートル以上ノ支柱及厚サ三〇ミリメートル以上ノ木板ヲ用キテ構造シ其ノ蓋ハ之ヲ取附ケタルトキ移動セザル様嵌込構造ト爲シ且堅牢ナル錠ヲ備フベシ

第二章 甲板積木材貨物ノ積附

第四百十七條 甲板積木材貨物トハ上甲板又ハ船樓甲板ノ暴露部ニ積載スル木材貨物ヲ謂フ

前項ノ木材貨物ニハ木質「バルブ」又ハ之ニ類似ノ貨物ヲ包含セズ

第四百十八條 上甲板下ノ場所ニ通ズル甲板口ニシテ甲板積木材貨物ニ依リ蔽ハルモノハ其ノ積附前ニ艙口梁、縱材、蓋板等ノ閉鎖裝置ヲ所定ノ位置ニ配置シ之ヲ完全ニ閉鎖スベシ

甲板積木材貨物ヲ積載スル場所ニ在ル通風管ハ十分ノ保護スベシ

第四百十九條 船員ノ通路ニ當ル開口ノ附近ニ於テハ各開口ヨリ浸水スルコトヲ妨グ爲隨時之ヲ閉ヂ且留メ得ル様木材貨物ヲ積附クベシ

船員室へノ通路ニ當ル甲板積木材貨物ノ上面ハ步行ニ適スル様十分平坦ナラシメ且其ノ各側ニハ貨物上少クトモ一・二メートルノ高サヲ有シ且三〇センチメートル以内ノ間隔ニ配置セラレタル横棒ヲ備ヘタル保護欄干又ハ之ニ相當スル保護索ヲ設クルコトヲ要ス

第六十條 操舵裝置ハ木材貨物ニ依リ損傷セラレザル様十分ニ之ヲ保護シ且成ルベク之ニ近寄り易キ様木材貨物ヲ積附クベシ

第六十一條 甲板積木材貨物ノ性質ニ依リ支杆ヲ要スル場合ニ於テハ適當ナル強力ヲ有スル木製又ハ金屬性ノ支杆ヲ心距三・〇五メートル以内ニ於テ木材ノ長サ及性質ニ應ジ適當ニ配置シ且之ヲ定著スル爲有效ナル裝置ヲ備フベシ

第六十二條 甲板積木材貨物ヲ其ノ全長ニ亘リ十分締附クル爲貨物ノ兩側ニ跨ル十分ナル強力ヲ有スル縛索及其ノ締附裝置ヲ備フベシ

前項ノ縛索ニハ何時ニテモ近寄り得ル箇所ニ於テ解放裝置ヲ備フベシ

第六十三條 甲板積木材貨物ハ之ヲ密ニ積附ケ縛リ且動かザル様爲スベシ又其ノ積附ハ船舶ノ航行及必要ナル操作ニ支障ナク且水分ノ吸收ニ依ル木材ノ重量ノ増加並ニ燃料及倉庫品ノ消費ニ依ル其ノ重量ノ減少其ノ他船内ニ於ケル重量ノ變更ヲ考量ノ上航海ノ全道程ヲ通ジ復原性ノ十分ナル餘裕ヲ保持シ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十四條 木材滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ普通ノ滿載吃水線ヲ超エ甲板積木材貨物ヲ搭載セントストキハ其ノ積附ニ付本章ノ規定ニ依ルノ外船舶滿載吃水線規定ノ定ムル所ニ依ルベシ

第三章 穀類貨物ノ積附

第六十五條 穀類貨物トハ米、麥、豆、堅果、果核、種子其ノ他之ニ類似ノ散粒狀貨物ヲ謂フ

第六十六條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ其ノ純噸數ノ三分ノ一ニ相當スル容積以上ノ容積ノ穀類貨物ヲ散積スル場合ニ於テハ其ノ積附ハ本章ノ規定ニ依ル

穀類貨物ノ容積分明ナラザルトキハ其ノ重量ニ應ジ以テ船舶ノ純噸數一噸ニ相當スルモノト看做ス第六十七條 穀類貨物ハ上甲板ト第二甲板トノ間ノ場所ニ散積スルコトヲ得ズ但シ船内ノ空積ヲ填充スル爲適當ナル構造ノ補給裝置ニ積載スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

穀類貨物ヲ積載シタルトキハ十分ニ之ヲ荷均シ且墳込ムベシ

第六十八條 穀類貨物ヲ船内ニ滿載スル場合ニ於テハ其ノ全高ニ亘リ縱通隔壁又ハ適當ニ定著セラレタル荷止板ヲ設ケ適當ニ之ヲ區畫シ其ノ上部ニ於ケル梁ノ間ノ間隙ニハ墳材ヲ施スベシ

穀類貨物ヲ船内ニ滿載セザル場合ニ於テハ前項ニ準ジ適當ナル荷止板ヲ設クベシ

第六十九條 穀類貨物ヲ船内ニ滿載セザル場合ニ於テハ其ノ積載スル穀類貨物ノ約四分ノ一ヲ袋入ト爲シ之ヲ散積貨物ノ上ニ設ケタル適當ナル踏板上ニ搭載スベシ但シ當該貨物ノ性質又ハ他ノ貨物トノ積合せニ依リ穀類貨物ノ移動ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ穀類貨物ヲ滿載スル場合ト雖モ船内ノ空積ヲ填充スル爲ノ適當ナル補給裝置ノ備ナキ場合ニ之ヲ適用ス

第六編 電氣設備

第一章 總則

第一節 通則

第七十條 本編ノ規定ハ推進以外ノ用途ニ供スル電氣設備ニ之ヲ適用ス

第七十一條 供給電壓ハ直流ニ在リテハ五〇〇ヴォルト、交流ニ在リテハ二五〇ヴォルト以下ナル

コトヲ要ス
電氣扇、電熱器、小形電動機其ノ他之ニ類スル小形ノ電氣器具(以下單ニ小形電氣器具ト稱ス)及白熱電燈ニ供給スル電路ノ電壓ハ直流ニ在リテハ二五〇ヴォルト、交流ニ在リテハ一五〇ヴォルト以下ナルコトヲ要ス

第七十二條 供給電壓ハ供給點ニ於テ保持スベキ一定電壓ニ成ルベク百分ノ四ヲ超ユル變動ヲ生ゼシメザルモノト爲スベシ

第七十三條 電氣方式ハ左ノ各號ノ一ニ依ルコトヲ要ス

- 一 直流又ハ交流單相ノ二線式
- 二 直流又ハ交流單相ノ三線式
- 三 交流三相三線式
- 四 交流三相四線式

第七十四條 電氣設備ニ關シ本編ニ規定セザル事項ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル船舶ノ種類、用途等ニ依リ本編ノ規定ニ依リ難キモノニ付亦同ジ

第二節 機械及器具

第七十五條 發電機、電動機等ハ其ノ捲線ト大地トノ間ノ絶緣ガ其ノ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ニ依ル絶緣耐力試驗ニ十分間以上耐フルコトヲ要ス

第七十六條 計器用變成器以外ノ變壓器ハ適當ノ絶緣耐力試驗ニ耐フルモノナルコトヲ要ス

前項ノ變壓器ハ其ノ最大使用電壓ガ第七十一條ノ電壓ヲ超ユルモノナルトキハ兩捲線ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲之ニ適當ナル安全裝置ヲ備フベシ

第七十七條 發電機、電動機、變壓器等ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外易燃性瓦斯、酸性瓦斯又ハ油蒸氣ノ鬱積セザル通風良好ナル區畫内ノ水、蒸汽、油若ハ熱ニ因ル障害又ハ他動的損傷ヲ受クル虞ナキ場所ニ之ヲ設置スベシ

第七十八條 發電機、電動機等ノ鐵製ノ臺及變壓器ノ外函ハ接地スルコトヲ要ス但シ乾燥シタル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶緣性物ノ上ヨリ之ヲ取扱フ様設置シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七十九條 配電盤ハ不燃性物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

第八十條 配電盤ノ各帶電部ハ之ヲ適當ニ離隔スルカ又ハ不燃性絶緣物ヲ以テ保護シ其ノ間ニ弧光ノ持續セザル様設置スベシ

配電盤ニ取附クル器具及電線(電纜及管ニ藏メタル電線ヲ除ク)ハ容易ニ點檢シ得ル様之ヲ設置スベシ

第八十一條 主配電盤ニハ適當ナル計器ヲ備フベシ

第八十二條 開閉器、自動遮斷器其ノ他充電スル導體ニ接スル器具ハ不易燃性物ヲ以テ絶緣シタルモノナルコトヲ要ス

第八十三條 開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ其ノ使用電流及電壓ヲ表示シタルモノナルコトヲ要ス

第八十四條 機械及器具ハ船舶ノ動搖ニ依リ支障ヲ生ゼザルモノナルコトヲ要ス

第三節 電線、及附屬設備

第八十五條 絶緣電線ハ使用電流ニ因ル温度上昇ノ爲絶緣物ヲ損傷セザルモノナルコトヲ要ス

第八十六條 電纜及鉛被電線ハ電氣工作物規程ニ定ムル第四種絶緣電線(以下單ニ第四種電線ト稱

ス)ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第百八十七條 電路中必要ナル箇所ニハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ各種ニ適當ナル開閉器ヲ裝置スベシ

第百八十八條 機械、器具及電線ヲ保護スル爲電路中必要ナル箇所ニ適當ナル自働遮斷器ヲ裝置スベシ

地線工事ノ接地線及多線式電路ノ中性線ニハ自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得ズ

第百八十九條 電路中必要ナル箇所ニハ常ニ漏電ノ有無ヲ自働的ニ表示スル適當ナル裝置ヲ備フベシ

第百九十條 電路ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ヲ除クノ外其ノ全部ヲ十分大地ヨリ絶縁スベシ

第百九十一條 電線ニ接續點ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ依ル

一 電線ノ電氣抵抗ヲ増加セシメザルコト

二 電線ノ強サヲ二割以上減少セシメザルコト

三 接續管又ハ特殊ノ方法ニ依リ接續スル場合ヲ除クノ外接續部分ハ之ヲ鐵附スルコト

第二章 配線工事

第百九十二條 配線ハ電纜、鉛被電線又ハ金屬製管、金屬製線樋若ハ木製線樋ニ藏メタル絶縁電線ナルコトヲ要ス

第百九十三條 配線ハ徑一・六ミリメートル以上ノ軟銅線ナルコトヲ要ス但シ使用場所又ハ工事ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第百九十四條 電纜ノ金屬被覆及鉛被電線ノ鉛被ハ接地スルコトヲ要ス

第百九十五條 他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニハ鐵裝電纜又ハ適當ナル保護裝置ヲ有スル鉛被電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第百九十六條 木製線樋ヲ用ウル配線工事ハ乾燥セル場所ニ限り之ヲ爲スコトヲ得
前項ノ配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

一 電線ハ第四種電線ナルコト

二 線樋内ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト

三 線樋ハ乾燥シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シ其ノ内外面ニ耐水性ノ塗料ヲ施スコト

第百九十七條 金屬製管又ハ金屬製線樋ヲ用ウル配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

一 電線ハ第四種電線ナルコト

二 電線ハ撚線ナルコト但シ短小ナル管若ハ樋内ニ藏ムルモノ又ハ徑二ミリメートル以下ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 管又ハ樋ノ接續ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ依リ破損セザルモノナルコト

四 管又ハ樋ハ接地スルコト但シ短小ナル管又ハ樋ニシテ乾燥シタル場所ニ設置スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

五 管又ハ樋ノ内部ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト

六 鐵製ノ管又ハ樋ハ酸化作用ヲ防止スル爲亞鉛鍍ヲ施スカ又ハ「エナメル」等ヲ以テ被覆スルコト

七 濕氣アル場所又ハ壁内ニ設置スル管又ハ樋ハ其ノ内部ニ濕氣ノ浸入スル事ヲ防グ爲接手其ノ他ノ附屬品ニ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

第百九十八條 電纜又ハ鉛被電線ガ甲板又ハ水密隔壁ヲ貫通スル部分ニハ甲板管又ハ水密「グランド」

ヲ備ヘ梁又ハ水密ナラザル隔壁ヲ貫通スル部分ニハ鉛其ノ他ノ軟質非鐵物質ノ嵌輪ヲ備フベシ
第四種電線ガ甲板、梁又ハ隔壁ヲ貫通スル部分ニハ絕縁性物ヲ備ヘ適當ニ之ヲ保護スベシ
第九十九條 電氣使用場所ニ於ケル電線ハ適當ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ノ各極ニ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置スベシ
前項ノ各分岐回路ヨリ更ニ分岐スル二線式電路ニ備フル開閉器及自動遮斷器ハ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得

第二百條 汽機室及汽罐室内ノ配線ハ各獨立ノ分岐回路ト爲スベシ

第二百一條 檣燈、舷燈、兩色燈、三色燈及船尾燈ニ對シテハ燈毎ニ獨立ノ配線ト爲シ別箇ノ開閉器及自動遮斷器ニ依リ制御シ得ル裝置ト爲スベシ

前項ノ開閉器及自動遮斷器ハ航海船橋上ニ之ヲ集合設置スベシ又船燈ガ電球ノ纜條ノ切斷其ノ他ノ原因ニ因リ減シタル場合ニハ之ヲ自動的ニ表示スル設備ヲ爲スベシ

管海官廳ハ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ前二項ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百二條 應急送電裝置ヲ要スル船舶ニ在リテハ應急送電路ハ主電源ヨリ應急電源ニ急速ニ切換ヘ得ル裝置ト爲スベシ

第三章 特殊場所ニ於ケル設備

第二百三條 濕氣アル場所又ハ雨露ニ暴露スル場所ニ設置スル電氣設備ニハ適當ナル防濕又ハ防水裝置ヲ施スベシ

第二百四條 石炭庫其ノ他塵埃アル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一 配線ハ鍍裝電纜又ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二 開閉器、自動遮斷器其ノ他ノ器具ハ適當ナル防塵裝置ヲ有スルモノナルコト

三 電球承口ハ無鍵承口ナルコト

第二百五條 腐蝕性ノ瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於ケル電氣設備ニハ瓦斯若ハ溶液ノ爲侵サレザル様適當ナル塗裝其ノ他ノ豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第二百六條 爆發又ハ燃燒シ易キ危險ナル物質ヲ發生又ハ貯藏スル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一 配線ハ鍍裝電纜又ハ金屬製線種若ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二 自動遮斷器、開閉器、點滅器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具ハ該場所内ニ設置セザルコト但シ堅牢ナル氣密函若ハ油中ニ藏ムルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 電球承口ハ無鍵承口ナルコト

四 電球ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外裝ヲ施スコト

五 電動機ハ火花ヲ發スル部分ヲ有セザルモノ又ハ火花ヲ發スル部分ニ適當ナル保安裝置ヲ特ニ施シタルモノニ限り之ヲ使用スルコト

六 電線ト機械又ハ器具トノ接續ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ因リ弛緩セザル様堅固ニ取附ケタルモノナルコト

第二百七條 磁氣羅針儀ニ接近スル電氣設備ハ羅針儀ニ有害ナル影響ヲ及ボサザル様設置スルコトヲ要ス

附則

第二百八條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百九條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル端艇及端艇鈎ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限り本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

前項ノ端艇ニ付テハ其ノ容積ハ船舶検査規程ニ依リ算定シタル容積ヲ立方メートルニ換算シタルモノヲ以テ、其ノ定員ハ同規程ニ依リ算定シタルモノヲ以テ第五條又ハ第八條及第九條ノ規定ニ依リ算定シタル容積及定員ト看做ス

前二項ノ規定ハ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタル國際航海ニ従事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

第二百十條 國際航海ニ従事スル旅客船ニシテ昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノニ付テハ發動機附救命艇及救命索發射器ノ備附、端艇及救命筏ノ附屬品ノ備附、端艇ノ積附及揚卸裝置、乘艇裝置並ニ消防設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト實際上困難ナリト認ムルトキハ管海官廳ニ於テ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二百十一條 本令施行ノ際沿海以下ノ航路制限ヲ有スル旅客船ニ現ニ備フル救命艇ニ非ザル端艇ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限り救命艇ニ代用セシムルコトヲ得

第二百十二條 國際航海ニ従事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノヲ除キ本令施行前製造シタル船舶ニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備ヲ備フルコト實際上困難ナリト認メタルトキハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ本令施行後二年、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ四年以内ニ於

テ行フ最後ノ中間検査又ハ定期検査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二百十三條 本令施行ノ際現ニ存スル旅客室ニ付テハ左ニ掲グル事項ニ關シ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

- 一 室ノ高サ、通路及梯子ノ幅並ニ客席ト甲板又ハ上層客席トノ間ノ高サ
- 二 移民搭載場所トシテ使用スル旅客室ニ付テハ雜居客室ノ通風裝置及病室ノ設備
- 三 旅客定員ノ算定ニ用ウル單位容積及單位面積但シ旅客室ノ現狀其ノ他旅客定員ノ算定ニ關スル條件ニ變更ナキ場合ニ限ル

第二百十四條 前條第一號ノ規定ハ船員室及船員又ハ旅客ニ非ザル者ノ居室ニ之ヲ準用ス

第二百十五條 本令施行前製造シタル旅客船ノ舷牆又ハ柵欄ノ高サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二百十六條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖及索ノ數、重量、徑又ハ長サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖、鋼索、操舵鎖又ハ操舵鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限り第二百二十八條又ハ第三百二十七條第二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二百十七條 本令施行後一年以内ニ新ニ船舶ニ備附クル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノニ限り之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二百十八條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備ヘ又ハ前條ノ規定ニ依リ船舶ニ備ヘタル救命筏、救命浮器

第二號表 移民船ニ對スル食料及飲用水表

備考

救命艇ノ容積ヲ求ムルニ當リ第二級救命艇ノ容積、立方メートルニテハ該救命艇ノ定員ニ〇・二八三ヲ乘シタルモノヲ用ウベシ

二七一	二八二	二八	一九	一、一六〇
二八二	二九三	二八	一九	一、二四二
二九三	三〇三	三〇	二〇	一、三一二
三〇三	三一四	三〇	二〇	一、三八〇

品名	量	額
米	七四〇グラム	
獸肉	一八八"	
野菜類	適宜	
漬物類	適宜	
調味料類	適宜	
飲用水	三・六リットル	

備考
一 本表ノ量額ハ一人一日ニ對シ支給スベキ最小額トス

二 主食物中米ハ七分搗米又ハ胚芽米トシ成ルベク新鮮良質ナルモノヲ支給スベシ

三 無砂搗白米七五〇グラム、麵麩八六三グラム又ハ麥粉若ハ乾麵麩六九四グラムヲ以テ七分搗米七四〇グラムニ代用スルコトヲ得

四 無砂搗白米ヲ用ウルトキハ其ノ量額ノ十分ノ一迄麥ヲ混用スルコトヲ得

五 鳥肉、魚肉ヲ以テ獸肉ニ代用スルコトヲ得但シ魚肉ヲ以テ代用スルトキハ鳥獸肉ノ用量ノ倍量以上ヲ用ウベシ

六 蒸溜機ヲ備フル船舶ニハ水量ヲ半減スルコトヲ得

一三三	一四〇	一二	九	九	四〇八	一七〇	三二七	一七〇	一一九
一四〇	一四九	一四	一〇	一〇	四五二	一八五	三六一	一八五	一三〇
一四九	一五九	一四	一〇	一〇	四九〇	二〇一	三九二	二〇一	一四一
一五九	一六八	一六	一二	一〇	五三〇	二一七	四二四	二一七	一五二
一六八	一七七	一六	一二	一二	五七六	二一七	四六一	二一七	
一七七	一八六	一八	一三	一二	六二〇	二一七	四九六	二一七	
一八六	一九五	一八	一三	一二	六七一	二一七	四九六	二一七	
一九五	二〇四	二〇	一四	一四	七一一	二一七	五三七	二一七	
二〇四	二一三	二〇	一四	一四	七六七	二一七	五三七	二一七	
二一三	二二三	二二	一五	一四	八〇八	二一七	五三七	二一七	
二二三	二三二	二二	一五	一四	八〇八	二一七	五三七	二一七	
二三二	二四一	二二	一五	一四	八〇八	二一七	五三七	二一七	
二四一	二五〇	二四	一七	一四	九〇八	二一七	五三七	二一七	
二五〇	二六一	二六	一八	一四	九七二	二一七	五三七	二一七	
二六一	二七一	二六	一八	一四	一、〇三二	二一七	五三七	二一七	
二七一	二八二	二六	一八	一四	一、〇九七	二一七	五三七	二一七	

藥名	數量	藥名	數量
磷酸片狀硼酸	五〇〇グラム	粉末芥子	五〇〇グラム
醋酸鉛	五〇〇グラム	ホミカエキス十倍末	二五〇グラム
硫酸亞鉛	五〇〇グラム	ロートエキス十倍末	二五〇グラム
硝酸銀	二五〇グラム	アールコリ	一〇〇〇グラム
デマール	二五〇グラム	グロリ	五〇〇グラム
		蒸溜水	五〇〇グラム

(三) 外用藥

液名	數量	液名	數量
クラーウデン	一〇立方種入五管	グイタカンフア	一〇本
パンフオルフ油	方種入六管ヲ以テ代用スルコトヲ得	リンゲル液又ハロツク液	六
カンフオルフ油	一立方種ニ付二〇%ノモノ	生理的食鹽水	一、〇〇〇グラム

(二) 注射藥

藥名	數量	藥名	數量
磷酸コデイン十倍末	五〇グラム	英乳	二五〇グラム
パントボン錠又ハナルコボン錠	二〇箇	末	二五〇グラム
		錠糖粉	二〇箇

第三號表 移民船ニ對スル醫藥及衛生用品表

(一) 内用藥

藥名	數量	藥名	數量
アスチリン	二五〇グラム	ヒマシ油	二五〇グラム
サルチル酸ソーダ	一〇〇グラム	ロカイヤラツバ丸	五〇〇箇
鹽酸キニーネ	五〇〇グラム	醋酸カカリ液	二五〇グラム
瓜葛ネシヤ	二五〇グラム	チガレン又ハチギタミ	一五立方種
マゲネシヤ	一〇〇〇グラム	安息香酸ソーダカフエイ	五〇グラム
次硝酸蒼鉛(ビスミット)	二五〇グラム	カ(安那加)	二五〇グラム
ピオフィエルミン	二〇〇グラム	プロムワレルカ	五〇グラム
タンナルビン	二五〇グラム	プロムワレルカ	五〇グラム
ヂアスターゼ	二五〇グラム	ルモチン又ハプロバリ	一〇〇グラム
稀鹽酸	二〇〇グラム	ヨードカリ	五〇グラム
苦味チンキ	五〇〇グラム	サインタル油	一〇〇グラム
薄荷(ペロナール)	五〇〇グラム	コバイバルサム	五〇グラム
セネガシロツブ	一〇〇〇グラム	サントニン	五〇グラム
杏仁水	一〇〇〇グラム	アミノピリン錠	五〇箇
硫酸マグネシヤ(硫苦)	二五〇グラム	炭酸グアコール	五〇箇
		規鉄	五〇箇
		オリザニン	五〇〇グラム

Table with multiple columns containing numerical data, likely representing ship specifications or statistics. The table is organized into several vertical sections with varying column widths.

船舶の規格を定めるに当りては、本表を参考として、各船舶の規格を決定するに注意す。

表 大 凡 船 種 類 船 隻

Table with multiple columns containing numerical data, similar to the one on the right page. It includes various columns for classification and numerical values.

船舶の規格を定めるに当りては、本表を参考として、各船舶の規格を決定するに注意す。

測深機械	深海測鉛	手用測鉛	測程機械	砂漏計	手用測程具	海水用寒暖計	晴雨計	雙眼鏡	時計	號鐘	航 行 區 域	
											汽船	帆船
一	一	二	二	一	一	一	一	一	二	一	汽船	遠洋
一	一	二	一	二	一	一	一	一	二	一	帆船	近海
一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	汽船	沿海
一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	帆船	沿海
一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	汽船	平水
<p>湖川港内ヲ限リ航行スル船舶ニハ管海官廳ノ見込ニ依リ船長ヲ所持品ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得</p> <p>徑二〇三ミリメートル以上ニシテ適當ノ場所ニ懸垂スルコトヲ要ス</p> <p>總噸數三十噸未満ノ帆船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ</p> <p>測鉛ノ重量ハ手用測鉛ニ在リテハ三〇二斤以上、深海測鉛ニ在リテハ一七斤以上ナルコトヲ要ス</p> <p>測程機械ニ在リテハ長サハ手用測鉛ニ在リテハ四六メートル以上、深海測鉛ニ在リテハ三〇メートル以上ナルコトヲ要ス</p> <p>總噸數三十噸未満ノ帆船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ</p> <p>旅客船ニ非ザル船舶、總噸數八百噸未満ノ旅客船及臨時旅客船ハ甲板旅客ヲ搭載スル爲旅客船トナリタル船舶ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ</p>												

第九號表 屬具表

表第六號 日本形船ノ諸般ノ大及第表

船 隻 數	船 隻 數			實 備 大 船 隻 數			備 用 大 船 隻 數			備 用 大 船 隻 數		備 用 大 船 隻 數	
	大 船	中 船	小 船	大 船	中 船	小 船	大 船	中 船	小 船	大 船	中 船	小 船	大 船
40-55	2	1	3	75	20	32	56	110	28	—	—	—	—
55-70	2	2	4	95	30	40	65	110	32	—	165	30	—
70-100	2	2	4	115	30	45	75	110	35	—	165	30	—
100-140	2	3	5	130	35	45	80	135	35	—	165	25	—
140-210	2	3	5	170	45	60	90	135	40	14	165	24	—
210-285	2	4	6	205	50	65	90	135	45	16	165	24	—
285-355	2	4	6	255	55	75	110	135	45	16	165	24	—
355-425	2	4	6	300	60	80	110	135	50	18	164	28	—
425-495	2	4	6	330	65	—	125	135	55	18	164	28	—
495-565	2	4	6	360	70	—	135	135	55	18	164	28	—

表第八號 船隻長尺表

原 尺	平均 尺	原 尺	平均 尺	原 尺	平均 尺
9	8	26	23	56	50
10	9	27	24	58	52
11	10	28	25	60	53.5
12	11	29	26	62	55.5
13	11.5	30	27	64	57
14	12.5	32	28.5	66	59
15	13	34	30	68	61
16	14	36	32	70	62.5
17	15	38	34	72	64
18	16	40	36	74	66
19	17	42	37.5	76	68
20	18	44	39	78	70
21	19	46	41	80	71.5
22	19.5	48	43	82	73
23	20.5	50	44.5	84	75
24	21.5	52	46.5	86	76.5
25	22	54	48	88	78

備 用 大 船 隻 數	備 用 大 船 隻 數	備 用 大 船 隻 數
30	18	24
40	20	28
50	22	32
60	24	36
70	26	40
80	28	44
90	30	48
100	32	52
110	34	56
120	36	60
130	38	64
140	40	68
150	42	72
160	44	76
170	46	80
180	48	84
190	50	88
200	52	92
210	54	96
220	56	100
230	58	104
240	60	108
250	62	112

第七號表 日本形船ノ諸般ノ大及第表

備考	信號燈	船名錄	國際通信書	國際信號旗	國旗	信號青焰	榴火箭又彈	霧中號角	黑球	紅燈	碇泊燈	檣燈		羅針儀	航海曆	六分儀	時辰儀	
												豫備	常用					
一 夜間營業所ニ在リテ要招ニ應ズル水先汽船ニハ總噸數四十噸未満ノモノ又ハ平水ノ航行區域ヲ有スルモノト雖モ紅燈一箇ヲ備フベシ	一	一	一	一組	二	二	一	一	二	二	二	一	一	一	一	一	一	
	一	一	一	一組	二	六	一	一	二	二	二	一	一	一	一	一	一	
	一	一	一	一組	二	一	六	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	
	一	一	一	一組	一	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	
	一	一	一	一組	一	一	六	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	
	一	一	一	二N旗C	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
							榴彈ヲ備フルトキハ打上臺ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船ニ在リテハ二箇ヲ備ヘ船首及船尾ニ於テ一ハ右舷ニ他ハ左舷ニ据附クベシ又近海以下ノ航行區域ヲ有スル船ニ在リテハ一箇ヲ備ヘ適當ノ場所ニ据附クベシ		黒球ハ直徑六一〇ミリメートルニシテ布其ノ他保存ニ耐フベキ材料ヲ用キタルモノナルコトヲ要ス			碇泊燈ハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ナルコトヲ要ス 近海以下ノ航行區域ヲ有スル船ト雖モ長サ四五・七メートル以上ナルトキハ碇泊燈二箇ヲ備フベシ						

船尾燈	舷燈		檣燈		羅針儀	航海曆	六分儀	時辰儀
	豫備	常用	豫備	常用				
一	一對	一對	二	二	三	一	一	一
一	一對	一對	一	一	三	一	一	一
一	一	一對	一	一	三	一	一	一
一	一	一對	一	一	二	一	一	一
一	一	一對	一	一	二	一	一	一
一	一	一對	一	一	二	一	一	一
一	一	一對	一	一	一	一	一	一
尾燈ヲ備ヘザルモ妨ナシ	小形船ニ於テハ甲種又ハ乙種白燈ヲ以テ代用スルコトヲ得	豫備燈ハ油燈ト爲スコトヲ要ス	限リ書間ノ航行ノミニ使用スル船ハ檣燈ヲ備ヘザルモ妨ナシ	機關ヲ有スル帆船ニハ汽船ニ準ジ檣燈ヲ備フベシ湖川港内ヲナリ書間ノ航行ノミニ使用スル船ハ檣燈ヲ備ヘザルモ妨ナシ	總噸數四十噸以上ノ汽船ニハ甲種檣燈ヲ備フベシ 滿ノ汽船ニハ甲種又ハ乙種檣燈ヲ備フベシ ルノ以下ノ航行區域ヲ有スル船ト雖モ長サ四五・七メートル以上ナルトキハ常用燈一箇ヲ備フベシ 曳船ニ從事スル汽船ハ常用燈トシテ甲種檣燈二箇以上ヲ増備スベシ	湖川港内ヲ限リ航行スル船ト雖モ長サ四五・七メートルト認ムルトキハ羅針儀ヲ備ヘザルモ妨ナシ	沿海ノ航行區域ヲ有スル船ト雖モ長サ四五・七メートルト認ムルトキハ羅針儀ヲ備ヘザルモ妨ナシ	近海區域以上ヲ航行區域トスル船ト雖モ長サ四五・七メートルト認ムルトキハ羅針儀ヲ備ヘザルモ妨ナシ

船舶滿載吃水線規程

(逓信省令第七號)
昭和九年二月一日

第一編 總則……………三三

第一章 定義……………三五

第二章 乾舷ノ種類……………三五

第三章 滿載吃水線ノ標示……………三五

第四章 乾舷ノ決定……………三五

第二編 汽船ノ形狀ニ依ル夏期乾舷……………三六

第一章 表定乾舷……………三六

第二章 船樓ニ關スル修正……………三六

第三章 深サ及梁矢ニ關スル修正……………三六

第四章 舷弧ニ關スル修正……………三六

第三編 鋼船ノ強力……………三七

第一章 縱抵抗率及肋骨抵抗率……………三七

第二章 標準強力……………三七

船舶滿載吃水線規程

第一編 總則……………三三

第三章 強力ニ依ル吃水ノ算定……………三七

第四編 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船・槽船及水汽船ノ乾舷ニ關スル特別規定……………三七

第一章 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船……………三七

第二章 槽船……………三七

第三章 水汽船……………三七

第五編 帆船ノ乾舷ニ關スル特別規定……………三七

第一章 鋼帆船……………三七

第二章 木帆船……………三七

第六編 船舶ノ構造及設備……………三六

第一章 通則……………三六

第二章 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル艙口其ノ他ノ甲板口……………三六

第三章 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口・通風筒及空氣管……………三六

第四章 乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル開口……………三六

第五章 船樓端ノ隔壁・船員ノ保護裝置及放水口……………三六

第六章 木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船……………三六

第七章 槽船……………三六

附則……………三六

第一章 定義

第一條 本令ニ於テ乾舷甲板トハ最上層ノ全通甲板ヲ謂フ但シ最上層ノ全通甲板ノ暴露部ニ常設閉鎖装置ヲ備ヘザル開口ヲ有スル船舶ニ在リテハ該甲板ノ直下ノ全通甲板ヲ謂フ
船首ト船尾トノ間ニ於テ一部分ノ甲板ト他ノ部分ノ甲板トガ連續セザル船舶ニ付乾舷甲板ヲ定ムル場合ニ於テハ上方ノ甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ下方ノ甲板ノ延長面ヲ假定シ該下方ノ甲板及其ノ延長面ヲ全通甲板ト看做ス

第二條 本令ニ於テ船樓トハ船側ヨリ船側ニ達シ上部ニ甲板ヲ有スル乾舷甲板上ノ構造物ヲ謂フ
本令ニ於テ船樓ノ長サトハ船橋樓ニ在リテハ其ノ平均ノ長サ、其ノ他ノ船樓ニ在リテハ船ノ長サヲ測ル兩端點ニ於ケル垂線ノ間ニ在ル部分ノ平均ノ長サヲ謂フ

第三條 本令ニ於テ平甲板船トハ船樓ヲ有セザル船舶ヲ謂フ
第四條 本令ニ於テ船ノ長サトハ計畫夏期滿載吃水線又ハ計畫海水滿載吃水線上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ舵柱ヲ有スル船舶ニ在リテハ其ノ後面迄、舵柱ヲ有セザル船舶ニ在リテハ舵頭ノ中心迄測リタル距離ヲ謂フ

巡洋艦形船尾ヲ有スル船舶ニ在リテハ船ノ長サハ前項ノ規定ニ依ル長サト計畫夏期滿載吃水線又ハ計畫海水滿載吃水線上ニ於ケル船ノ全長ノ百分ノ九十六トノ中大ナルモノトス
船ノ長サハLヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第五條 本令ニ於テ船ノ幅トハLノ中央ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ヨリ外面迄、木船ニ在リテハ外板ノ外面ヨリ外面迄ノ最大幅ヲ謂フ
船ノ幅ハBヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第六條 本令ニ於テ船ノ深サトハLノ中央ニ於テ鋼船ニ在リテハ龍骨ノ上面ヨリ、木船ニ在リテハ龍骨ノ溝ノ下縁ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ船體中央橫截面ノ下部ガ凹形ヲ成ス船舶又ハ厚キ龍骨翼板ヲ有スル木船ニ在リテハ船底外板ノ外面ノ扁平部ノ延長ト龍骨ノ側面トノ交點ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

Lノ中央ニ於ケル船底勾配ガ八分ノ一ヨリ大ナル鋼帆船ノ深サハ第八條ノ規定ニ依ル船ノ深サハDヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第七條 本令ニ於テ乾舷用深サトハDニ乾舷甲板ノ梁上側板ノ厚サト左ノ算式ニ依リ算定シタル厚サトノ中大ナルモノヲ加ヘタルモノヲ謂フ

Tハ船樓内及甲板口ノ部分ヲ除キタル乾舷甲板ノ平均ノ厚サ(メートルニテ)
Sハ船樓ノ長サノ和(メートルニテ)

乾舷用深サハD₀ヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第八條 本令ニ於テ乾舷トハLノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ乾舷甲板ニ舷側水道又ハ梁壓材ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ内側ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第九條 本令ニ於テ吃水トハLノ中央ニ於テDノ下端ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第十條 本令ニ於テ甲板積木材貨物トハ乾舷甲板又ハ船樓甲板ノ暴露部ニ積載スル木材貨物ヲ謂フ前項ノ木材貨物ニハ木質「バルブ」及之ニ類似ノ貨物ヲ包含セズ

第十一條 本令ニ於テ槽船トハ包裝セザル液體貨物ノ運送ノ爲特殊ノ構造ヲ爲シタル汽船ヲ謂フ
 第十二條 本令ニ於テ北部季節冬期帶トハ左ノ各號ニ掲グル海面ヲ謂フ(別紙附圖參照)
 一 北亞米利加ノ東岸ヨリ北緯三十六度ノ線ニ沿ヒ西班牙國「タリファ」迄、朝鮮ノ東岸ヨリ北緯三十五度ノ線ニ沿ヒ本州ノ西岸迄、本州ノ東岸ヨリ北緯三十五度ノ線ニ沿ヒ西經百五十度迄及其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ北緯五十度ニ於ケル「ヴァンクローヴァー」島ノ西岸迄引キタル線ヨリ北方ノ海面
 二 地中海及黒海

釜山及横濱ハ本帶域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十三條 本令ニ於テ北部季節冬期帶ニ於ケル冬期季節又ハ夏期季節トハ其ノ區域ニ應ジ左表ニ掲グル期間ヲ謂フ(別紙附圖參照)

欄	區	城	冬期季節	夏期季節
一	西經五十度ニ於ケル「グリーンランド」ノ海岸ヨリ南へ北緯四十五度迄、其ノ地點ヨリ北緯四十五度ノ緯ニ沿ヒ西經十五度迄、其ノ地點ヨリ北緯六十度迄及其ノ地點ヨリ北緯六十度ノ緯ニ沿ヒ諾威國ノ西岸迄引キタル線内及其ノ北方ニ於ケル北亞米利加ト歐羅巴トノ間ノ區域		十月十六日ヨリ 十月十五日迄	四月十六日ヨリ 十月十五日迄
二	前欄ニ掲グル區域ヲ除キタル北緯二十六度以北ノ大西洋及其ノ接續部「バルティック」海ヲ含ム		十一月一日ヨリ 三月三十一日迄	四月一日ヨリ 十月三十一日迄
三	地中海及黒海		十二月十六日ヨリ 三月十五日迄	三月十六日ヨリ 十二月十五日迄
四	北緯三十五度ト北緯五十度トノ間ノ日本海		十二月一日ヨリ 二月末日迄	三月一日ヨリ 十一月三十日迄

五 前欄ニ掲グル日本海ヲ除キ北緯三十五度以北ニ於ケル亞細亞ト亞米利加トノ間ノ區域
 十月十六日ヨリ
四月十五日迄
 四月十六日ヨリ
十月十五日迄

備考

「ベルゲン」ハ第一欄ニ掲グル區域ト第二欄ニ掲グル區域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十四條 本令ニ於テ南部季節冬期帶トハ南亞米利加ノ東岸ヨリ南緯四十度ノ線ニ沿ヒ西經五十六度迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十四度西經五十度ノ點迄、其ノ地點ヨリ南緯三十四度ノ線ニ沿ヒ南阿弗利加ノ西岸迄、南緯三十度ニ於ケル南阿弗利加ノ東岸ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十五度ニ於ケル「オーストラリア」ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「オーストラリア」ノ南岸ニ沿ヒ「エーリツド」岬迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ「タスマニア」ノ「グリム」岬迄、其ノ地點ヨリ「タスマニア」ノ北岸ニ沿ヒ「エツデイストーン・ポイント」迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ東經百七十度ニ於ケル「ニュージランド」ノ「サウス」島ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「サウス」島ノ西岸、南岸及東岸ニ沿ヒ「ソーンダス」岬迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十三度西經百七十度ノ點迄及其ノ地點ヨリ南緯三十三度ノ線ニ沿ヒ南亞米利加ノ西岸迄引キタル線ヨリ南方ノ海面ヲ謂フ(別紙附圖參照)
 「ヴァルパライソ」、「ケーブ・タウン」及「ダーバン」ハ本帶域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス
 第十五條 本令ニ於テ南部季節冬期帶ニ於ケル冬期季節トハ四月十六日ヨリ十月十五日迄ノ期間ヲ謂フ
 十六條 本令ニ於テ季節熱帶トハ左表ニ掲グル各區域内ノ海面ヲ謂ヒ、季節熱帶ニ於ケル熱帶季節又ハ夏期季節トハ其ノ區域ニ應ジ左表ニ掲グル期間ヲ謂フ(別紙附圖參照)

欄	區	城	熱帶季節	夏期季節
一	北大西洋ニ於テ北ハ「ユカタン」ニ於ケル「カトーシユ」岬ヨリ「キユバ」岬ノ「サン・アントニオ」岬迄引キタル線、北緯二十度迄ノ「キユバ」國ノ南岸及北緯二十度西經二十度ノ點迄ノ北緯二十度ノ線ニ依リ、西ハ中央亞米利加ノ東岸及北緯二十度ノ線ニ依リ、南ハ亞米利加ノ北岸及北緯十度ノ線ニ依リ又東ハ西經二十度ノ線ニ依リ限ラレタル區域		十一月一日ヨリ 七月十五日迄	七月十六日ヨリ 十月三十一日迄
二	北緯二十四度以北東經五十九度以北東ノ「アラビア」海		八月一日ヨリ 五月二十日迄	五月三十一日ヨリ 七月三十一日迄
三	北緯二十四度以南北緯八度以北ノ「アラビア」海ニシテ西北ハ東經五十九度ノ線、西南ハ東經四十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域		十二月一日ヨリ 五月二十日迄及 九月十六日ヨリ 十月十五日迄	五月三十一日ヨリ 九月十五日迄及 十月十六日ヨリ 十一月三十日迄
四	北緯八度以北ノ「ベンガル」海		十二月十六日ヨリ 四月十五日迄	十二月十六日ヨリ 四月十五日迄
五	支那海ニ於テ西ハ北ハ印度支那及香港迄ノ支那ノ海岸ニ依リ、東ハ香港リ「スアル」港「ルソン」島迄ノ羅盤方位線及北緯十度迄ノ「ルソン」、「サマル」及「レイト」諸島ノ西岸ニ依リ又南ハ北緯十度ノ線ニ依リ限ラレタル區域		一月二十一日ヨリ 四月三十日迄	五月一日ヨリ 一月二十日迄
六	北大西洋ニ於テ北ハ北緯二十五度ノ線ニ依リ、西ハ東經百六十度ノ線ニ依リ、南ハ北緯十三度ノ線ニ依リ又東ハ西經百三十度ノ線ニ依リ限ラレタル區域		四月一日ヨリ 十月三十一日迄	十一月一日ヨリ 三月三十一日迄
七	北大西洋ニ於テ北及東ハ「カリフォルニア」、「メキシコ」國及中央亞米利加ノ海岸ニ依リ、西ハ西經百二十度ノ線及北緯二十度ノ線ニ依リ又南ハ北緯十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域		三月一日ヨリ 六月三十日迄及 十一月一日ヨリ 同月三十日迄	七月一日ヨリ 三月三十一日迄及 十二月一日ヨリ 二月末日迄
八	南大洋ニ於テ北ハ南緯十一度ノ線ニ依リ、西ハ「オーストラリア」ノ東岸ニ依リ、南ハ南緯二十度ノ線ニ依リ又東ハ東經百七十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域及南緯十一度以南ノ「カーペンタリア」灣		四月一日ヨリ 十一月三十日迄	十二月一日ヨリ 三月三十一日迄
九	南大洋ニ於テ西ハ西經百五十度ノ線ニ依リ、南ハ南緯二十度ノ線ニ依リ又北及東ハ南緯十一度西經百五十度ノ點ヨリ南緯二十度西經七十五度ノ點ニ至ル羅盤方位線ニ依リ限ラレタル區域		三月一日ヨリ 十一月三十日迄	十二月一日ヨリ 二月末日迄

備考
一 「カラチ」ハ第二欄ニ掲グル區域ト第三欄ニ掲グル區域トノ境界線上ニ在ルモノト看做ス
二 香港及「スアル」ハ第五欄ニ掲グル區域ト夏季帶域トノ境界線上ニ在ルモノト看做ス
三 西貢ハ第五欄ニ掲グル區域ト熱帶域トノ境界線上ニ在ルモノト看做ス
城ト熱帶域トノ境界線上ニ在ルモノト看做ス

第十七條 本令ニ於テ熱帶トハ左ノ各號ニ掲グル海面ヲ謂フ(別紙附圖參照)

一 北ハ北緯十度ニ於ケル南亞米利加ノ東岸ヨリ北緯十度ノ線ニ沿ヒ西經二十度迄、其ノ地點ヨリ北へ北緯二十度迄及其ノ地點ヨリ北緯二十度ノ線ニ沿ヒ阿弗利加ノ西岸迄引キタル線、阿弗利加ノ東岸ヨリ北緯八度ノ線ニ沿ヒ馬來半島ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ馬來及暹羅國ノ海岸ニ沿ヒ北緯十度ニ於ケル交趾支那ノ東岸迄、其ノ地點ヨリ北緯十度ノ線ニ沿ヒ東經百四十五度迄、其ノ地點ヨリ北へ北緯十三度迄及其ノ地點ヨリ北緯十三度ノ線ニ沿ヒ中央亞米利加ノ西岸迄引キタル線ニ依リ限ラレ南ハ南亞米利加ノ東岸ヨリ南回歸線ニ沿ヒ阿弗利加ノ西岸迄、阿弗利加ノ東岸ヨリ南緯二十度ノ線ニ沿ヒ「マダガスカル」ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「マダガスカル」ノ西岸及北岸ニ沿ヒ東經五十度迄、其ノ地點ヨリ北へ南緯十度迄、其ノ地點ヨリ南緯十度ノ線ニ沿ヒ東經百十度迄、

其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ「オーストラリア」ノ「ボート、ダーウイン」迄、其ノ地點ヨリ東へ「オーストラリア」ノ海岸及「ウエツセル」島ニ沿ヒ「ウエツセル」岬迄、其ノ地點ヨリ南緯十一度ノ線ニ沿ヒ「ヨーク」岬ノ西側迄、南緯十一度ニ於ケル「ヨーク」岬ノ東側ヨリ南緯十一度ノ線ニ沿ヒ西經百五十度迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯二十六度西經七十五度ノ點迄及其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十度ニ於ケル南亞米利加ノ西岸迄引キタル線ニ依リ限ラレタル海面

二「ボートセイド」ヨリ東經四十五度ノ線迄ノ「スエズ」運河、紅海及「アデン」灣

三「東經五十九度ノ線迄ノ「ベルシア」灣」「コクインボ」

「リオ・デ・ジアーネイロ」及「ボート・ダーウイン」ハ前項第一號ノ區域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十八條 本令ニ於テ夏期帶トハ第十二條、第十四條、第十六條及第十七條ニ掲グル帶域又ハ區域ニ屬セザル總テノ海面ヲ謂フ

第十九條 前七條ニ掲グル帶域又ハ區域ノ限界線上ニ在ル港ハ各場合ニ應ジ船舶ガ該港ニ到着スル迄ニ航行シタル帶域若ハ區域又ハ該港ヲ發航シタル後航行スベキ帶域若ハ區域ノ内ニ在ルモノト看做ス

第二章 乾舷ノ種類

第二十條 汽船ニ標示スベキ滿載吃水線及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲グル六種トス

滿載吃水線	乾舷	摘	要
夏期滿載吃水線	夏期乾舷		
冬期滿載吃水線	冬期乾舷		

冬期北大西洋滿載吃水線	冬期北大西洋乾舷	冬期北大西洋滿載吃水線ハ槽船ニ非ザルL一〇〇・五八メートルヲ超ユル汽船、近海ノ航行區域ヲ有スル汽船及北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ航行セザル漁船ニハ之ヲ標示スルコトヲ要セズ
熱帶滿載吃水線	熱帶乾舷	
夏期淡水滿載吃水線	夏期淡水乾舷	
熱帶淡水滿載吃水線	熱帶淡水乾舷	

帆船ニ標示スベキ滿載吃水線及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲グル三種トス

滿載吃水線	乾舷	摘	要
海水滿載吃水線	海水乾舷		
冬期北大西洋滿載吃水線	冬期北大西洋乾舷	冬期北大西洋滿載吃水線ハ近海ノ航行區域ヲ有スル帆船及北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ航行セザル漁船ニハ之ヲ標示スルコトヲ要セズ	
淡水滿載吃水線	淡水乾舷		

第二十一條 夏期乾舷ハ夏期帶ニ於テハ一年ヲ通ジ、季節熱帶及季節冬期帶ニ於テハ各其ノ夏期季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十二條 冬期乾舷ハ季節冬期帶ニ於テ其ノ冬期季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十三條 冬期北大西洋乾舷ハ北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ其ノ冬期季節間ニ於テ橫斷スル航海ノ場合ニ海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十四條 熱帶乾舷ハ熱帶ニ於テハ一年ヲ通ジ、季節熱帶ニ於テハ其ノ熱帶季節間海水ニ於テ保持

スベキ最小乾舷トス

第二十五條 海水乾舷ハ第二十三條ニ掲グル場合ヲ除クノ外海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十六條 夏期淡水乾舷ハ第二十一條ニ掲グル區域及季節ニ、熱帯淡水乾舷ハ第二十四條ニ掲グル區域及季節ニ淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

淡水乾舷ハ第二十三條ニ掲グル場合ヲ除クノ外淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第三章 満載吃水線ノ標示

第二十七條 満載吃水線ハ兩舷側ニ幅二五ミリメートルノ線ヲ以テ之ヲ標示スベシ

第二十八條 乾舷甲板ノ位置ハLノ中央ニ於テ長サ三〇〇ミリメートルノ水平線ヲ以テ之ヲ標示シ其ノ上縁ノ中央點ヲ第八條ノ交點ニ一致セシムベシ

第二十九條 前條ノ水平線ノ下方ニ於テLノ中央ニ外徑三〇〇ミリメートルノ圓標ヲ畫キ其ノ中心ヨリ該水平線ノ上縁迄ノ垂直距離ヲ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ等シクスベシ

圓標ヲ貫通シ長サ四六〇ミリメートルノ水平線ヲ畫キ其ノ上縁ノ中央點ヲ圓標ノ中心ニ一致セシメ夏期満載吃水線又ハ海水満載吃水線ノ標示ト爲スベシ

前項ノ水平線ノ上方ニ於テ圓標ノ外側ニ高サ一一五ミリメートル幅七五ミリメートルノ記號J及Gヲ標示スベシ

第七十一條但書ニ依リ舷弧ノ高サヲ測リタル船舶ニ在リテハLノ中央ヨリ前方Lノ四分ノ一ノ箇所ニモ前三項ノ標示ヲ爲スベシ

第三十條 前條第一項ノ圓標ノ中心ヨリ前方五四〇ミリメートルノ箇所ニ後縁ヲ有スル垂直線ヲ畫キ

其ノ前縁ヨリ前方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上縁ヲ以テ第二十條第一項又ハ第二項ニ掲グル海水ニ於ケル各満載吃水線(海水満載吃水線ヲ除ク)ヲ標示シ又其ノ後縁ヨリ後方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上縁ヲ以テ淡水ニ於ケル各満載吃水線ヲ標示スベシ
前項ノ満載吃水線ノ標示ニハ左表ニ掲グル記號ヲ附スベシ

満載吃水線ノ種類	記號
夏期満載吃水線	S
冬期満載吃水線	W
冬期北大西洋満載吃水線	WNA
熱帯満載吃水線	T
夏期淡水満載吃水線及淡水満載吃水線	F
熱帯淡水満載吃水線	TF

木材満載吃水線ノ標示ニ付テハ第九十六條ノ規定ニ依ル

第三十一條 満載吃水線ノ標示ハ鋼船ニ在リテハ外板ニ切込ムカ又ハ之ニ點刻シ木船ニ在リテハ外板ニ三ミリメートル以上ノ深サニ切込ミ且暗色ノ船側ニ於テハ白色又ハ黄色ニ塗リ白色ノ船側ニ於テハ黑色ニ塗リ之ヲ見易キモノト爲スベシ

第三十二條 満載吃水線ノ標示ヲ見易キモノト爲ス爲必要アル場合ニ於テハ其ノ位置ヲ第二十八條及

第二十九條ニ規定シタル位置ヨリ後方ニ變更スル等適當ノ手段ヲ執ルベシ

第四章 乾舷ノ決定

第三十三條 本章ノ規定ハ貨物及脚荷ノ性質及積附ガ船舶ノ復原性ヲ保持スルニ適當ナル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第三十四條 第三十五條乃至第四十二條ノ規定ハ船舶ノ構造及設備ガ第六編ノ規定ニ適合スル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第三十五條 鋼汽船ノ夏期乾舷ハ第二編第一章ノ規定ニ依ル表定乾舷ヲ必要ニ應ジ第二編第二章乃至第四章ノ規定ニ依リ修正シタルモノトス

強力ガ第三編ニ掲グル標準強力ニ達セザル鋼汽船ノ夏期乾舷ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三編第三章ノ規定ニ依リ算定シタル各吃水ノ中最小ナルモノニ相當スルモノトス

前項ノ規定ハ鋼船ノ構造ニ關スル規程又ハ船級協會ノ鋼船ノ構造ニ關スル規則ノ最高標準ニ適合シタル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第三十六條 槽船又ハ木汽船ノ夏期乾舷ハ夫々第四編第二章又ハ第四編第三章ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三十七條 帆船ノ海水乾舷ハ第五編ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三十八條 冬期乾舷ハ夏期乾舷ニ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ加ヘタルモノトス

第三十九條 冬期北大西洋乾舷ハL一〇〇・五八メートル以下ノ汽船ニ在リテハ冬期乾舷ニ五一ミリメートルヲ加ヘタルモノ、L一〇〇・五八メートルヲ超ユル汽船ニ在リテハ冬期乾舷ニ等シキモノ帆船ニ在リテハ海水乾舷ニ七六ミリメートルヲ加ヘタルモノトス但シ槽船ニ在リテハ第一百五條ノ規定ニ依ル

第四十條 熱帶乾舷ハ夏期乾舷ヨリ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ減ジタルモノトス

第四十一條 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ノ海水ニ於ケル各種木材乾舷ハ第四編第一章ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第四十二條 船舶所有者ニ於テ吃水ノ限度ヲ豫定シタル場合ニ於テハ前七條ノ規定ニ依ル各種乾舷ニシテ該限度ニ對スル乾舷ヨリ小ナルモノハ之ヲ該限度ニ對スル乾舷ニ等シカラシムルコトヲ得

第四十三條 海水ニ於ケル滿載吃水線ハ本章前各條ノ規定ニ拘ラズ乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交線ノ最低點ノ下方五一ミリメートルヨリ小ナル距離ニ在ルコトヲ得ズ

第四十四條 夏期淡水乾舷、熱帶淡水乾舷又ハ淡水乾舷ハ夫々本章前各條ノ規定ニ依リ定メタル夏期乾舷、熱帶乾舷又ハ海水乾舷ヨリ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ減ジタルモノトス

$$\Delta - \text{夏期乾舷}$$

△ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル海水排水量

Tハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル吃水每一センチメートル海水排水量

前項ノ△及Tヲ確認シ得ザル場合ニ於テハ前項ノ修正高ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ト爲スベシ

甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ノ夏期淡水木材乾舷及熱帶淡水木材乾舷ノ算定ニ付テハ第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

前三項ノ規定ハ海水ノ一立方メートルノ重量ガ一・〇二五トン、淡水ノ一立方メートルノ重量ガ一トンナル場合ニ相當スルモノトス

第四十五條 汽船ニ在リテハ第二十二條又ハ第二十三條ニ掲グル區域及季節又帆船ニ在リテハ第二十三條ニ掲グル區域及季節ニ於テハ當該乾舷ヨリ前條ノ規定ニ依ル修正高ヲ減ジタルモノヲ淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第四十六條 L九一・四四メートルヲ超ユル汽船ニシテ構造上槽船ト類似ノ特徴ヲ有スルモノニ付テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第六編ニ規定スル槽船ニ對スル條件ニ適合スル程度及當該船舶ニ於ケル區畫ノ程度ヲ考慮シ槽船ニ對スル乾舷ノ振合ニ依リ其ノ乾舷ヲ定ムルコトヲ得但シ該乾舷ハ該船舶ヲ槽船ト看做シ指定スベキモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四十七條 管海官廳必要アリト認ムルトキハ船體ノ現狀、局部ノ構造、工事ノ良否又ハ船舶若ハ船員ノ安全ニ關スル設備ヲ考慮シ本令ニ定ムル乾舷ヲ增加スルコトヲ得

逓信大臣ハ船舶ノ構造、用途又ハ航路ノ難易ニ應ジ本令ニ該當セザル乾舷ヲ指定セシムルコトアルベシ

第四十八條 特殊ノ船形ヲ有スル船舶ノ乾舷ノ算定ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二編 汽船ノ形狀ニ依ル夏期乾舷

第一章 表定乾舷

第四十九條 肥瘠係數ハ左ノ算式ニ依リ算定ス

$$\frac{L \times B \times d_1}{V}$$

d_1 ハDノ百分ノ八十五

V ハDノ下端ヨリ d_1 ノ距離ニ於ケル龍骨ニ平行ナル吃水線迄測リ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、

木船ニ在リテハ外面ノ外面ニ對スル排水量(船尾管膨出部ノ排水量ヲ含マズ)(立方メートルニテ)

前項ノVヲ確認シ難キ場合ニ於テハ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ肥瘠係數ヲ算定ス

第五十條 汽船ノ表定乾舷ハ肥瘠係數ガ〇・六八以下ナルトキLニ應ジ左表ニ依リ求メタル乾舷トシ

肥瘠係數ガ〇・六八ヲ超ユルトキハ該乾舷ニ左ノ算式ニ依リ算定シタル係數ヲ乗ジタルモノトス

$$\frac{C + 0.08}{1.36}$$

C ハ肥瘠係數

備考	乾舷(耗)	L	乾舷(耗)	L
	1870	124.0	200	24.0
	1936	136.5	211	26.5
	2001	149.0	222	29.0
	2066	161.5	233	31.5
	2131	174.0	244	34.0
	2196	186.5	255	36.5
	2260	199.0	266	39.0
	2324	211.5	277	41.5
	2388	224.0	288	44.0
	2451	236.5	299	46.5
	2514	249.0	310	49.0
	2576	261.5	321	51.5
	2637	274.0	332	54.0
	2698	286.5	343	56.5
	2758	299.0	354	59.0
	2816	311.5	365	61.5
	2874	324.0	376	64.0
	2931	336.5	387	66.5
	2988	349.0	398	69.0
	3044	361.5	409	71.5
	3100	374.0	420	74.0
	3154	386.5	431	76.5
	3208	399.0	442	79.0
	3261	411.5	453	81.5
	3313	424.0	464	84.0
	3364	436.5	475	86.5
	3415	449.0	486	89.0
	3465	461.5	497	91.5
	3514	474.0	508	94.0
	3562	486.5	519	96.5
	3609	499.0	530	99.0
	3656	511.5	541	101.5
	3702	524.0	552	104.0
	3748	536.5	563	106.5
	3792	549.0	574	109.0
	3836	561.5	585	111.5
	3879	574.0	596	114.0
	3922	586.5	607	116.5
	3965	599.0	618	119.0
	4008	611.5	629	121.5

備考 一 Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ插間法ニ依リ乾舷ヲ算定ス

二 平甲板船ニ在リテハ表ニ依リ求メタル乾舷ニ付一・二五ミリメートルノ割合ノ修正高ヲ加ヘタルモノトス

第二章 船樓ニ關スル修正

第五十一條 船樓ノ高サハ船樓甲板ノ上面ヨリ乾舷甲板梁ノ上面迄ノ最小垂直距離ヨリD₀トDトノ差ヲ減ジタルモノトス

第五十二條 船樓ノ標準ノ高サハ船樓ノ種類及Lニ應ジ左表ニ掲グル高サトス

備考	其ノ他ノ船樓		尾樓		前端隔壁ニ開口ヲ有セザル低船		船樓ノ種類 L	船樓ノ標準ノ高サ(米)
	122.0 以上	76.2 以下	122.0 以上	76.2	30.5 以下	0.91		
Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓ノ標準ノ高サヲ算定ス	2.29	1.83	1.82	1.22	0.91			

「トランク」ノ標準ノ高サハ前項ノ表ニ掲グル「其ノ他ノ船樓」ノ標準ノ高サニ等シキモノトス

第五十三條 船樓端ノ隔壁ノ出入口ニ於ケル第一級閉鎖装置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル閉鎖装置トス但シ出入口ノ縁材ノ甲板上ノ高サガ三八〇ミリメートル未満ナルトキハ該出入口ニ設クル閉鎖装置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル場合ト雖モ之ヲ第一級閉鎖装置ト認メズ

- 一 鋼製又ハ鐵製ニシテ隔壁ニ常設的ニ且強固ニ取附ケタルモノナルコト
- 二 構造堅牢ニシテ開口ナキ隔壁ト同等ノ強力ヲ有シ之ヲ閉ヅルトキハ風雨密トナルコト
- 三 隔壁又ハ閉鎖装置ニ常設的ニ取附ケタル定著設備ヲ備ヘ隔壁ノ兩側又ハ上方ノ甲板ヨリ閉鎖定著シ得ルコト

第五十四條 船樓端ノ隔壁ノ出入口ニ於ケル第二級閉鎖装置ハ左ノ各號ニ掲グル閉鎖装置トス

- 一 幅七六センチメートル以下厚サ五〇ミリメートル以上ノ堅質木製蝶番戸
- 二 隔壁ニ鉸釘ヲ以テ固著シタル堅溝形材ヲ出入口ノ兩側ニ設ケ之ニ該口ノ全高ニ互リ左ノ算式ニ依リ算定シタル厚サヨリ小ナラザル厚サノ挿板ヲ爲シタル装置

$$50 + \frac{25}{33} (b - 76) \text{ ミリメートル}$$

bハ出入口ノ幅(センチメートルニテ)但シ該幅ガ七六センチメートル未満ナルトキハ七六・〇

三 前二號ニ掲グルモノト同一ノ效力ヲ有スル板戸ニシテ取外シ得ルモノ

第五十五條 分立船樓ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノニ限り之ヲ蔽圍シタルモノトシテ取扱フベシ

- 一 船樓ヲ蔽圍シタル隔壁ガ有效ナル構造ノモノナルコト
- 二 前號ノ隔壁ニ出入口ヲ設ケタルトキハ之ニ第一級又ハ第二級ノ閉鎖装置ヲ備フルコト

三 船樓ノ側外板ニ開口ヲ設ケタルトキ又ハ其ノ端ノ隔壁ニ出入口以外ノ開口ヲ設ケタルトキハ之ニ風雨密ノ閉鎖装置ヲ備フルコト

四 船橋樓又ハ船尾樓ニ在リテハ其ノ内部ニ船員室、機關室、燃料庫其ノ他ノ作業場所アルトキハ隔壁ニ於ケル出入口トハ別ニ何時ニテモ此等ノ場所ニ出入シ得ル設備ヲ備フルコト

第五十六條

船樓ノ有效ノ長サノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 船樓ノ端ニ於ケル暴露シタル隔壁ガ第四百四十一條及第四百四十二條ノ規定ニ適合セザルトキハ隔壁ハ之ヲ無キモノト看做シ又船樓ノ側外板ニ常設閉鎖装置ヲ備ヘザル開口アルトキハ開口ノ前ヨリ後端迄ノ船樓ノ部分ハ之ヲ無キモノト看做ス

二 船樓ノ標準ノ高サヨリ小ナラザル高サノ船樓ニ在リテハ其ノ全部ガ蔽圍シタルモノナルカ又ハ全部ガ蔽圍セザルモノナルトキハ船樓ノ種類及閉鎖狀態等ニ應ジ第五十七條乃至第六十一條ノ規定ニ依ル

三 前號ノ船樓ガ其ノ末端ヨリ内方ニ隔壁ヲ設ケタル爲蔽圍シタル部分ト蔽圍セザル部分トヨリ成ルモノナルトキハ各部分ニ付前號ノ規定ヲ準用シテ求メタル有效ノ長サヲ相加フ

四 船樓ノ高サガ其ノ標準ノ高サヨリ小ナルトキハ前各號ニ依リ算定シタル長サニ船樓ノ高サト其ノ標準ノ高サトノ比ヲ乗ス

第五十七條

蔽圍シタル船首樓ニ在リテハ其ノ長サヲ有效ノ長サトス

蔽圍セザル船首樓ニ在リテハ其ノ位置及舷弧ノ前半部ノ平均高ト其ノ標準平均高(第七十四條及第七十五條参照)トノ比ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船樓ノ長サニ乗ジタルモノヲ有效ノ長サトス

前部垂線ヨリ後方ニ相當スル箇所迄	船首樓ノ位置	
	舷弧ノ前半部ノ平均高ト其ノ標準平均高トノ比(%)	係數
0.50	以下	0.50
0.50	ヲ超エ1.00未滿	*
1.00	以上	1.00
前欄ニ掲グル場所ノ後方		0.50

第五十八條 蔽圍シタル船橋樓ニ在リテハ隔壁ニ於ケル閉鎖狀態ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船樓ノ長サニ乗ジタルモノヲ有效ノ長サトス

隔壁ニ於ケル閉鎖狀態		係數	摘 要
前 端 隔 壁	後 端 隔 壁		
出入口ナキカ又ハ出入口ニ第一級閉鎖装置ヲ有ス	出入口ナキカ又ハ出入口ニ第一級閉鎖装置ヲ有ス	1.00	* 後端隔壁ニ接續スル「トランク」アリテ第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ有效ノ長サヲ船樓ノ有效ノ長サノ和ニ加算シタルトキハ一〇〇ノ代リニ〇・九〇ヲ用ウ
出入口ニ第二級閉鎖装置ヲ有ス	出入口ナキカ又ハ出入口ニ第一級若ハ第二級閉鎖装置ヲ有ス	0.90	
	出入口ニ第二級閉鎖装置ヲ有ス	1.00	

蔽圍セザル船橋樓ニ在リテハ前欄ガ閉鎖セラレザルトキハ其ノ長サノ百分ノ五十、前欄ガ閉鎖セラレ後端ガ閉鎖セラレザルトキハ百分ノ七十五ヲ有效ノ長サトス

第五十九條 蔽圍シタル船尾樓ニ在リテハ隔壁ニ於ケル閉鎖狀態及船樓ノ長サトLトノ比ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船樓ノ長サニ乘ジタルモノヲ有效ノ長サトス

出入口ニ第二級閉鎖裝置ヲ有ス	隔壁ニ於ケル閉鎖狀態		係數	摘	要
	蔽圍シタル船尾樓ノ長サトLトノ比	ノ長サトLトノ比			
0.70 以上	0.60	0.50 以下	1.00		
			0.90		
			0.95		
			1.00		

備考 隔壁ニ於ケル出入口ニ第二級閉鎖裝置ヲ有スル蔽圍シタル船尾樓ニ於テ其ノ長サトLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ係數ヲ算定ス

*船尾樓ニ接續スルコトヲシテアリテ第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ有效ノ長サヲ船樓ノ有效ノ長サノ和ニ加算シタルトキハ一〇〇又ハ八〇・九五ノ代リニ〇・九〇ヲ用ユ

蔽圍セザル船尾樓ニ在リテハ其ノ長サノ百分ノ五十ヲ有效ノ長サトス

第六十條 低船尾樓ニ付テハ船樓端ニ開口ヲ有セザル隔壁アルトキハ該隔壁迄ノ船樓ノ長サヲ有效ノ長サトシ船樓端ノ隔壁ニ開口アルトキハ該船樓ヲ船尾樓ト看做シ前條ノ規定ニ依リ有效ノ長サヲ算定ス

第六十一條 常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル中心線甲板口ヲ有スル船樓ニ在リテハ左ノ各號ニ依リ有效ノ長サヲ算定ス

一 常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ニ第六十二條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖裝置ヲ備ヘザルトキ

又ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ幅ガ該甲板口ノ長サノ中央ニ於ケル船樓甲板ノ幅ノ百分ノ八十以上ナルトキハ甲板口ノ前端ヨリ後端迄ノ間ハ船樓ナキモノト看做シ其ノ他ノ部分ニ付テハ其ノ位置ニ應ジ之ヲ船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ト看做シ第五十七條乃至第五十九條ノ規定ニ依リ求メタル有效ノ長サヲ相加フ

二 常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ニ第六十二條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖裝置ヲ備ヘ且該甲板口ノ幅ガ甲板口ノ長サノ中央ニ於ケル船樓甲板ノ幅ノ百分ノ八十ヨリ小ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル長サヲ有效ノ長サトス

$$L + (L - P) \times (L - P)$$

ハ船樓甲板ト乾舷甲板トノ間ノ隔壁ニ於ケル第二級閉鎖裝置ヲ備フル出入口ハ之ニ第一級閉鎖裝置ヲ備フルモノト看做スノ外前號ノ規定ヲ適用シテ算定シタル船樓ノ有效ノ長サノ和(メートルニテ)

ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ幅ト該甲板口ノ長サノ中央ニ於ケル船樓甲板ノ幅トノ比但シ其ノ比ガ〇・五未満ナルトキハ〇・五

第六十二條 前條ノ甲板口ノ一時的閉鎖裝置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノ又ハ之ト同一效力ノモノナルコトヲ要ス

- 一 甲板ニ堅固ニ鋸著シタル高キニ二九ミリメートル以上ノ鋼製縁材ヲ備フルコト
- 二 第二百十條ニ規定スル艙口蓋板ト同様ノ蓋板ヲ備ヘ且之ヲ麻索ニ依リ締附クル裝置ヲ備フルコト
- 三 第六編第二章ノ規定ニ依リ船樓甲板ノ艙口ニ要スル艙口梁、縦材及其ノ承金又ハ壺金ト同様ノ

蓋板支持装置ヲ備フルコト

第六十三條 「トランク」ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル場合ニ於テハ之ヲ有效ナル「トランク」トス船側

ヨリ船側迄達セザル類似ノ構造物ニ付亦同ジ

一 「トランク」ハ船樓ト同等以上ノ強力ヲ有スル構造ノモノナルコト

二 「トランク」ノ部分ニ於テハ船口ハ「トランク」甲板ニ之ヲ設ケ其ノ構造及閉鎖装置ハ暴露セル船樓甲板ノ船口ニ對スル第六編第二章ノ規定ニ適合シ又「トランク」甲板ノ梁上側板ハ通路トシテ十分ナル幅ヲ有シ且「トランク」ニ十分ナル抵抗力ヲ與フルモノナルコト

三 船樓及之ニ接続スル「トランク」ニ依リ又ハ船樓、分立「トランク」及之ヲ連結シタル有效ナル常設通路ニ依リ常設縦通作業臺ヲ形成シ且該作業臺ニハ保護欄干ヲ備フルコト

四 「トランク」ノ箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ暴露部ニハ少クトモ該部分ノ長サノ二分ノ一間ニ開放欄干ノ設ケアルコト

五 通風筒ハ「トランク」、水密蓋又ハ同一效力ノ装置ニ依リ之ヲ保護スルコト

六 機關室圍壁ハ「トランク」、標準ノ高サ以上ノ高サヲ有スル船樓又ハ之ト同一ノ高サ及同等ノ強力ヲ有スル甲板室ニ依リ之ヲ保護スルコト

第六十四條 有效ナル「トランク」ヲ有スル船舶ニ於テ船尾樓及船橋樓ノ隔壁ニ出入口ナキカ又ハ該隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖装置ヲ備フルトキハ第六十五條ノ規定ニ依リ算定シタル「トランク」ノ有效ノ長サ又該隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖装置ヲ備ヘザルトキハ該有效ノ長サノ百分ノ九十ト各船樓ノ有效ノ長サト和テ船樓ノ有效ノ長サノ和トス

第六十五條 「トランク」ノ有效ノ長サノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 「トランク」ノ實際ノ長サニ「トランク」ノ平均ノ幅ト船ノ幅トノ比ヲ乘ズ

二 「トランク」ノ實際ノ高サガ其ノ標準ノ高サヨリ小ナルトキハ前號ニ依リ求メタル長サニ「トランク」ノ實際ノ高サト標準ノ高サトノ比ヲ乘ズ但シ「トランク」甲板上ノ船口縁材ノ高サガ規定ノ高サヨリ小ナルトキハ「トランク」ノ實際ノ高サヨリ縁材ノ規定ノ高サト其ノ實際ノ高サトノ差ヲ減ジタルモノト「トランク」ノ標準ノ高サトノ比ヲ乘ズ

第六十六條 船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハLニ應ジ左ノ各號ニ掲グル高サニ船樓ノ有效ノ長サノ和ト

Lトノ比及船型ニ應ジ左表ニ掲グル船樓係數ヲ乘ジテ得タル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ

一 Lガ二・四・四メートル以上八五・三メートル未満ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル高サ

$$508 + \frac{508}{60.9} (L - 24.4) \quad \text{ミリメートル}$$

二 Lガ八五・三メートル以上一一二メートル未満ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル高サ

$$861 + \frac{203}{1.67} (L - 85.3) \quad \text{ミリメートル}$$

三 Lガ一一二メートル以上ナルトキハ一〇六七ミリメートル

船	船ノ和トLトノ比	船ノノイ効ノ長サ
0	0	0
0.073	0.10	
0.127	0.20	
0.190	0.30	
0.275	0.40	
0.360	0.50	
0.460	0.60	
0.620	0.70	
0.753	0.80	
0.877	0.90	
1.000	1.00	

船尾樓ノミヲ有スル汽船	船橋樓ノミヲ有スル汽船	船橋樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	船首樓ノミヲ有スル汽船	船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	樓 係 數			
					0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0.007	0.013	0.050
0.050	0.077	0.077	0.100	0.100	0.077	0.077	0.077	0.100
0.100	0.140	0.140	0.150	0.150	0.140	0.140	0.140	0.150
0.185	0.225	0.225	0.235	0.235	0.225	0.225	0.225	0.235
0.270	0.310	0.310	0.310	0.310	0.310	0.310	0.310	0.310
0.410	0.410	0.410	0.460	0.460	0.410	0.410	0.410	0.460
0.580	0.580	0.580	0.630	0.630	0.580	0.580	0.580	0.630
0.703	0.705	0.705	0.753	0.753	0.705	0.705	0.705	0.753
0.827	0.827	0.827	0.877	0.877	0.827	0.827	0.827	0.877
0.950	0.950	0.950	1.000	1.000	0.950	0.950	0.950	1.000

備考

- 一 低船首樓及低船尾樓ハ夫々船首樓及船尾樓トシテ取扱フベシ
- 二 第一條第一項但書ノ船船ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ前端ヨリ後端迄ノ間ハ船橋ナキモノト看做ス
- 三 船橋ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船橋係數ヲ算定ス
- 四 船橋樓ト他ノ船橋ト有スル汽船ニ在リテハ船橋樓ノ有效ノ長サガLノ十分ノ二未滿ナルトキハ相當欄ニ掲グル係數ト船橋樓ナキモノト看做シタル場合ノ係數トノ間ニ挿間法ニ依リ船橋係數ヲ算定ス

第三章 深サ及梁矢ニ關スル修正

第六十七條 D_0 ガLノ十五分ノ一ヲ超ユル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

一 L ガ一一・八・九メートル未滿ナルトキ

$$2.104 \left(D_0 - \frac{L}{15} \right) L \text{ シリヤートル}$$

二 L ガ一一・八・九メートル以上ナルトキ

$$2.499 \left(D_0 - \frac{L}{15} \right) \text{ シリヤートル}$$

第六十八條 中央部Lノ十分ノ六ニ亘ル蔽圍シタル船樓ヲ有スル船舶、全通「トランク」ヲ有スル船舶又ハ開口ナキ隔壁ヲ有スル船樓ト「トランク」トガ連續シテ船首尾ニ全通スル船舶ニ於テ D_0 ガLノ十五分ノ一ヨリ小ナルトキハ前條ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ノ絕對值ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ但シ船樓又ハ「トランク」ノ高サガ其ノ標準ノ高サヨリ小ナルトキハ修正高ハ前條ノ算式ニ依リ算定シタルモノニ船樓又ハ「トランク」ノ實際ノ高サト其ノ標準ノ高サトノ比ヲ乘ジタルモノト爲スベシ

第六十九條 L ノ中央ニ於テ D ノ下端ヨリ乾舷甲板ノ船側ニ於ケル上面迄ノ實際ノ深サガ D_0 ニ等シカラザル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フベシ

$$1000(D_1 - D_0) \text{ シリヤートル}$$

第七十條 D_1 ハLノ中央ニ於テ D ノ下端ヨリ乾舷甲板ノ船側ニ於ケル上面迄ノ實際ノ深サ(メートルニテ) L ノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ梁矢ガBノ五十分ノ一ニ等シカラザル船舶ニ在リテハ梁矢ノ

高サニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フベシ

一 梁矢ガBノ二十五分ノ一以下ナルトキ

$$\frac{1}{4}(1-r)(20B-R) \text{ センチメートル}$$

二 梁矢ガBノ二十五分ノ一ヲ超ユルトキ

$$-5(1-r)B \text{ センチメートル}$$

r ハ蔽圍シタル船樓ノ長サノ和トLトノ比

R ハLノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ梁矢(ミリメートルニテ)

第四章 舷弧ニ關スル修正

第七十一條 舷弧ノ高サハLノ中央ニ於ケル舷弧上ノ點ヲ通過スル龍骨ニ平行ナル直線ヨリ垂直ニ之ヲ測ルモノトス但シ船尾吃水ガ船首吃水ヨリ大ナル状態ヲ以テ航行スル様計畫セラレタル船舶ニ在リテハ龍骨ニ平行ナル直線ノ代リニ計畫滿載吃水線ニ平行ナル直線ヨリ之ヲ測ルコトヲ得(第二十九條第四項參照)

第七十二條 平甲板船及分立船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ舷弧ノ高サハ乾舷甲板ニ於テ之ヲ測ルベシ船樓ヲ蔽圍シタル隔壁ニ開口ナキ場合又ハ隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ備フル場合ニ於テハ該船樓ノ蔽圍シタル部分ニ於ケル乾舷甲板ノ舷弧ノ高サハ乾舷甲板ノ暴露部ニ於ケル舷弧ノ延長線迄測ルコトヲ得但シ船樓甲板ガ乾舷甲板ノ暴露部ト同等以上ノ舷弧ヲ有セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一條第一項但書ノ船舶ニ在リテハ舷弧ノ高サハ船樓甲板ニ於テ之ヲ測ルベシ此ノ場合船樓ノ高サ

ガ標準ノ高サヲ超ユルトキハLノ中央ニ於テ乾舷甲板ノ上面ヨリ船樓ノ標準ノ高サニ相當スル箇所ヲ通ル直線ヲ基準トシテ舷弧ノ高サヲ測ルコトヲ得

第七十三條 標準舷弧ハLノ兩端點及其ノ六等分點ニ於テ夫々左表ニ掲グル高サヲ有スルモノトス

分長點ノ位置	舷弧ノ高サ(種)
Lノ後端點	0.833L + 25.4
Lノ後端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點	0.37L + 11.3
Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點	0.0925L + 2.825
Lノ中央點	0
Lノ前部ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點	0.182L + 5.65
Lノ前部ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點	0.74L + 22.6
Lノ前部點	1.616L + 50.8

第七十四條 舷弧ノ標準平均高又ハ其ノ前半部若ハ後半部ノ標準平均高ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$C(0.833L + 25.4) \text{ センチメートル}$$

Cハ係數ニシテ左表ニ依ル

算定スベキ事項	C
舷弧ノ標準平均高	1/2
舷弧ノ前半部ノ標準平均高	2/3
舷弧ノ後半部ノ標準平均高	1/3

第七十五條 舷弧ノ平均高ハ第七十六條ニ規定スル場合ヲ除クノ外第七十三條ニ掲グル各分長點ニ於テ測リタル舷弧ノ高サニ分長點ノ位置ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジタル積ノ和ヲ十八ニテ除シタルモノトシ舷弧ノ前半部又ハ後半部ノ平均高ハLノ前半部又ハ後半部ニ於ケル第七十三條ニ掲グル各分長點ニ於テ測リタル舷弧ノ高サニ分長點ノ位置ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジタル積ノ和ヲ三十六ニテ除シタルモノトス

分長點ノ位置	舷弧ノ平均高ヲ定ムル係數		舷弧ノ前半部ノ平均高ヲ定ムル係數		舷弧ノ後半部ノ平均高ヲ定ムル係數	
	Lノ後端點	Lノ前端點	Lノ後端點	Lノ前端點	Lノ後端點	Lノ前端點
Lノ後端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點	1					
Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點	4					
Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點		2				
Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點				1		
Lノ中央點	4	5	5	12	15	4

Lノ前端點	Lノ前端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點		Lノ前端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點		Lノ前端點	
	Lノ前端點	Lノ前端點	Lノ前端點	Lノ前端點	Lノ前端點	Lノ前端點
	2					
		4				
			4			
				15		
	1	4	4	15	12	1

第七十六條 舷弧ノ後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ニシテ前半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ小ナルトキハ後半部ノ舷弧ハ標準舷弧ニ等シキモノト看做シ舷弧ノ平均高ヲ算定ス
 舷弧ノ前半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ニシテ後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ノ百分ノ五十以下ナルトキハ前半部ノ舷弧ハ標準舷弧ニ等シキモノト看做シ又後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ノ百分ノ五十ヲ超エ百分ノ七十五未滿ナルトキハ前半部ノ舷弧ハ各分長點ニ於テ左ノ算式ニ依リ算定シタル高サヲ有スルモノト看做シ舷弧ノ平均高ヲ算定ス

$$S_0 + \left(\frac{1-S_0}{20} \right) (S_1 - S_0)$$

Sf ハ前半部ノ當該分長點ニ於ケル舷弧ノ實際ノ高サ

S₀ ハSfヲ測リタル點ニ於ケル標準舷弧ノ高サ

r ハ舷弧ノ後半部ノ平均高ト其ノ標準平均高トノ比(百分率ニテ)

第七十七條 舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ小ナル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

$$(S_0 - S) (7.5 - 5r_1) \text{ ミリメートル}$$

S₀ ハ舷弧ノ標準平均高(センチメートルニテ)

S ハ舷弧ノ平均高(センチメートルニテ)

r₁ ハ平甲板船ニ在リテハ零、船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ船樓ノ長サノ和トLトノ比

第七十八條 舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ナル船舶ニ在リテハ船樓ノ有無ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ但シ該修正高ガ左表ニ掲グル限度ヲ超ユルトキハ之ヲ其ノ限度ニ止ム

一 平甲板船ノ場合

$$7.5(S-S_0) \text{ ヲリヤ一ト}$$

二 船樓ヲ有スル船舶ノ場合

$$(S-S_0) (7.5-5r_1) \times \frac{5E}{L} \text{ ヲリヤ一ト}$$

S₀ ハ舷弧ノ標準平均高(センチメートルニテ)

S ハ舷弧ノ平均高(センチメートルニテ)

r₁ ハ船樓ノ長サノ和トLトノ比

E ハ蔽圍シタル船樓又ハ其ノ一部ニシテ中央部Lノ十分ノ二ノ間ニ在ルモノノ長サ(メートルニテ)

L	修正高ノ限度耗
二〇・ハメートル以トナルトキ	88
三〇・五メートルヲ超ユルトキ	1.25 × L

第三編 鋼船ノ強力

第一章 縦抵抗率及肋骨抵抗率

第七十九條 本編ニ於テ強力甲板トハ中央部Lノ二分ノ一間ニ於テ船體ノ主要部ヲ構造スル最上層ノ甲板ヲ謂フ

第八十條 本編ニ於テ縦抵抗率トハ中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル船體ノ各横截面ノ抵抗率中最小ナルモノヲ謂フ

第八十一條 船體横截面ノ抵抗率ノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 船體横截面ノ水平中性軸ニ對スル惰率ヲ該軸ヨリ強力甲板ノ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ニテ除ス

二 強力甲板以下ニ在リテハ甲板梁ノ支持ヲ目的トスル梁下縦通材ヲ除クノ外中央部Lノ二分ノ一以上ニ達スルカ又ハ同一ノ効力ヲ有スル總テノ縦通鋼材ヲ算入シ強力甲板ノ上方ニ在リテハ梁上側板ニ附スル縦通山形材及舷側厚板ノ延長部ヲ算入ス

三 鉸釘孔及螺釘孔ハ之ヲ無キモノト看做ス

四 面積ノ單位ハ平方ミリメートルトシ距離ノ單位ハメートルトス

第八十二條 本編ニ於テ肋骨抵抗率トハLノ中央部ニ於ケル各種船内肋骨ノ截面ノ抵抗率ヲ謂フ

第八十三條 船内肋骨ノ截面ノ抵抗率ノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 船内肋骨ガ正肋材及之ト同一ノ寸法ノ副肋材ヲ以テ構造シタルモノナルトキハ其ノ截面ノ中性軸ニ對スル惰率ヲ該軸ヨリ截面ノ端ニ至ル距離ニテ除ス

二 船内肋骨ガ前號ニ掲グルモノニ該當セザル場合ニ於テハ船内肋骨ト同一ノ効力ヲ有シ正肋材及

之ト同一寸法ノ副材ヲ以テ構造シタル肋骨ニ付前號ヲ適用ス
 三 鉸釘孔及螺釘孔ハ之ヲ無キモノト看做ス
 四 寸法ノ單位ハミリメートルトス

第二章 標準強力

第八十四條 本章ニ於テ強力甲板マデノ深サトハLノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下ニ在ル強力甲板ノ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ
 第八十五條 第八十六條、第八十八條及第八十九條ノ規定ハ平爐ニ依リ製造セラレ毎平方ミリメートルノ抗張力四一キログラム以上五〇キログラム以下ニシテ標點間ノ長サ二〇三ミリメートルニ付伸長ノ割合百分ノ十六以上ナル鋼材ヲ以テ構造シタル鋼船ニ付之ヲ定メタルモノトス
 第八十六條 標準縱抵抗率ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$f \times d \times B$$

d ハ第二十五條第一項、第九十七條、第一百一條又ハ第九十九條ノ規定ニ依リ定メタル船體ノ形状ニ基ク夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水(メートルニテ)
 f ハLニ應ジ定メタル係數ニシテ左表ニ依ル

f	L
3777	30
4193	36
4892	42
5621	48
6533	54
7470	60
8669	66
9920	72
11253	78
12774	84
14335	90
15897	96
17615	102

第八十七條 前條ノ標準縱抵抗率ハ左ノ各號ノ範圍内ニ在ル寸法ノ鋼船ヲ標準トシ之ヲ定メタルモノトス
 一 Lハ一八二・八メートル以下
 二 BハLノ十分ノ一ニ一・五二メートルヲ加ヘタルモノ以上ニシテLノ十分ノ一ニ六・一〇メートルヲ加ヘタルモノ以下
 三 Lト強力甲板迄ノ深サトノ比ハ一〇・〇〇以上ニシテ一三・五〇以下
 第八十八條 標準肋骨抵抗率ハ第八十九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

備考
Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リfヲ算定ス

f	L
19386	108
21232	114
23106	120
25051	126
27031	132
29146	138
31268	144
33480	150
35770	156
38063	162
40414	168
42868	174
45368	180

S ハ肋骨ノ心距(メートルニテ)
 d ハ第三十五條第一項、第九十七條、第一百一條又ハ第九十九條ノ規定ニ依リ定メタル船體ノ形状ニ基ク夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水(メートルニテ)

t ハ二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル内底板ノ上面ト二重底縁板ノ外側ニ附スル肘板ノ上端トノ中央ヨリ、普通肋板ヲ有スル船舶ニ在リテハ中心線ニ於ケル肋板ノ上面ト船側ニ於ケル肋板ノ上端トノ中央ヨリ龍骨ノ上面迄ノ垂直距離(メートルニテ)

f₁ ハHニ依ル係数ニシテ左表ニ依ル但シ船舶ノ當該部分ノ形状ニ因リ肋骨ガ附加強力ヲ得ル場合ニ於テハ左表ニ依ルモノヨリ適當ニ斟酌シタルモノト爲スコトヲ得

f ₁	H
19050	0
23218	2.1
26234	2.7
31290	3.3
33355	3.9
49551	4.5
60877	5.1
74144	5.7
88564	6.3
104892	6.9
121552	7.5

備考

一 Hハ二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル内底板ノ上面ト二重底縁板ノ外側ニ附スル肘板ノ上端トノ中央ヨリ、普通肋板ヲ有スル船舶ニ在リテハ中心線ニ於ケル肋板ノ上面ト船側ニ於ケル肋板ノ上端トノ中央ヨリ最下層梁ノ梁肘板ノ深サノ中央迄ノ垂直距離(メートルニテ)トス

二 Hガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リf₁ヲ算定ス

f₂ ハKニ依ル係数ニシテ左表ニ依ル

f ₂	K
0	0
1041	1.5
2084	3.0
4133	4.5
6217	6.0
9275	7.5
13358	9.0
18467	10.5
24600	12.0

備考

一 Kハ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離(メートルニテ)ニ船樓アル部分ニ於テハ三・八一〇ヲ、船樓ナキ部分ニ於テハ二・二八六ヲ加ヘタルモノトス

二 Kガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リf₂ヲ算定ス

第八十九條 一層甲板船ニ於テ前條ノ規定ニ依ルHガ五・四九メートル未滿ナルトキハ標準抵抗率ハ前條ニ依リ算定シタル抵抗率ニ左ノ算式ニ依リ算定シタル係數f₂ヲ乗ジタルモノトス

$$f_2 = 0.50 + 0.05 \left(\frac{H}{0.305} - 8 \right)$$

第九十條 前二條ノ標準肋骨抵抗率ハ左ノ各號ノ範圍内ニ在ル寸法ノ鋼船ヲ標準トシ之ヲ定メタルモノトス

- 一 D₀ハ四・五七メートル以上ニシテ一八・二九メートル以下
- 二 BハLノ十分ノ一ニ一・五二メートルヲ加ヘタルモノ以上ニシテLノ十分ノ一ニ六・一〇メートルヲ加ヘタルモノ以下

- 三 Lト強力甲板迄ノ深サトノ比ハ一〇〇以上ニシテ一三・五以下
 - 四 肋骨ノ外面ヨリ之ニ最モ近キ梁柱列ノ中心線迄ノ水平距離ハ六・一〇メートル以下
- 第三章 強力ニ依ル吃水ノ算定
- 第九十一條 縱抵抗率ニ依ル吃水ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$\frac{f \times B}{M} \times 1.1$$

Mハ縱抵抗率

fハ第八十六條ノ規定ニ依ル

第九十二條 肋骨抵抗率ニ依ル吃水ハ各種船内肋骨ニ付各場合ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル吃水中最小ナルモノトス

- 一 一層甲板船ニ於テ第八十八條ノ規定ニ依ルHガ五・四九メートル未満ナル場合

$$\frac{S(f_1 + f_2) \times f_3}{m} + t \quad \times 1.1$$

- 二 前號ニ該當セザル場合

$$\frac{S(f_1 \times f_2)}{m} + t \quad \times 1.1$$

mハ肋骨抵抗率

S、t、 f_1 、 f_2 、及 f_3 ハ第八十八條及第八十九條ノ規定ニ依ル

第九十三條 第八十五條ニ掲グル規格ニ合格セザル材料ヲ以テ船體ノ要部ヲ構造シタル船舶ノ強力ニ依ル吃水ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第四編 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船、槽船及水汽船ノ乾舷ニ關スル特別規定

第一章 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船

第九十四條 船舶ニ標示スル木材滿載吃水線ノ種類及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲グル六種トス

滿載吃水線	乾舷	摘要
夏期木材滿載吃水線	夏期木材乾舷	
冬期木材滿載吃水線	冬期木材乾舷	
冬期北大西洋木材滿載吃水線	冬期北大西洋木材乾舷	冬期北大西洋木材滿載吃水線ハ近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ之ヲ標示セザルモノトス
熱帶木材滿載吃水線	熱帶木材乾舷	
夏期淡水木材滿載吃水線	夏期淡水木材乾舷	
熱帶淡水木材滿載吃水線	熱帶淡水木材乾舷	

第九十五條 前條ニ掲グル各種木材乾舷ハ船舶ガ第百條ノ規定ニ從ヒ甲板積木材貨物ヲ積附ケ運送スル場合ニ限リ夫々第二十一條乃至第二十四條又ハ第二十六條第一項ノ場合ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第九十六條 海水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ハ第二十九條第一項ニ掲グル圓標ノ中心ヨリ後方五四〇ミリメートルノ箇所ニ前縁ヲ有スル垂直線ノ後縁ヨリ後方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上縁ヲ以テ之ヲ標示シ又淡水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ハ該垂直線ノ前縁ヨリ前方ニ向フ長

サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上縁ヲ以テ之ヲ標示スベシ
前項ノ木材滿載吃水線ノ標示ニハ左表ニ掲グル記號ヲ附スベシ

木材滿載吃水線ノ種類	記號
夏期木材滿載吃水線	LS
冬期木材滿載吃水線	LW
冬期北大西洋木材滿載吃水線	LWNA
熱帶木材滿載吃水線	LT
夏期淡水木材滿載吃水線	LF
熱帶淡水木材滿載吃水線	LTF

第九十七條 夏期木材乾舷ハ第三十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ム
此ノ場合ニ於テハ船樓ニ關スル修正高ハ第六十六條ノ表ニ掲グル船樓係數ノ代リニ總テノ船型ニ對シ左表ニ掲グル船樓係數ヲ用キテ之ヲ算定ス

船樓係數	船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比
0.2000	0
0.3075	0.10
0.4150	0.20
0.5225	0.30
0.6300	0.40
0.6925	0.50
0.7550	0.60
0.8175	0.70
0.8750	0.80
0.9375	0.90
1.0000	1.00

備考
船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ插間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

第九十八條 冬期木材乾舷ハ夏期木材乾舷ニ之ニ相當スル吃水ノ三十六分ノ一ヲ加ヘタルモノトス
冬期北大西洋木材乾舷ハL一〇〇・五八メートル以下ノ汽船ニ在リテハ第三十九條ノ規定ニ依ル冬期北大西洋乾舷、L一〇〇・五八メートルヲ超ユル汽船ニ在リテハ第三十八條ノ規定ニ依ル冬期乾舷ニ等シキモノトス

熱帶木材乾舷ハ夏期木材乾舷ヨリ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ減ジタルモノトス
第九十九條 夏期淡水木材乾舷又ハ熱帶淡水木材乾舷ハ夫々夏期木材乾舷又ハ熱帶木材乾舷ヨリ第十四條ノ規定ヲ準用シテ算定シタル修正高ヲ減ジタルモノトス
第四十五條ノ規定ハ冬期淡水木材乾舷及冬期北大西洋淡水木材乾舷ニ之ヲ準用ス
第一百條 甲板積木材貨物ノ積附及積附設備ハ左ノ各號ニ適合スルコトヲ要ス

- 一 乾舷甲板下ノ場所ニ通ズル甲板口ニシテ甲板積木材貨物ニ蔽ハルモノハ艙口梁、縱材、蓋板等ノ閉鎖裝置ヲ夫々所定ノ位置ニ配置シテ固ク之ヲ閉ヂ且帶金ヲ以テ締附クベシ
- 二 甲板積木材貨物ヲ積載スル場所ニ在ル通風管ハ十分ニ之ヲ保護スベシ
- 三 船員室區域、機關室其ノ他船員ノ作業ニ使用スル場所ヘノ通行ニ十分ナル通路ヲ存スベシ該通路ニ當ル開口ノ附近ニ於テハ各開口ヨリ浸水スルコトヲ防グ爲隨時之ヲ閉ヂ且留メ得ル様木材貨物ヲ積付クベシ又甲板積木材貨物ノ上面ハ步行ニ適スル様十分平坦ナラシメ且其ノ各側ニハ貨物

- ノ上方少クトモ一・二メートルノ高さ迄堅ニ三〇センチメートル以内ノ間隔ニ配置セラレタル保護欄干又ハ保護索ヲ設クルコトヲ要ス
- 四 操舵装置ハ木材貨物ニ依リ損傷セラレザル様十分ニ之ヲ保護シ且成ルベク之ニ近寄り易キ様爲シ置クベシ
- 五 乾舷甲板船舶又ハ甲板室ナキ部分ニハ少クトモ船橋樓ノ標準ノ高さニ等シキ高さ迄木材貨物ヲ滿載スベシ但シ船舶ガ冬期ニ於テ季節冬期帯域内ニ在ル場合ニ於テハ木材貨物ノ高さハ乾舷甲板船舶ノ最大幅ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 六 甲板積木材貨物ハ之ヲ密ニ積附ケ縛リ且動カザル様爲スベシ又其ノ積附方ハ船舶ノ航行及必要ナル操作ニ支障ナク且水分ノ吸收ニ依ル木材ノ重量ノ増加竝ニ燃料及倉庫品ノ消費ニ依ル其ノ重量ノ減少其ノ他船内ニ於ケル重量ノ變更ヲ考慮ノ上航海ノ全道程ヲ通ジ復原性ノ十分ナル餘裕ヲ保持シ得ルモノナルコトヲ要ス
- 七 甲板積木材貨物ノ性質ニ依リ支杆ヲ要スル場合ニ於テハ適當ナル強力ヲ有スル木製又ハ金屬製ノ支杆ヲ以テ甲板積木材貨物ヲ支持スベシ支杆ノ間隔ハ三・〇五メートル以内トシ木材ノ長さ及性質ニ應ジ之ヲ適當ニ配置スベシ
- 支杆ハ梁上側板ニ固著シタル堅牢ナル山形材若ハ金屬製臺金又ハ同一效力ノ裝置ニ依リ之ヲ留ムルコトヲ要ス
- 八 甲板積木材貨物ハ三・〇五メートルヲ超エザル間隔毎ニ貨物ノ兩側ニ跨ル各別ノ縛索ニテ縛リ其ノ全長ニ亘リ十分ニ締附クベシ木材ノ長さ三・六六メートル未滿ナルトキハ其ノ長さニ適應シテ縛索ノ間隔ヲ減ズルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ講ズベシ

- 縛索ニハ徑一九ミリメートル以上ノ短環鎖又ハ之ト同等ノ強力ノ柔軟鋼索ヲ使用シ何時ニテモ近寄り得ル箇所ニ於テ之ニ滑鈎及緊螺ヲ取附クベシ尙縛索トシテ鋼索ヲ用ウルトキハ其ノ長さヲ調節スル爲短キ長環鎖ヲ取附ケ置クベシ
- 縛索ヲ一・五メートル以内ノ間隔ニ配置スルトキハ其ノ寸法ヲ前項ニ掲グルモノヨリ適當ニ減ズルコトヲ得但シ鎖ヲ用ウルトキハ徑一二・七ミリメートル以上、索ヲ用ウルトキハ之ト同等以上ノ強力ヲ有スル寸法ノモノナルコトヲ要ス
- 九 縛索ヲ留ムルニ必要ナル裝置ハ縛索ノ強力ニ相當スル強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス
- 十 船樓甲板ニ設クル支杆ハ其ノ間隔ヲ約三・〇五メートルトシ十分ナル強力ノ横縛索ヲ以テ之ヲ動カザル様爲スベシ

第二章 槽船

- 第一百一條 槽船ノ夏期乾舷ハ第一百二條乃至第四百四條ニ規定スル事項ヲ除クノ外第三十五條第一項及第二項ノ規定ニ依リ之ヲ定ム
- 第一百二條 槽船ノ表定乾舷ヲ求ムルニハ第五十條ニ掲グル表ノ代リニ左表ヲ用ウルモノトス

L	乾舷 (耗)	L
126.5	527	56.5
129.0	560	59.0
131.5	593	61.5
131.0	626	64.0
136.5	660	66.5
139.0	695	69.0
141.5	731	71.5
144.0	767	74.0
146.5	804	76.5
149.0	842	79.0
151.5	881	81.5
154.0	921	84.0
156.5	961	86.5
159.0	1003	89.0
161.5	1045	91.5
164.0	1087	94.0
166.5	1129	96.5
169.0	1171	99.0
171.5	1213	101.5
174.0	1256	104.0
176.5	1301	106.5
179.0	1346	109.0
181.5	1391	111.5
184.0	1437	114.0
	1484	116.5
	1531	119.0
	1579	121.5
	1627	124.0

乾舷 (耗)	1680 1732 1785 1839
	1894 19 8 2 01 2053
	2105 2155 2204 2253
	2301 2318 2394 2440
	2484 2528 2572 2613
	2653 2793 2732 2771

備考
Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ乾舷ヲ算定ス

第三百三條 槽船ニ在リテハ船樓ニ關スル修正高ノ算定ニ付テハ第六十六條ノ表ニ掲グル船樓係數ノ代リニ總テノ船型ニ對シ左表ニ掲グル船樓係數ヲ用ウルモノトス

船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比	0	0.10	0.20	0.30	0.40	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	1.00
船樓係數	0	0.070	0.140	0.210	0.310	0.410	0.520	0.630	0.753	0.877	1.000

備考
船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

第四百四條 舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ナル槽船ノ舷弧ニ關スル修正高ノ算定ニ付テハ第七十八條ニ掲グル算式ノ代リニ總テノ船型ニ對シ左ノ算式ヲ用ウルモノトス

$$(S - S_0) \frac{(L_0 - S_1)}{L_0} \text{ 又は } S_0$$

$$S \text{ ハ舷弧ノ平均高(センチメートルニテ)}$$

$$S_0 \text{ ハ舷弧ノ標準平均高(センチメートルニテ)}$$

第五條 L_1 ハ船樓ノ長サノ和トLトノ比

第六百五條 槽船ノ冬期北大西洋乾舷ハ冬期乾舷ニ船ノ長サ一〇メートルニ付八・三三ミリメートルノ割合ノ修正高ヲ加ヘタルモノトス

第三章 木汽船
第六百六條 木汽船ノ夏期乾舷ハ第二編第一章ノ規定ニ依ル平甲板船ニ對スル表定乾舷ヲ必要ニ應ジ第六百七條ノ規定ニ依リ修正シタルモノニ船舶ノ構造ノ種類ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジタルモノトス

構造ノ種類	係數
重 甲 板 船	1.40
輕 甲 板 船	2.00

管海官廳ハ船體ノ材料、構造、固著方、工事若ハ現狀ノ良否又ハ船齡ニ應ジ前項ノ係數ヲ適當ニ増減スルコトヲ得

第六百七條 木汽船ノ夏期乾舷ハ前條ノ規定ニ拘ラズ第二編ノ規定ヲ適用シテ算定シタル夏期乾舷ヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ第二編ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ船樓ニ關スル修正ハ管海官廳ニ於テ船樓ノ構造及其ノ閉鎖裝置ヲ適當ト認メタル場合ニ限り之ヲ爲スモノトス

第五編 帆船ノ乾舷ニ關スル特別規定
第一章 鋼帆船

第百八條 Lノ中央ニ於ケル船底勾配ガ八分ノ一ヨリ大ナル鋼帆船ニ在リテハDハ其ノ下端ガ第六條第一項ニ規定スル點ヨリ上方左ノ算式ニ依リ算定シタル高サニ相當スル箇所ニ在ルモノト看做シ之ヲ測ルコトヲ得

$$\frac{1}{2} \left(R - \frac{1}{8} \right) \times \frac{B}{2}$$

RハLノ中央ニ於ケル船底勾配但シ其ノ勾配ガ二十四分ノ五ヲ超ユルトキハ二十四分ノ五第百九條 鋼帆船ノ海水乾舷ハ第三十五條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ表定乾舷ノ決定並ニ船樓及D₀トLトノ比ニ關スル修正ニ付テハ第百十條乃至第百十二條ノ規定ニ依ル

第百十條 鋼帆船ノ表定乾舷ハ肥瘠係數ガ〇・六二以下ナルトキハLニ應ジ左表ニ依リ求メタル乾舷トシ肥瘠係數ガ〇・六二ヲ超ユルトキハ該乾舷ニ左ノ算式ニ依リ算定シタル係數ヲ乘ジタルモノトス

$$C + 0.62$$

$$\frac{1.24}{L}$$

Cハ肥瘠係數但シ肥瘠係數ガ〇・七二ヲ超ユルトキハ〇・七二

乾舷 (耗)	L
228	21.0
265	26.5
304	29.0
345	31.5
387	34.0
431	36.5
475	39.0
520	41.5
565	44.0
612	46.5
660	49.0
710	51.5
760	54.0
810	56.5
860	59.0
910	61.5
962	64.0
1014	66.5
1067	69.0
1120	71.5
1174	74.0
1229	76.5
1284	79.0
1341	81.5
1399	84.0
1457	86.5
1515	89.0
1573	91.5
1632	94.0
1692	96.5
1752	99.0
1813	101.5

備考 Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ乾舷ヲ算定ス

第百十一條 鋼帆船ニ在リテハ船樓ニ關スル修正高ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

$$e [76 + 8.336(L - 24.4)] \text{ ミリメートル}$$

LハL二四・四メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ二四・四、L一〇〇・五八メートルヲ超ユル船舶ニ在リテハ一〇〇・五八

eハ船樓係數ニシテ左表ニ依ル

船型	船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比	
	甲	乙
船橋樓ヲ有セザル鋼帆船	0	0
有效ノ長サガLノ十分ノ二以上ナル船橋樓ヲ有スル鋼帆船	0.070	0.10
	0.170	0.20
	0.235	0.30
	0.300	0.40
	0.375	0.50
	0.450	0.60
	0.525	0.70
	0.600	0.80
	0.675	0.90
	0.750	1.00

備考 一 船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス
二 有效ノ長サガLノ十分ノ二未滿ナル船橋樓ヲ有スル鋼帆船ニ在リテハ甲欄及乙欄ニ掲グル係數ノ間ニ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

第百十二條 D₀ガLノ十二分ノ一ヲ超ユル鋼帆船ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

$$1.093 \times (D_0 - \frac{L}{12}) (76.20 + L) \text{ ㄹリマー トル}$$

第二章 木帆船

第百十三條 木帆船ノ海水乾舷ハ第百六條ノ規定ニ依リ算定シタル夏期乾舷ニ等シキモノトス
 第百十四條 木帆船ノ海水乾舷ハ前條ノ規定ニ拘ラズ當該船舶ヲ鋼帆船ト看做シ本編第一章ノ規定ヲ適用シテ算定シタル海水乾舷ヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ本編第一章ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ船樓ニ關スル修正ハ管海官廳ニ於テ船樓ノ構造及其ノ閉鎖裝置ヲ適當ト認メタル場合ニ限り之ヲ爲スモノトス

第六編 船舶ノ構造及設備

第一章 通則

第百十五條 第三十五條第一項又ハ第百九條ノ規定ニ依リ乾舷ノ指定ヲ受クル鋼船、木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船及槽船ノ構造及設備ニ付テハ本編ノ規定ニ依リ
 強力ニ依ル吃水、船舶所有者ノ豫定シタル吃水ノ限度等ニ依リ第三十五條第一項又ハ第百九條ノ規定ニ依ル乾舷ヨリ大ナル乾舷ノ指定ヲ受クル鋼船ニ付テハ管海官廳ハ乾舷ノ増加ノ程度ニ應ジ本編第二章乃至第五章ノ規定ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得
 第百十六條 木船ニ付テハ其ノ性質上適當ニシテ且實際上可能ナル範圍内ニ於テ前條ノ規定ヲ準用ス
 第百十七條 本編ノ規定ニ該當セザル構造又ハ設備ハ管海官廳ニ於テ本編ノ規定セルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本編ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二章 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル艙口其ノ他ノ甲板口

第百十八條 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル艙口ノ縁材ノ高サハ艙口ノ種類ニ應ジ左表ニ掲グルモノ以上ト爲スベシ

艙口ノ種類	艙口ヲ設ケタル甲板ノ種類及位置		縁材ノ甲板上ノ高サ(耗)
	第一種	第二種	
第一種	暴露セル船樓甲板	船首ヨリLノ四分ノ一ニ相當スル箇所迄ノ場所 船首ヨリLノ四分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ後方ノ場所	610
第二種	閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板	閉鎖裝置ノ效力ガ第二級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船内	457
第三種	閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板	閉鎖裝置ノ效力ガ第二級閉鎖裝置ノ效力ニ及ハサル船樓内	220

第百十九條 艙口ノ縁材ハ鋼材ヲ以テ堅牢ニ構造スルコトヲ要ス

第一種艙口ノ縁材ニ在リテハ其ノ上縁ヨリ下方二五四ミリメートルニ相當スル箇所ヨリ低カラザル位置ニ横防撓材ヲ取附ケ且艙口ノ長サ又ハ幅ガ三・〇五メートルヲ超ユルトキハ該防撓材ヨリ甲板ニ達スル肘板又ハ支柱ヲ三・〇五メートル以内ノ間隔ニ設ケ縁材ヲ補強スベシ但シ船樓等ニ依リ保護セララル端縁材ニ付テハ其ノ補強方法ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百二十條 暴露セル艙口ニハ有效ナル蓋板ヲ備ヘ支面ノ幅六三三ミリメートル以上ノ支材ヲ以テ之ヲ支フル裝置ト爲スベシ

艙口蓋板ヲ木製ト爲ス場合ニ於テハ其ノ仕上ノ厚サハ支點ノ間隔一・五二メートル以内ナルトキ少クトモ六〇ミリメートルト爲スベシ

第百二十一條 木製蓋板ヲ備フル暴露艙口ノ艙口梁及縦材ノ心距及寸法ハ第一種艙口ニ在リテハ左ニ掲グル甲板表ニ依リ、第二種艙口ニ在リテハ左ニ掲グル乙表ニ依ルベシ

表 乙

		梁 口 輪					山 附 上 又 球 形 上 部 板 材 二 部 板 上 部 重 ニ ノ 部	
ノ 輪 (R)	幅 口	(R) 距 心 / 梁 口 輪						
		1 2 5	1 5 9	1 8 3	2 4 4	3 0 5		
		(R) 寸 厚 205 x 10	(R) 寸 厚 230 x 11	(R) 寸 厚 241 x 11.5	(R) 寸 厚 267 x 12.5	(R) 寸 厚 292 x 13		(R) 寸 厚 75 x 7.5 = 10
3.05	球							
3.66	板	230 x 11	254 x 12.5	280 x 12.5	280 x 7.5	300 x 8.5	75 x 7.5 x 10	
4.27		254 x 12.5	292 x 12.5	290 x 7.5	300 x 8	351 x 8.5	75 x 7.5 x 10.5	
4.88	平	290 x 7.5	290 x 7.5	305 x 8	381 x 8.5	432 x 9	90 x 7.5 x 10.5	
5.49		290 x 7.5	305 x 8	356 x 8.5	432 x 9	483 x 9.5	100 x 7.5 x 11	
6.10		305 x 8	330 x 8.5	406 x 9	483 x 9.5	533 x 9.5	100 x 7.5 x 11	
6.71		315 x 8	356 x 8.5	432 x 9	508 x 9.5	584 x 10	115 x 7.5 x 11.5	
7.32		330 x 8.5	368 x 8.5	457 x 9	533 x 9.5	635 x 10	130 x 90 x 11.5	
7.93		344 x 8.5	381 x 8.5	453 x 9.5	559 x 9.5	660 x 10.5	140 x 90 x 13	
8.54		板	356 x 8.5	406 x 9	508 x 9.5	584 x 10	686 x 10.5	150 x 90 x 12.5
9.14			381 x 8.5	432 x 9	535 x 9.5	610 x 10	711 x 10.5	150 x 90 x 13

		材 梁 尖 中						
材 梁 尖 中	(R) 距 心 / 材 梁	材 梁 板 球			材 梁 製 木			
		(R) 距 心 / 材 梁			(R) 距 心 / 材 梁			
		0.9 1	1.2 2	1.5 2	0.9 1	1.2 2	1.5 2	
1.83	(R) 寸 厚 130 x 8.5	(R) 寸 厚 140 x 8.5	(R) 寸 厚 150 x 9	65 x 65 x 9	(R) 寸 厚 130 x 180	(R) 寸 厚 140 x 180	(R) 寸 厚 150 x 180	
2.44	150 x 9.5	180 x 10	190 x 10.5	65 x 65 x 9.5	180 x 180	165 x 180	180 x 180	
3.05	180 x 11	200 x 11.5	230 x 12.5	65 x 65 x 10	180 x 180	190 x 180	200 x 180	

		材 梁 側 兩						
材 梁 側 兩	(R) 距 心 / 材 梁	材 梁 形 山 球			材 梁 製 木			
		(R) 距 心 / 材 梁			(R) 距 心 / 材 梁			
		0.9 1	1.2 2	1.5 2	0.9 1	1.2 2	1.5 2	
1.83	(R) 寸 厚 130 x 7.5 x 8.5	(R) 寸 厚 140 x 7.5 x 8.5	(R) 寸 厚 150 x 7.5 x 9	65 x 65 x 9	(R) 寸 厚 130 x 180	(R) 寸 厚 140 x 180	(R) 寸 厚 150 x 180	
2.44	150 x 7.5 x 9.5	180 x 7.5 x 10	190 x 90 x 10.5	65 x 65 x 9.5	150 x 180	165 x 180	180 x 180	
3.05	180 x 7.5 x 11	200 x 90 x 11.5	230 x 90 x 12.5	65 x 65 x 10	180 x 180	190 x 180	200 x 180	

表 甲

		梁 口 輪					山 附 上 又 球 形 上 部 板 材 二 部 板 上 部 重 ニ ノ 部	
ノ 輪 (R)	幅 口	(R) 距 心 / 梁 口 輪						
		1 2 5	1 5 9	1 8 3	2 4 4	3 0 5		
		(R) 寸 厚 250 x 11.5	(R) 寸 厚 284 x 12.5	(R) 寸 厚 292 x 7.5	(R) 寸 厚 305 x 8	(R) 寸 厚 330 x 8.5		(R) 寸 厚 75 x 7.5 x 10
3.05	球							
3.66	板	280 x 12.5	305 x 12.5	335 x 8	356 x 8.5	432 x 9	75 x 7.5 x 10	
4.27		305 x 12.5	305 x 8	356 x 8.5	431 x 9	508 x 9.5	75 x 7.5 x 10.5	
4.88	平	305 x 8	356 x 8.5	406 x 9	483 x 9.5	584 x 10	90 x 7.5 x 10.5	
5.49		360 x 8.5	406 x 9	457 x 9	533 x 9.5	635 x 10	100 x 7.5 x 11	
6.10		38 x 8.5	457 x 9	508 x 9.5	610 x 10	711 x 10.5	100 x 7.5 x 11	
6.71		406 x 9	483 x 9	559 x 9.5	660 x 10.5	762 x 11	115 x 7.5 x 11.5	
7.32		432 x 9	508 x 9.5	581 x 10	711 x 10.5	813 x 11	130 x 90 x 11.5	
7.93		457 x 9	538 x 9.5	610 x 10	736 x 10.5	854 x 11.5	140 x 90 x 12	
8.54		板	483 x 9.5	559 x 9.5	635 x 10	767 x 11	915 x 12	150 x 90 x 12.5
9.14			508 x 9.5	584 x 10	660 x 10.5	813 x 11	965 x 12	150 x 90 x 13

		材 梁 尖 中						
材 梁 尖 中	(R) 距 心 / 材 梁	材 梁 板 球			材 梁 製 木			
		(R) 距 心 / 材 梁			(R) 距 心 / 材 梁			
		0.9 1	1.2 2	1.5 2	0.9 1	1.2 2	1.5 2	
1.83	(R) 寸 厚 150 x 9.5	(R) 寸 厚 165 x 9.5	(R) 寸 厚 180 x 9.5	65 x 65 x 9	(R) 寸 厚 140 x 180	(R) 寸 厚 150 x 180	(R) 寸 厚 165 x 180	
2.44	180 x 10.5	200 x 11	230 x 11	65 x 65 x 9.5	165 x 180	190 x 180	200 x 180	
3.05	200 x 12.5	240 x 12.5	280 x 12.5	65 x 65 x 10	200 x 180	215 x 200	230 x 230	

		材 梁 側 兩						
材 梁 側 兩	(R) 距 心 / 材 梁	材 梁 形 山 球			材 梁 製 木			
		(R) 距 心 / 材 梁			(R) 距 心 / 材 梁			
		0.9 1	1.2 2	1.5 2	0.9 1	1.2 2	1.5 2	
1.83	(R) 寸 厚 150 x 7.5 x 9.5	(R) 寸 厚 165 x 90 x 9.5	(R) 寸 厚 180 x 90 x 9.5	65 x 65 x 9	(R) 寸 厚 130 x 180	(R) 寸 厚 140 x 180	(R) 寸 厚 150 x 180	
2.44	180 x 90 x 10.5	200 x 7.5 x 11	230 x 90 x 11	65 x 65 x 9.5	165 x 180	190 x 180	200 x 180	
3.05	200 x 90 x 12.5	240 x 90 x 12.5	280 x 90 x 12.5	65 x 65 x 10	200 x 180	215 x 200	230 x 230	

備考

一 船口ノ幅、船口梁ノ心距又ハ縱材ノ長サ若ハ心距ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ船口梁又ハ縱材ノ寸法ハ挿開法ニ依リ之ヲ定ム

二 船口梁ノ深サハ其ノ長サノ中央ニ於テ上部山形材ヨリ梁ノ下縁迄測リタルモノ、縱材ノ深サハ船口蓋板ノ下面ヨリ縱材ノ下縁迄測リタルモノトス

Lガ三〇・五メートル以下ノ船舶ニ在リテハ平板及山形材ヲ以テ構造シタル船口梁ノ深サハ船口ノ種類ニ應ジ前項ノ甲表又ハ乙表ニ掲グルモノノ十分ノ六、球板及山形材ヲ以テ構造シタル船口梁竝ニ球山形縱材ノ深サハ同表ニ掲グルモノノ十分ノ八ト爲シ平板、球板及球山形材ノ厚サハ其ノ深サニ對シ同表ニ掲グル厚サニ等シクシ又木製縱材ノ深サ及幅ハ同表ニ掲グルモノノ十分ノ八ト爲スコトヲ得但シ平板、球板及球山形材ノ厚サハ七・五ミリメートルヨリ又中央木製縱材ノ幅ハ一六五ミリメートルヨリ小ナルコトヲ得ズ

Lガ三〇・五メートルヲ超エ六一メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ船口梁及縱材ノ寸法ハ船口ノ種類ニ應ジ第一項ニ依ルモノト前項ニ依ルモノトノ間ニ挿開法ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十二條 船口梁ヲ構造スル球板ノ上部又ハ平板ノ上下兩部ニ附スル山形材ノ兩邊ノ幅相等シカラザルトキハ廣邊ヲ水平ニ置クベシ又上部ノ山形材ハ梁ノ全長ニ連續シテ通達セシメ縱材ヲ支フル爲之ヲ屈折セシムルコトヲ得ズ

木製縱材ハ其ノ支面ヲ鋼板ニテ包ムベシ

第百二十三條 船口梁及縱材ヲ支フル承金又ハ臺金ハ厚サ一二・五ミリメートル以上支面ノ幅七五ミリメートル以上ニシテ鋼製ノモノナルコトヲ要ス

第百二十四條 暴露セル船口ノ緣材ニハ其ノ外面ニ於テ六一〇ミリメートル以内ノ心距ニ幅六三ミリメートル以上ノ堅牢ナル帶金承ヲ取附ケ且端末ノモノハ船口ノ各隅ヨリ一五〇ミリメートル以内ノ箇所ニ之ヲ置クベシ

帶金及楔ハ船口ヲ閉鎖スル爲有效ノモノニシテ良好ナル状態ニ在ルコトヲ要ス

第百二十五條 暴露セル各船口ニハ船口覆布試驗規程ニ依ル甲種覆布二枚以上ヲ備フベシ

第百二十六條 暴露セル船口ニハ蓋板ヲ締附クル爲環附螺釘ヲ備フルカ又ハ其ノ他ノ裝置ヲ爲スベシ船口ノ箇所ニ於ケル甲板ノ幅ノ百分ノ六十ヲ超ユル幅ノ第一種船口ニ在リテハ特別ノ締附裝置ヲ備フベシ

第百二十七條 閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板ニ於ケル船口ニハ第百二十條乃至第百二十五條ニ規定スル閉鎖裝置ヲ備フベシ此ノ場合ニ於テハ船口梁及縱材ノ寸法及心距ニ付テハ第二種船口ニ對シテハ暴露セル第一種船口、第三種船口ニ對シテハ暴露セル第二種船口ニ關スル規定ニ依ル

第百二十八條 本章前各條ノ規定ハ載炭口ニ之ヲ準用ス

第百二十九條 船樓甲板ニハ平載炭孔ヲ設クルコトヲ得又特殊ノ航路ニ使用スル小形船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ乾舷甲板ニモ之ヲ設クルコトヲ得

前項ノ平載炭孔ノ枠及蓋ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ堅牢ナル構造ノモノナルコトヲ要シ又蓋ハ螺込止又ハ挿込止ノモノトシ蝶番ニ依リ枠ニ取附クルカ又ハ鎖ヲ以テ枠ニ連結シ置クベシ

第百三十條 乾舷甲板ノ暴露部又ハ蔽圍シタル船樓ノ甲板ノ暴露部ニ於ケル昇降口室ハ堅牢ナル構造ノモノナルコトヲ要シ船首ヨリLノ四分ノ一以内ノ箇所ニ在ルトキハ之ヲ鋼製トシ鉸釘ヲ以テ鋼甲

板ニ固著スルコトヲ要ス

前項ノ昇降口室ニ於ケル戸口ノ縁材ノ高サハ昇降口ノ位置ニ應ジ第百十八條ニ定ムル艙口縁材ノ高サ以上ト爲シ戸ハ堅牢ニシテ其ノ兩側ヨリ閉鎖定著シ得ルモノト爲スコトヲ要ス

第三章 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口、通風筒及空氣管

第百三十一條 暴露セル乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口ハ之ヲ適當ニ構造シ且堅牢ナル鋼製圍壁ヲ以テ蔽圍スルコトヲ要ス

乾舷甲板又ハ低船尾樓甲板上ノ機關室圍壁ニシテ他ノ建設物ニ依リ保護セラレザルモノハ特ニ其ノ強力ヲ十分ナラシムベシ

焚火室口、煙筒及通風筒ノ縁材ハ適當ニシテ且實際上可能ナル限り暴露甲板上高キ位置ニ之ヲ設ケ又焚火室口ニハ常設的ニ取附ケタル堅牢ナル鋼製蓋ヲ備フベシ

第百三十二條 閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板ニ於ケル機關室口ハ之ヲ適當ニ構造シ且鋼製圍壁ヲ以テ蔽圍スルコトヲ要ス

第百三十三條 前二條ノ機關室口圍壁ニ設ケル戸口ノ縁材ノ高サハ左表ニ掲グルモノ以上ナルコトヲ要ス

機關室口圍壁ヲ設ケタル甲板ノ種類及位置	縁材ノ甲板上ノ高サ(耗)
暴露セル乾舷甲板	610
暴露セル低船尾樓甲板	457

低船尾樓甲板以外ノ暴露セル船樓甲板	閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板	閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板
	380	229

前項ノ戸口ニ設ケル戸ハ堅牢ナル構造トシ常設的ニ圍壁ニ取附ケタルモノナルコトヲ要シ暴露セル場所ニ設ケラルルトキハ之ヲ兩側ヨリ閉鎖定著シ得ルモノナルコトヲ要ス

第百三十四條 暴露セル乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル通風筒ニシテ乾舷甲板下ノ場所又ハ閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力以上ナル船樓内ノ場所ニ通ズルモノニハ鋼製ノ堅牢ナル縁材ヲ備ヘ釘徑ノ四倍ノ心距ニ配置セラレタル鉸釘ニ依リ又ハ同一效力ノ方法ニ依リ之ヲ甲板ニ固著シ縁材ノ底部ニ當ル鋼甲板ハ甲板梁ノ間ニ於テ十分ニ之ヲ防撓スルコトヲ要ス

前項ノ通風筒ノ口ニハ有效ナル閉鎖裝置ヲ備フベシ

第百三十五條 前條ノ通風筒ノ縁材ノ高サハ通風筒ノ閉鎖裝置ガ一時的ノモノナルトキハ暴露セル乾舷甲板又ハ船首ヨリLノ四分ノ一ノ箇所迄ノ船樓甲板ニ在リテハ九一五ミリメートル以上、其ノ他ノ暴露船樓甲板ニ在リテハ七六〇ミリメートル以上ナルコトヲ要ス

通風筒ノ縁材ハ其ノ高サガ九一五ミリメートルヲ超ユルトキハ特別ニ之ヲ支持シ且固著セシムベシ第百三十六條 脚荷水槽其ノ他ノ槽ニ通ズル空氣管ガ乾舷甲板又ハ船樓甲板ノ上方迄達スル場合ニ於

テハ管ノ暴露部ハ堅牢ナルモノナルコトヲ要シ且管口ヲ閉鎖スル爲十分ナル設備ヲ爲スコトヲ要ス又「ウエル」ニ於テハ甲板ヨリ管口迄ノ高サハ乾舷甲板上ニ在リテハ九一五ミリメートル以上、低船尾樓甲板上ニ在リテハ七六〇ミリメートル以上、其ノ他ノ船樓甲板上ニ在リテハ四五七ミリメートル以上ト爲スベシ

第四章 乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル開口

第三百三十七條 乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル舷門、載貨門、載炭門等ニハ水密ナル戸又ハ蓋ヲ備フベシ此等ノ戸又ハ蓋ハ之ヲ定著スル裝置ヲ有シ且十分ナル強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第三百三十八條 乾舷甲板下ノ場所ヨリ船側ヲ貫通スル各排出管ニハ自働不還弁二箇ヲ備へ中一箇ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ之ヲ設置スベシ但シ弁ガ容易ニ近寄り得ル場所ニ在リテ乾舷甲板上ノ場所ヨリ之ヲ閉チ得ル裝置ヲ有シ且該場所ニ弁ノ開閉ヲ示ス裝置ヲ備フルトキハ自働不還弁一箇ノミナルモ妨ナシ

船側ニ取附クル弁ハ鑄鐵製ナルコトヲ得ズ

第三百三十九條 閉鎖裝置ノ効力ガ第一級閉鎖裝置ノ効力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板ニ排水管ヲ設ケタルトキハ乾舷甲板下ノ場所ニ不意ニ浸水スルコトヲ防グ爲適當ナル裝置ヲ爲スベシ

第四百十條 海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一五二ミリメートル未満ノ箇所ニ下縁ヲ有スル舷窓ハ舷窓試驗規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要シ又海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一・二二メートル未満ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設ケル舷窓ハ同規程ニ適合スル乙種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

前項ニ掲グルモノノ外乾舷甲板下ノ場所又ハ閉鎖裝置ノ効力ガ第二級閉鎖裝置ノ効力ト同等以上ナル

ル船樓内ノ場所ニ設ケル舷窓ニハ蝶番ニ依リ取附ケタル内蓋ヲ備へ完全ニ水密トナル構造ト爲スベシ但シ雜居三等旅客ニ非ザル旅客又ハ船員ニ專用スル船樓内ノ容易ニ近寄り得ル場所ニ設ケル舷窓ノ内蓋ハ取外シ得ルモノト爲スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ内蓋ヲ常ニ舷窓ノ近クニ備置ク爲ノ裝置ヲ爲スベシ
第二項ノ舷窓ノ枠ハ黃銅、鑄鋼其ノ他適當ナル金屬ヲ以テ堅牢ニ構造シタルモノナルコトヲ要シ之ヲ鑄鐵製ト爲スベカラズ又蝶番ノ軸針及締附螺釘ハ黃銅製ナルコトヲ要ス

第五章 船樓端ノ隔壁、船員ノ保護裝置及放水口

第四百十一條 標準ノ高サヲ有スル船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ノ暴露セル端ニ於ケル隔壁ハ其ノ厚サヲ左表ニ掲グルモノ以上ト爲シ同表ニ掲グル寸法ノ防撓材ヲ七六センチメートル以内ノ心距ニ豎ニ取附ケ之ヲ防撓シタルモノナルコトヲ要ス

船滿載吃水線規程

船橋樓ノ前 端及Lノ十 分ノ四以上ノ 長サヲ有スル 船尾樓ノ保護 セラレザル隔 壁		
板	壁	隔
L	サ	L
48.75 以下	(耗) 7.5	61.00 以下
122.00 以上	11.0	115.80 以上
ノ材撓防		
L	材形山球	L
45.70 未滿	(耗) 140×75×7.5	43.75 未滿
45.70	150×75×8	43.75
61.00	165×75×8.5	61.00
76.20	180×75×9	73.20
91.45	190×75×9.5	85.35
106.70	205×75×10	97.55
121.90	215×75×10.5	109.75
137.15	230×75×11	121.90
152.40	240×90×11.5	131.10
167.65	255×90×12	143.30
	256×90×12.5	153.50
	230×90×13	170.70

Lノ十分ノ四 未滿ノ長サヲ 有スル船尾樓 ノ隔壁		船首樓及船橋		樓ノ後端隔壁	
サ		厚		ノ	
サ	厚	L	サ	厚	ノ
(耗)	5.0	43.75 以下	(耗)	6.0	
	7.5	122.00 以上		9.5	
法 寸 及 類 種					
材 形 山	L	材 形 山			
(耗)	43.70 未滿	(耗)			
65×65×6.5		75×65×7.5			
75×65×7	45.70	90×65×8			
90×75×7.5	76.20	100×75×8.5			
100×75×8	106.70	115×75×9			
		130×75×9.5			
		140×75×10.5			
		150×75×11			
		165×90×11.5			
		180×90×12			
		180×90×12.5			

備考
Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ隔壁板ノ厚サ及防撓材ノ寸法ハ挿間法ニ依リ之ヲ定ム

第四百二十二條 前條ノ規定ニ依リ船尾樓及船橋樓ノ前端隔壁ニ設ケタル防撓材ノ上下兩端ハ短山形材ヲ以テ之ヲ甲板ニ固著セシムルコトヲ要シ又船首樓及船橋樓ノ後端隔壁ニ於ケル防撓材ハ隔壁ノ縁山形材間ノ全距離ニ互リ之ヲ取附クルコトヲ要ス

第四百十三條 平甲板船ノ乾舷甲板ニ設ケタル居住用ノ甲板室ノ周壁ハ前二條ニ規定スルモノト同等ノ強力ヲ有スル構造ト爲スベシ

第四百十四條 乾舷甲板及船樓甲板ノ暴露セル部分ニハ適當ノ保護欄干又ハ舷牆ヲ設クベシ

第四百十五條 船員室區域ニ出入スル船員ヲ保護スル爲適當ナル通路、保護索又ハ其ノ他ノ設備ヲ爲スベシ

第四百十六條 乾舷甲板上又ハ船樓甲板上ノ暴露部ニ於ケル舷牆ガ「ウエル」ヲ形成スルトキハ之ニ十分ナル放水口ヲ設クベシ

前項ノ放水口ハ其ノ全面積ヲ乾舷甲板上及低船尾樓甲板上ノ場所ニ在リテハ左表ニ掲グルモノ以上其ノ他ノ船樓甲板上ノ場所ニ在リテハ左表ニ掲グルモノノ二分ノ一以上ト爲シ且全面積ノ三分ノ一ハ船ノ中央寄ニ於ケル舷牆ノ半部ニ之ヲ設クベシ

各舷ニ於ケル舷牆ノ長 サ(米)	4	6	8	10	12	14	16	18	20
各舷ニ設クベキ放水口 ノ全面積(平方米)	0.726	0.787	0.846	0.909	0.970	1.031	1.092	1.153	1.220
備考 舷牆ノ長サガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ放水口ノ面積ヲ算定ス									20ヲ超ユルトキ
									舷牆ノ長サ一米ニ付 0.061平方 米ノ割合

放水口ノ面積ハ舷弧ノ高サガ標準舷弧ノ高サヨリ小ナル船舶ニ在リテハ前項ニ規定スルモノヨリ適當ニ之ヲ増スコトヲ要シ又「ウエル」ノ長サガLノ十分ノ七ヲ超ユルトキハ適當ニ之ヲ減ズルコトヲ得

第六十一條第一號ニ該當スル船樓内ニ於テハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ位置ニ適當ノ放水口ヲ設クベシ

第四百七條 放水口ハ甲板成ルベク低キ位置ニ之ヲ設クルコトヲ要シ其ノ下縁ハ舷縁山形材ノ上縁ヨリ高カラザル様爲スベシ

放水口ニハ約二三センチメートルノ間隔ニ柵又ハ横棒ヲ取附クベシ又戸ヲ取附ケタルトキハ梗塞ノ虞ナキ構造ト爲シ且蝶番ハ黃銅製軸針ヲ有スルモノト爲スベシ

第六章 木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船

第四百十八條 本章ノ規定ハ木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船ニ之ヲ適用ス

第四百十九條 船體ノ構造ハ甲板積木材貨物ノ重量ニ對シ十分ナル強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第四百十條 船舶ハ標準ノ高サ以上ノ高サ及Lノ百分ノ七以上ノ長サノ船首樓ヲ有シ且船尾樓又ハ堅牢ナル鋼製ノ「フールド」若ハ甲板室ヲ後部ニ備フル低船尾樓ヲ有スルコトヲ要ス

第四百十一條 乾舷甲板上ノ機關室圍壁ハ其ノ側ニ木材貨物ヲ積載スルニ十分ナル強力及高サノモノナルカ又ハ標準ノ高サ以上ノ高サノ船樓ヲ以テ保護セラルルモノナルコトヲ要ス

第四百十二條 中央部Lノ二分ノ一間ニ二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ該部分ノ二重底槽ハ適當ナル縦區畫ヲ有スルコトヲ要ス

第四百十三條 木材貨物ヲ積載スル甲板ニハ高サ九九センチメートル以上ニシテ上縁ニ於テ特ニ防撓セラレ且十分ナル放水口ヲ有スル舷牆ヲ備フルカ又ハ之ト同一ノ高サニシテ特ニ堅牢ナル構造ノ欄干ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ舷牆ニハ梁ノ箇所ニ於テ甲板ニ固著シタル堅牢ナル支柱ヲ取附クベシ

第四百十四條 船舶ニハ有效ナル補助操舵裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第四百十五條 甲板積木材貨物ノ兩側ニ跨ル縛索ヲ留ムル眼附板ハ三〇五メートル以内ノ間隔ニテ

且船樓端ノ隔壁ヨリ最初ノ眼附板迄ノ距離ガ一・九八メートルヲ超エザル様配置シ鉸釘ヲ以テ之ヲ舷側厚板ニ固著セシムベシ但シ追加ノ眼附板ハ之ヲ梁上側板ニ取附クルモ妨ナシ
縛索用眼附板ハ縛索ノ強力ニ相當スル強力ヲ有スルモノト爲スベシ

第七章 槽船

第四百十六條 本章ノ規定ハ槽船ニ之ヲ適用ス

第四百十七條 槽船ハ標準ノ高サ以上ノ高サ及Lノ百分ノ七以上ノ長サノ船首樓ヲ有スルコトヲ要ス

第四百十八條 乾舷甲板上ノ機關室圍壁ハ標準ノ高サ以上ノ高サノ蔽圍シタル船橋樓若ハ船尾樓又ハ之ト同一ノ高サ及同等ノ強力ヲ有スル甲板室ニ依リ之ヲ保護スルコトヲ要シ又該圍壁ノ開口ニハ鋼製ノ戸ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ船樓又ハ甲板室ハ其ノ端ニ於テ第四百四十一條及第四百四十二條ニ規定スル船橋樓前隔壁ト同様ノ構造ノ隔壁ヲ備ヘ之ニ設クル出入口ニハ甲板上四五七ミリメートル以上ノ高サノ縁材ヲ設ケ且有效ナル閉鎖裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第四百十九條 船尾樓ト船橋樓トノ間ニハ甲板下ノ通路ヲ利用シ得ル場合又ハ同一效力ノ通路設備ヲ備フル場合ヲ除ク外船樓甲板ト同一ノ高サヲ有スル堅牢ナル常設歩路ヲ備フルコトヲ要ス船員室

ヲ船首ニ設ケタル槽船ニ在リテハ船橋樓ト船首樓トノ間ニ付亦同ジ
前項ノ歩路ト船員室區域、機關室其ノ他船舶ノ操作ニ必要ナル場所トノ間ニハ何時ニテモ利用シ得ル安全ナル通路ヲ設クベシ但シ乾舷甲板ヨリ直接出入スル「ボンブ」室ニシテ第五十三條ノ規定ニ適合スル閉鎖裝置ヲ備フルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四百十條 乾舷甲板及膨脹「トランク」甲板上ノ艙口ニハ有效ナル鋼製蓋ヲ以テ水密ニ閉鎖スル裝置

ヲ備フベシ

第六十一條 乾舷甲板ニ設クル通風筒ハ十分ナル強力ヲ有スルモノト爲スカ又ハ船樓若ハ同一效力ノ設備ニ依リ之ヲ保護スベシ

第六十二條 甲板ノ暴露部ニ於テハ該部分ノ長サノ二分ノ一以上ノ間ヲ開放欄干ト爲スカ又ハ該部分ニ設クル舷牆ニハ特ニ有效ナル放水装置ヲ備フベシ

船樓ト「トランク」トガ連續シタル槽船ニ在リテハ乾舷甲板ノ暴露部ノ全長ニ互リ開放欄干ヲ設クルコトヲ要ス

第六十三條 舷側厚板ノ上縁ハ實際上差支ナキ限り低キコトヲ要シ成ルベク舷縁山形材ノ上縁ヨリ高カラシメザルコトヲ要ス

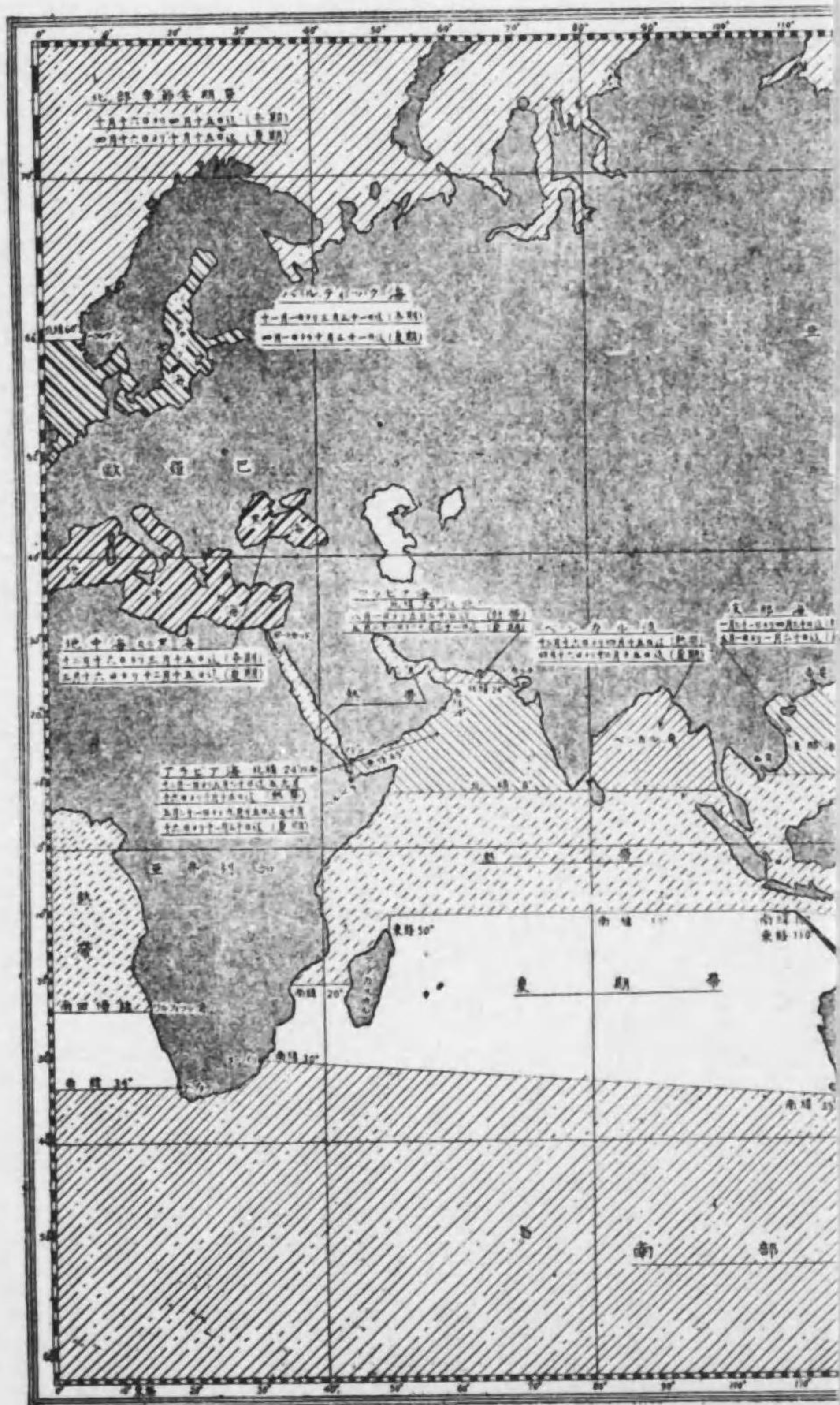
附則

第六十四條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條 昭和七年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ滿載吃水線ノ指定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

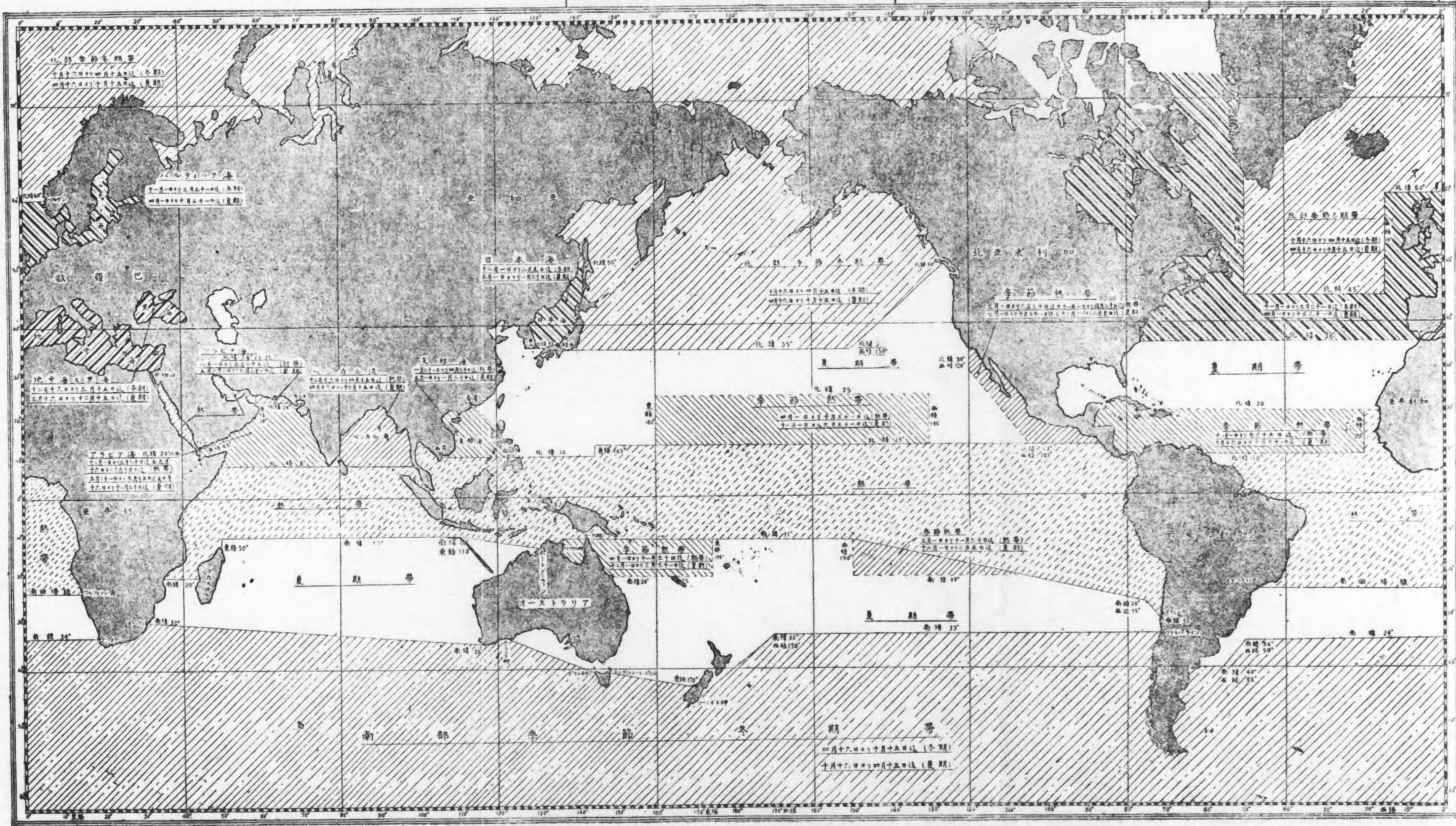
一 開口ノ保護、保護欄干、放水口及船員室區域ヘノ通路ニ關スル構造及設備ニ付第六編ノ規定ニ適合セザル船舶ト雖モ實質上該規定ニ略適合シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ之ヲ同章ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

二 第六十五條ニ規定スル船樓ヲ有セザル汽船ト雖モ實質上同條ニ規定スル船樓ト略同一ノ效力アル船樓ヲ有シ且第六編第六章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第六十五條ノ規定ニ適合セザル程



船舶滿載吃水線用帶域圖

(別紙) 船舶滿載吃水線規程附圖



度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ增加ス

三 第五百五十七條、第五百五十八條及第六十二條ノ規定ニ適合セザル槽船ト雖モ實質上同條ノ規定ニ依ル構造及設備ト略同一ノ構造及設備ヲ有シ且第六編第七章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ管海官廳ハ第四編第二章ノ規定ニ依リ該船舶ノ乾舷ヲ算定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第五百五十七條、第五百五十八條及第六十二條ノ規定ニ適合セザル程度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ增加ス

第六十六條 船舶滿載吃水線法ニ依リ船舶ニ標示シタル滿載吃水線ノ位置ハ之ヲ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス但シ同法ニ依リ汽船ニ標示シタル淡水滿載吃水線ノ位置ハ本令ニ依ル夏期淡水滿載吃水線ノ位置トス

船舶區畫規程

(逓信省令第八號) 昭和九年二月一日

第一章 總則	一五六	第八章 限界線下ノ船側ニ於ケル開口	三〇九
第二章 浸水率	一五六	第九章 二重底	三一
第三章 可浸長	一五九	第十章 水密隔壁等ノ構造及最初ノ試験	三二
第四章 區畫室ノ長サ	一五九	第十一章 耐火隔壁、水密區畫室ヨリノ出口	三三
第五章 區畫ニ關スル特別條件	三〇二	第十二章 「ボンブ」排水装置	三四
第六章 區畫滿載吃水線	三〇五	第十三章 特殊ノ航路又ハ特殊旅客ノ運送ニ使用スル船舶ニ對スル特別規定	三七
第七章 水密隔壁ニ於ケル開口	三〇六		

附則

船舶區畫規程

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ區畫滿載吃水線トハ第三章乃至第五章ノ規定ニ依リ船舶ノ區畫ヲ決定スルニ用ウ

ル吃水線ヲ謂ヒ最高區畫滿載吃水線トハ區畫滿載吃水線中最大吃水ニ對スルモノヲ謂フ

第二條 本令ニ於テ船ノ長サトハ最高區畫滿載吃水線ノ兩端ニ於ケル垂線間ノ距離ヲ謂フ但シ首尾ニ於テ特殊ノ形狀ヲ有スル船舶ニ付テハ逓信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第三條 本令ニ於テ船ノ幅トハ最高區畫滿載吃水線以下ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ最大幅ヲ謂フ

第四條 本令ニ於テ隔壁甲板トハ横置水密隔壁ノ達スル最上層ノ甲板ヲ謂フ

第五條 本令ニ於テ限界線トハ隔壁甲板ノ船側ニ於ケル上面ト船側外板トノ交線ニ平行ニ其ノ下方七六ミリメートルノ位置ニ引キタル線ヲ謂フ

第六條 本令ニ於テ吃水トハLノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ區畫滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第七條 本令ニ於テ或場所ノ浸水率トハ該場所中水ニ依リ占メラレ得ル容積ト該場所ノ全容積トノ百分率ヲ謂フ

第八條 本令ニ於テ機關室區域トハ主機關、補機關及常設石炭庫ニ專用スル場所ヲ限ル横置水密隔壁ノ間ノ限界線下ノ部分ヲ謂フ

本令ニ於テ前艙區域トハ機關室區域ノ前方ノ限界線下ノ部分ヲ謂ヒ後艙區域トハ機關室區域ノ後方ノ限界線下ノ部分ヲ謂フ

第九條 本令ニ於テ旅客室又ハ船員室トハ手荷物室、倉庫、食料品庫及郵便物室ヲ除キ旅客又ハ船員ノ居住若ハ使用ニ充テラルル場所ヲ謂ヒ居室トハ旅客室及船員室ヲ包含スルモノヲ謂フ

第十條 或場所ノ容積ハ外板又ハ隔壁板ノ内面迄測リテ之ヲ算定ス

第二章 浸水率

第十一條 蒸汽機關ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ機關室區域ノ浸水率ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

$$80 + 12.5 \left(\frac{a-c}{v} \right)$$

a ハ機關室區域ニ在ル居室ノ容積

c ハ機關室區域ニ在ル貨物、石炭又ハ倉庫品ニ供用セラルル甲板間ノ場所ノ容積

v ハ機關室區域ノ全容積

發動機ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ機關室區域ノ浸水率ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル數ニ五ヲ加ヘタルモノトス

第十二條 管海官廳ハ特ニ申請アリタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ機關室區域ノ現狀ニ應ジ適當ト認ムル方法ニ依リ該區域ノ浸水率ヲ算定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ居室ノ浸水率ハ九五、貨物艙、石炭庫又ハ倉庫ノ浸水率ハ六〇ト爲スベシ

第十三條 前艙區域又ハ後艙區域ノ浸水率ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

$$63 + 35 \frac{a}{v}$$

a ハ當該區域ニ在ル居室ノ容積

v ハ當該區域ノ全容積

第十四條 二箇ノ横置水密隔壁ノ間ノ甲板間ノ場所ニ常設ノ鋼製隔壁ヲ以テ完全ニ圍繞セラレザル居室アルトキハ前二條ノ規定ニ依ル浸水率ノ算定ニ付テハ該場所中常設ノ鋼製隔壁ヲ以テ完全ニ區分セラレ且他ノ用途ニ供用セラルル場所ヲ除キタル殘餘ノ全部ヲ居室ト看做ス

第三章 可浸長

第十五條 Lノ或點ニ於ケル可浸長トハ該點ヲ中心トスル船舶ノ部分ノ長サニシテ該船舶ガ區畫滿載吃水線ニ對スル吃水及第二章ノ規定ニ依ル浸水率ヲ有スル場合ニ於テ之ニ浸水セシムルモ限界線ヲ超エ沈下スルコトナキ最大限度ノモノヲ謂フ

第十六條 連續セル隔壁甲板ヲ有セザル船舶ニ在リテハ浸水後ノ沈下及縱傾斜竝ニ關係水密隔壁ノ達スル箇所ヲ考慮シテ連續ノ限界線ヲ假定シ之ニ付可浸長ヲ定ムルモノトス

第十七條 可浸長ハ船舶ノ形狀其ノ他ノ特性ヲ考慮シ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ定ム

第四章 區畫室ノ長サ

第十八條 船舶ニ於ケル區畫室ノ長サハ其ノ中央ニ於ケル可浸長ニ第二十條乃至第二十四條ノ規定ニ依ル區畫係數ヲ乘ジテ得タル長サ(以下可許長ト稱ス)ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ本令ニ於テ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 船舶ノ用途ノ標準數(以下單ニ標準數ト稱ス)ハ第二項ノ規定ニ依ル假想容積(P₁)ト限界線下ニ在ル居室ノ容積(P)トノ割合ニ應ジ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

P₁ガPヨリ大ナルトキ

$$T_2 \frac{M+2P_1}{V+P_1-P}$$

P₁ ガ P ヨリ大ナラザルトキ

$$T_2 \frac{M+2P}{V}$$

M ハ機關室區域ノ容積ニ前艙區域又ハ後艙區域ニ於テ二重底内底板ノ上方ニ常設燃料油槽ヲ設ケタルトキハ其ノ容積ヲ加算シタルモノ

P ハ限界線下ニ在ル居室ノ容積

P₁ ハ假想容積

V ハ限界線下ノ全容積

假想容積 P₁ ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス但シ算定シタル容積ガ限界線下ニ在ル居室ノ容積ト限界線以上ニ在ル旅客室ノ容積トノ和ヨリ大ナルトキハ之ヲ該和及算定シタル容積ノ三分ノ二ノ中大ナルモノト爲スコトヲ得

$$0.056L \times N \quad N \text{方メートル}$$

N ハ旅客定員

連續セル隔壁甲板ヲ有セザル船舶ニ在リテハ前二項ノ各容積ハ可浸長ノ決定ニ用キタル限界線迄測リテ之ヲ算定ス

第二十條 L 一三一メートル以上ノ船舶ノ區畫係數ハ標準數ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

一 標準數二三以下ナルトキ

$$\frac{58.2}{L-60} + 0.18$$

二 標準數二三以上ナルトキ

$$\frac{30.3}{L-42} + 0.18$$

三 標準數二三ヲ超ヘ一三三未満ナルトキ

$$A \frac{(A-B)(C_s-23)}{10J}$$

C_s ハ標準數

A ハ第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數

B ハ第二號ノ算式ニ依リ算定シタル數

前項ニ依リ算定シタル係數ガ〇・四〇ヨリ小ナル船舶ニ付管海官廳ニ於テ該係數ニ依リ機關室區域ヲ區畫スルコト實際上不可能ナリト認ムルトキハ該區域ニ對スル區畫係數ヲ〇・四〇ト爲スコトヲ得

第二十一條 L 七九メートル以上一三一メートル未満ノ船舶ノ區畫係數ハ標準數ニ應ジ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

一 標準數ガ左ノ算式ニ依リ算定シタル數以下ナルトキハ區畫係數ハ之ヲ一トス

$$\frac{3574-25L}{13}$$

二 標準數ガ一三三以上ナルトキハ前條第一項第二號ノ算式ニ依リ算定シタル數ヲ區畫係數トス

三 標準數が第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數ヲ超エ一三未滿ナルトキハ左ノ算式ニ依リ區畫係數ヲ算定ス

$$1 - \frac{(1-B)(C_s-S)}{1.25-S}$$

Csハ標準數

Sハ第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數

Bハ前條第一項第二號ノ算式ニ依リ算定シタル數

第二十二條 旅客定員ガ左ノ算式ニ依リ算定シタル數及五〇ノ中小ナルモノヲ超エザル船舶ノ區畫係數ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ一トス

$$\frac{L^2}{6.50}$$

第二十三條 L七九メートル未滿ノ船舶ノ區畫係數ハ標準數ニ拘ラズ之ヲ一トス

第二十四條 左ノ各號ノ船舶ニ付前三條ニ定ムル區畫係數ニ依リ區畫スルコト實際上不可能ナリト認

ムハ部分アルトキハ管海官廳ハ該部分ノ區畫係數ニ付適當ニ斟酌スルコトヲ得

一 前二條ニ掲グル船舶

二 L七九メートル以上一三一メートル未滿ニシテ標準數ガ第二十一條第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數ヨリ小ナル船舶

第五章 區畫ニ關スル特別條件

第二十五條 船首隔壁ハ船舶ノ前部垂線ヨリLノ百分ノ五ノ箇所ト同箇所ヨリ三・〇五メートル後方

ノ箇所トノ間ニ之ヲ設クベシ

船首部ニ於テ長キ船樓ヲ有スル船舶ニ付テハ船首隔壁ヲ隔壁甲板ノ直上ノ甲板迄延長シ其ノ部分ヲ風雨密ノ構造ト爲スベシ

前項ノ延長部ハ船舶ノ前部垂線ヨリLノ百分ノ五以上ノ箇所ニ設クルトキハ之ヲ下方ノ隔壁ノ直上ニ設ケザルモ妨ナシ此ノ場合ニ於テハ階段ヲ形成スル隔壁甲板ノ部分ヲモ風雨密ノ構造ト爲スベシ

第二十六條 甲區畫室ト之ニ隣接セル乙區畫室トノ合長及甲區畫室ト之ニ隣接セル丙區畫室トノ合長ガ何レモ合長ノ中央ニ於ケル可浸長ヲ超ユルコトナク且可許長ノ二倍ヲ超エザルトキハ甲區畫室ノ長サハ可許長ヲ超ユルモ妨ナシ

甲區畫室ノ浸水率ト乙又ハ丙區畫室ノ浸水率トガ相等シカラザルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ各區畫室ノ浸水率ノ平均ヲ兩區畫室ヲ通ズル浸水率ト看做ス

甲區畫室ノ區畫係數ト乙又ハ丙區畫室ノ區畫係數トガ相等シカラザルトキハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ可許長ノ二倍ノ代リニ左ノ算式ニ依リ算定シタル長サヲ用ウルモノトス

$$L_1 + (2L - L_1) \frac{F_2}{F_1}$$

L₁ハ兩區畫室ノ中ノ任意ノ一區畫室ノ長サ

F₁ハ長サL₁ナル區畫室ニ對スル區畫係數

F₂ハ他ノ區畫室ニ對スル區畫係數

ハハ兩區畫室ニ對スル區畫係數ヲF₁ト看做シタル場合ノ可許長

第二十七條 L一三一メートル以上ノ船舶ニ付テハ船首隔壁ノ次ノ横置隔壁ヨリ前部垂線ニ至ル距離

ハ可許長ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十八條 横置隔壁ヲ屈折セシメタル場合ニ於テハ屈折部ハ如何ナル部分ニ於テモ最高區畫滿載吃水線ノ水平面ニテ該部分ノ横截面ニ於ケル外板ヨリ中心線ニ直角ニ測リ船ノ幅ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヲ通ル從通垂直面ヨリ内方ニ在ルコトヲ要ス但シ區畫ガ第二十九條各號ノ一ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 横置隔壁ハ區畫ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ非ザレバ之ヲ階段アルモノト爲スコトヲ得ズ

- 一 當該隔壁ニ依リ仕切ラレタル二區畫室ノ合長ガ可浸長ノ百分ノ九十ヲ超エザルトキ
- 二 隔壁ガ一平面ナル場合ト同一ノ安全程度ヲ保ツ様當該箇所ニ區畫ヲ増設シタルトキ

第三十條 横置隔壁ニ屈折又ハ階段アル場合ニ於テハ區畫室ノ長サハ同一ノ效力ヲ有スル平面隔壁迄之ヲ測ルモノトス

第三十一條 相隣レル二箇ノ横置隔壁間ノ距離ガ三・〇五メートルニLノ百分ノ二ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルトキハ區畫室ノ長サノ決定ニ付テハ當該二隔壁中何レカ一箇ハ之ヲ無キモノト看做ス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ屈折アル隔壁ニ在リテハ前條ニ依ル同一ノ效力ヲ有スル平面隔壁ヲ横置隔壁ト看做シ、階段アル隔壁ニ在リテハ該隔壁ヨリ次ノ隔壁ニ至ル最短距離ヲ横置隔壁間ノ距離ト看做ス

第三十二條 横置水密區畫室ガ局部的ノ區畫ヲ有スル場合ニ於テ三・〇五メートルニLノ百分ノ二ヲ加ヘタル長サニ互ル如何ナル損傷ヲ船側ニ受クルモ該區畫室ノ全容積ニ浸水スル虞ナキトキハ管海官廳ハ該區畫室ノ長サヲ浸水ノ虞ナキ部分ノ容積ニ應ジ局部的區畫ナキ場合ノ可許長ヨリ適當ニ増

スコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ損傷ヲ受ケザル船側ニ付假定スル有效浮力ノ容積ハ損傷ヲ受ケタル船側ニ付假定スル有效浮力ノ容積ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第三十三條 水密甲板又ハ縦通隔壁若ハ内側外板ヲ設ケル場合ニ於テハ之ヲ設ケタル部分ノ浸水ニ依リテ生ズル船舶ノ傾斜其ノ他ノ原因ニ因リ船舶ノ安全ヲ害セザル様適當ナル配置ト爲スベシ

前項ノ配置ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第三十四條 船尾隔壁ハ船舶ノ區畫ニ依ル安全ノ程度ヲ減少セザル限リ之ヲ隔壁甲板ノ下方ニ止ムルコトヲ得

第六章 區畫滿載吃水線

第三十五條 船尾管ハ水密ナル場所ニ設置スルコトヲ要シ船尾管衛帶ハ水密ナル軸路其ノ他ノ場所ニシテ船尾管衛帶ヨリ浸水スル場合ニ於テモ船舶ガ限界線ヲ超エ沈下スルコトナキ程度ノ容積ヲ有スルモノノ内ニ之ヲ設置スルコトヲ要ス

第三十六條 區畫滿載吃水線ハ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル圓標ノ前方ニ於ケル垂直線ノ後緣ヨリ後方ニ向フ長サ二五〇ミリメートル、幅二五ミリメートルノ水平線ノ上緣ヲ以テ之ヲ標示スベシ

區畫滿載吃水線ガ船舶滿載吃水線規程ニ依ル當該船舶ノ海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ上方ニ在ルトキハ該最高滿載吃水線ノ位置ニ在ルモノトス

第三十七條 區畫滿載吃水線ノ標示ハ主タル旅客搭載狀態ニ對應スルモノニハC₁、其ノ他ノ狀態ニ對應スルモノニハ順次C₂、C₃等ノ記號ヲ附スベシ

區畫滿載吃水線ノ標示ハ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル方法ニ準ジ之ヲ爲スベシ

第三十八條 區畫滿載吃水線ニ對スル乾舷ハ船舶滿載吃水線規程ニ依ル乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ヨリ當該區畫滿載吃水線迄之ヲ測ルモノトス
前項ノ乾舷ハ船舶ガ之ニ對應スル旅客搭載狀態ニ於テ國際航海ニ從事スル場合海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス
船舶ガ淡水ニ在ルトキハ當該區畫滿載吃水線ハ標示セラレタル當該滿載吃水線ノ上方ニ於テ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル淡水ニ對スル修正高二等シキ箇所ニ在ルモノトス

第七章 水密隔壁ニ於ケル開口

第三十九條 水密隔壁ニ設ケル開口ノ數ハ出來得ル限り之ヲ少クシ又各開口ニハ之ヲ水密ニ閉ヅル爲適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

水密隔壁ヲ貫通シテ管、電燈線等ヲ設ケタルトキハ該隔壁ノ水密ヲ保ツ爲適當ナル方法ヲ講ズベシ

第四十條 水密隔壁ニハ支水弁ヲ設ケルコトヲ得ズ
左ニ掲グル隔壁ニハ人孔又ハ出入口ヲ設ケルコトヲ得ズ

一 限界線トノ船首隔壁
二 貨物艙ト貨物艙又ハ常設若ハ豫備ノ石炭庫ト仕切ル水密橫置隔壁但シ甲板間ニ於ケル貨物艙ト貨物艙ト仕切ル隔壁ヲ除ク

第四十一條 船首隔壁ニハ船首艙内ノ水其ノ他ノ液體ヲ處理スル爲限界線下ニ於テ一箇ヲ限り管ヲ通スコトヲ得但シ該管ニハ隔壁甲板ノ上方ヨリ操作シ得ル螺締弁ヲ設ケ弁匣ハ船首艙内ニ於テ船首隔壁ニ之ヲ取附クルコトヲ要ス
第四十二條 機關室内ニ於テハ石炭庫及軸路ニ通ズルモノノ外機關室内ノ交通用トシテ各橫置隔壁ニ

付一箇ヲ限り出入口ヲ設ケルコトヲ得但シ機關室ガ縱通水密隔壁ニ依リ區畫セラレタル場合ニ於テ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十三條 隔壁ノ開口ニ設ケル水密戸ハ左ニ掲グルモノヲ除クノ外一戸ナルコトヲ要ス

一 船側ニ於ケル最低點ノ下面ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方二・二メートル以上ノ箇所ニ在ル甲板ノ上方ニ於ケル旅客室、船員室及作業場所ニ設ケル水密蝶番戸
二 甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ仕切ル隔壁ニ於テ船側ニ載貨門ノ設置ヲ許サルル高サノ箇所ニ設ケル水密蝶番戸
三 機關室内ニ於ケル隔壁ニ螺釘ヲ以テ固定スル取外シ得ル板戸

前項第二號ノ水密蝶番戸ハ其ノ設置ヲ特ニ必要トスル事由アル場合ニシテ其ノ構造及配置ニ付管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ設ケ得ルモノトス
第四十四條 蝶番戸ニハ隔壁ノ各側ヨリ操作シ得ル掛金ヲ備フルコトヲ要ス
一戸ハ水平ニ動クモノナルモ又ハ垂直ニ動クモノナルモ妨ナシ
手動ノ開閉裝置ノミヲ備フル一戸ノ開閉裝置ハ一箇所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄り得ル場所ニ於テ之ヲ操作シ得ルモノナルコトヲ要ス

水密戸ガ自己又ハ他ノ重量物ノ落下作用ニ依リ閉ヅルモノナルトキハ之ニ閉鎖運動ヲ調節スル爲適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス閉鎖裝置ハ一箇所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄り得ル場所ニ於テ一戸ヲ放動セシメ得ルモノトシ且落下作用ニ依ラザル手動開閉裝置ヲ備フルコトヲ要シ該裝置ハ一箇所及隔壁甲板ノ上方ニ於テ之ヲ操作シ得ルモノトシ一戸ノ落下閉鎖ノ爲該裝置ヲ外シタル後各操作場ニ

於テ迅速ニ再ビ之ヲ仕掛ケ得ルモノト爲スベシ
水密戸ガ中央操作場ヨリ動力ニ依リ操作セラルル装置ナルトキハ戸ノ箇所ニ於テモ動力ニ依リ之ヲ
操作シ得ルモノト爲スベシ

前項ノ動力開閉装置ハ中央操作場ヨリ閉ヂラレタル後局部操作場ニ於テ開カレタル戸ガ自動的ニ閉
鎖セラレ又戸ガ中央操作場ヨリ開カルコトヲ局部操作場ニ於テ防ギ得ルモノナルコトヲ要ス
第五項ノ動力開閉装置ニハ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄り得ル場所ニ於テ操作シ得ル手動開閉
装置ヲ備フルコトヲ要ス

各水密戸ニ付テハ戸ノ箇所ヲ除クノ外總テノ操作場ニ其ノ開閉ヲ示ス表示器ヲ備フベシ

第四十五條 横置隔壁ニ設クル戸ニシテ其ノ下縁ガ最高區畫滿載吃水線ノ下方ニ在リ且船舶ノ航行
中開クコトアルモノノ開閉装置ニ付テハ左ノ各號ニ依ルベシ但シ軸路ノ入口ニ在ル水密戸ニ付テハ
此ノ限ニ在ラズ

- 一 戸ノ數ガ五箇ヲ超ユルトキハ開閉装置ハ動力操作ノモノニシテ船橋上ノ操作場ヨリ同時ニ各戸
戸ヲ閉ヂ得ルモノナルコトヲ要シ且閉鎖ニ先チ警戒音響信號ヲ發スル装置ト爲スベシ
- 二 戸ノ數ガ五箇以下ニシテ標準數ガ六〇ヲ超ユルトキハ各戸ノ開閉装置ハ動力操作ノモノナル
コトヲ要ス
- 三 戸ノ數ガ五箇以下ニシテ標準數ガ三〇ヲ超エ六〇以下ナルトキハ各戸ハ落下式ニシテ戸ノ箇
所及隔壁甲板ノ上方ヨリ操作シ得ル放動装置ヲ備ヘ且手動閉鎖装置ヲ備フルモノナルモ妨ナシ

四 戸ノ數ガ五箇以下ニシテ標準數ガ三〇ヲ超エザルトキハ各戸ノ開閉装置ハ手動ノモノナルモ
妨ナシ

第四十六條 船舶ノ航行中石炭線ノ目的ヲ以テ開クコトアル水密戸ヲ隔壁甲板下ノ甲板間ニ於テ石炭
庫ヲ仕切ル隔壁ニ設クルトキハ其ノ開閉装置ハ動力操作ノモノナルコトヲ要ス

第四十七條 二箇以上ノ横置隔壁ヲ貫キテ冷蔵貨物艙ニ通ズル圍壁路ヲ設クル場合ニ於テ開口ノ下縁
ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方ニ一・一三メートル未滿ノ箇所ニ在ルトキハ該開口ニ於ケル水密戸ノ開
閉装置ハ動力操作ノモノナルコトヲ要ス

第四十八條 船員室ヨリ焚火場ヘノ通行ノ爲、管ヲ通ス爲又ハ其ノ他ノ目的ノ爲横置隔壁ヲ貫キテ圍
壁路又ハ隧道ヲ設クルトキハ該圍壁路又ハ隧道ハ水密ニシテ第六十四條ノ規定ニ適合スルモノナル
コトヲ要ス

前項ノ圍壁路又ハ隧道ガ船舶ノ航行中通路トシテ使用セラルルモノナルトキハ少クとも各圍壁路又
ハ隧道ノ一端ニハ限界線ノ上方ニ達シ得ル様水密ニ構造セラレタル圍壁ヲ設クルコトヲ要ス

圍壁路又ハ隧道ハ船首隔壁ノ次ノ隔壁ヲ貫キテ之ヲ設クルコトヲ得ズ
強壓通風ノ爲必要アルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り横置隔壁ヲ貫キテ圍壁路
又ハ隧道ヲ設クルコトヲ得

第四十九條 石炭庫ニ於ケル水密戸ニ付テハ石炭ガ戸ノ閉鎖ヲ妨グルコトヲ防グ爲障板其ノ他ノ適當
ナル装置ヲ設クベシ

第四十六條ニ規定スルモノヲ除クノ外常設及豫備ノ石炭庫間ニ設クル水密戸ニ對シテハ常ニ之ニ近
寄り得ル様圍壁路又ハ隧道ヲ設クベシ

第八章 限界線下ノ船側ニ於ケル開口

第五十條 限界線下ノ船側ニ於ケル開口ノ閉鎖装置ハ開口ノ用途及位置ニ適應スルモノニシテ管海官

廳ノ適當ト認メタルモノナルコトヲ要ス
貨物又ハ石炭ノ搭載ニ專用スル場所ニハ舷窓ヲ設クルコトヲ得ズ
自働通風用舷窓ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ヲ除クノ外之ヲ限界線下ノ船側ニ設クルコトヲ得ズ

第五十一條 甲板間ニ於ケル何レカノ舷窓ノ下縁ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方ニ於テ船ノ幅ノ千分ノ二十五ノ距離ニ最低點ヲ有シ船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ該甲板間ノ舷窓ハ總テ開キ得ザル型ノモノト爲スベシ

前項ノ舷窓ヲ除クノ外甲板間ニ於ケル何レカノ舷窓ノ下縁ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方ニ於テ三・六六メートルニ船ノ幅ノ千分ノ二十五ヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ該甲板間ノ舷窓ハ總テ錠前附ノモノナルコトヲ要ス

前二項ノ舷窓以外ノ舷窓ハ普通ノ開キ得ル型ノモノト爲スコトヲ得

第五十二條 左ニ掲グル舷窓ニハ有效ナル蝶番附内蓋ヲ備ヘ容易ニ之ヲ閉ヂ且水密ニ保チ得ル裝置ト爲スベシ

- 一 第五十一條第一項又ハ第二項ノ舷窓
 - 二 前部垂線ヨリLノ八分ノ一以内ノ場所ニ設クル舷窓
 - 三 航行中近寄り難キ場所ニ設クル舷窓
 - 四 水夫、火夫又ハ下級旅客ノ居住場所ニ設クル舷窓
- 前項ニ掲グルモノヲ除クノ外隔壁甲板下ニ設クル舷窓ニハ有效ナル内蓋ヲ備フベシ
前項ノ内蓋ハ之ヲ附近ニ備ヘ置ク裝置ヲ有スルトキハ取外シ得ルモノト爲スコトヲ得

第五十三條 船側ニ設クル機關用ノ吸水孔及放水孔並ニ其ノ他ノ開口ニハ船内ヘノ不慮ノ浸水ヲ防ギ得ル裝置ヲ設クベシ

船側ニ設クル排水孔、衛生排出孔其ノ他類似ノ開口ノ數ハ出來得ル限り之ヲ少クスベシ

第五十四條 限界線下ノ船側ヲ貫キテ設クル排出管ニハ船内ヘノ浸水ヲ防グ爲左ノ各號ノ一ニ依ル裝置ヲ爲スベシ

- 一 隔壁甲板ノ上方ニシテ容易且迅速ニ近寄り得ル場所ヨリ閉鎖シ得ル積極裝置ヲ有スル自働不還弁一箇ヲ各排出管ニ取附ケ且弁ノ開閉ヲ表示スル裝置ヲ操作場ニ備フルコト
- 二 前號ノ裝置ナキ自働不還弁二箇ヲ各排出管ニ取附ケ其ノ中上方ノモノハ船舶ノ就航狀態ニ於テ檢査ノ爲常ニ近寄り得ル最高區畫滿載吃水線ノ上方ノ場所ニ之ヲ設置スルコト

第五十五條 限界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ハ十分ナル強力ヲ有スル構造ト爲スベシ

一部又ハ全部ガ最高區畫滿載吃水線下ニ在ル載貨門又ハ載炭門ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ設置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ構造ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ルベシ

第五十六條 灰棄筒、芥棄筒其ノ他類似ノモノノ船内ニ於ケル開口ニハ有效ナル蓋ヲ備フベシ

前項ノ開口ガ限界線下ニ在ルトキハ該開口ノ蓋ハ水密ニ閉鎖シ得ルモノト爲シ且最高區畫滿載吃水線ノ上方ニシテ容易ニ近寄り得ル場所ニ於テ筒ニ自働不還弁ヲ取附クベシ

第九章 二重底

第五十七條 L六一メートル以上ノ船舶ニ付テハ左ノ各號ノ部分ニ二重底ヲ設クベシ

- 一 L七六メートル未満ノ船舶ニ在リテハ機關室前端隔壁ヨリ船首隔壁迄

一七六メートル以上一〇〇メートル未満ノ船舶ニ在リテハ機關室前端隔壁ヨリ船首隔壁迄及機
關室後端隔壁ヨリ船尾隔壁迄

三 L一〇〇メートル以上ノ船舶ニ在リテハ船首隔壁ヨリ船尾隔壁迄
前項ノ船舶ニ於テ船首隔壁又ハ船尾隔壁迄二重底ヲ達セシムルコト實際上不可能ナルトキハ出來得
ル限リ其ノ近ク迄之ヲ達セシムベシ

第五十八條 前條ニ依リ設クル二重底ニ在リテハ二重底縁板ト彎曲部外板トノ交線ハ何レノ部分ニ於
テモLノ中央ニ於テ船底基線上船體中心線ヨリ船ノ幅ノ二分ノ一ノ距離ニ在ル點ヲ通リ該基線ニ對
シ二十五度ノ傾斜ヲ以テ引キタル橫斜線ト肋骨線トノ交點ヲ通ル水平面ノ上方ニ在ルコトヲ要ス
第五十九條 排水ノ目的ノ爲ニ二重底ニ設クル滄水溜ハ必要ナル程度ヲ超エテ其ノ深サヲ大ナラシムル
コトヲ得ズ且如何ナル場合ト雖モ縁板ノ内縁又ハ外板ヨリ〇・四五七メートル未満ノ箇所ニ在ルコ
トヲ得ズ但シ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ付テハ軸路ノ後端ニ於テ外板迄達スル一箇ノ滄水溜ヲ設ク
ルコトヲ得

第十章 水密隔壁等ノ構造及最初ノ試験

第六十條 水密隔壁ハ鋼船構造規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

隔壁ノ階段部及屈折部ハ水密ニシテ且其ノ箇所ニ在ルベキ隔壁ト同一ノ強力ヲ有スル構造ト爲スベ
シ

肋骨又ハ梁ガ水密甲板若ハ隔壁ヲ貫通スル部分ハ木材又ハ「セメント」ヲ用ヰズシテ水密ヲ保ツ構造
ト爲スベシ

第六十一條 本令ニ掲グル水密戸、舷窓、舷門、載貨門、載炭門、弁、管、灰棄筒及芥棄筒ノ設計、材料及構
造ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ルベシ

第六十二條 隔壁ニ設クル水密戸ハ之ヲ設クル箇所ニ於ケル限界線迄ノ水高壓力ヲ以テ之ヲ試験スベ
シ

前項ノ試験ハ船舶ノ就航前ニ於テ戸ノ取附前又ハ取附後ニ之ヲ行フベシ

第六十三條 二重底(溝形龍骨ヲ含ム)及内側外板ハ限界線迄ノ水高壓力ヲ以テ之ヲ試験スベシ
液體ヲ容ルル槽ニシテ水密區畫ノ一部ヲ成スモノハ最高區畫滿載吃水線迄ノ高サ、龍骨ノ上面ヨリ
槽ノ箇所ニ於ケル限界線迄ノ高サノ三分ノ二及槽ノ頂板上〇・九二メートル迄ノ高サノ最大ナル
モノニ相當スル水高壓力ヲ以テ之ヲ試験スベシ

第六十四條 甲板、圍壁、隧道、溝形龍骨又ハ通風筒ニシテ水密ナルコトヲ要スルモノハ其ノ箇所ニ在
ルベキ水密隔壁ト同一ノ強力ヲ有スル構造ト爲シ圍壁及通風筒ハ少クトモ限界線迄水密ニ構造セラ
レタルモノナルコトヲ要ス

前項ノ甲板、圍壁、隧道等ノ水密ナルコトヲ要スル構造及之ニ設クル開口ノ閉鎖裝置ニ付テハ管海官
廳ノ適當ト認ムル所ニ依ルベシ

第六十五條 水密甲板ハ漲水又ハ射水ニ依リ、水密ナル圍壁、隧道及通風筒ハ射水ニ依リ之ヲ試験スベ
シ

第十一章 耐火隔壁、水密區畫室ヨリノ出口

第六十六條 船舶ニハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ隔壁甲板ヨリ上部ニ於テ船側ヨリ船側迄達ス
ル耐火隔壁ヲ設クベシ

船樓内ニ於ケル耐火隔壁ノ間隔ハ四〇メートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ管海官廳差支ナシト認ムル

トキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十七條 耐火隔壁ハ隔壁ニ於テ八一五度ノ温度ヲ生ズル火ノ蔓延ヲ一時間阻止シ得ベキ金屬其ノ他ノ耐火材料ヲ以テ適當ニ之ヲ構造スルコトヲ要ス

鋼製隔壁ニシテ隔壁甲板直下ノ甲板間ニ於ケル水密隔壁ノ構造ト同一ノ構造ヲ有スルモノガ可燃性材料ノ内張ヲ有セザルトキハ之ヲ前項ノ規定ニ適合スル耐火隔壁ト看做ス

第六十八條 耐火隔壁ニ於ケル階段部及屈折部ハ隔壁ト同一ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要シ又開口ノ閉鎖裝置ハ耐火性ニシテ且焰ノ侵入ヲ防ギ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十九條 船舶ニハ旅客室又ハ船員室ノ在ル各水密區畫室ヨリ其ノ居住者ガ非常ノ際上甲板以上ノ開放セル場所ニ退去シ得ル爲適當ナル設備ヲ爲スベシ

各機關室、軸路其ノ他ノ作業場所ニハ非常ノ際ニ於ケル船員ノ避難ノ爲水密戸ト別箇ニ適當ナル設備ヲ備フベシ

第十二章 「ポンプ」排水裝置

第七十條 船舶ニハ主機關ニ依リ動作スル正滲水「ポンプ」又ハ之ニ代ル獨立機關ニ依リ動作スル正滲水「ポンプ」ノ外獨立ノ動力ニ依リ操作セラルル一箇ノ副滲水「ポンプ」ヲ備フベシ但シ九一・五メートル未満ニシテ標準數三〇未満ノ船舶ニ在リテハ船舶ノ前部及後部ニ各一箇ノ「クランク」型手動「ポンプ」ヲ備フルカ又ハ移動式動力「ポンプ」一箇ヲ備フルトキハ副滲水「ポンプ」ハ之ヲ一箇ト爲スコトヲ得

標準數三〇ヲ超ユル船舶ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ル副滲水「ポンプ」ノ外獨立ノ動力ニ依リ操作セラルル副滲水「ポンプ」一箇ヲ増備スベシ

衛生、脚荷又ハ雜用ノ「ポンプ」ガ滲水吸出管ニ適當ニ連結セラルルトキハ之ヲ前二項ノ副滲水「ポンプ」ト看做ス

第七十一條 前條ニ依リ二箇以上ノ副滲水「ポンプ」ヲ要スル船舶ニ在リテハ中一箇ハ潜水型ノ非常用「ポンプ」トシ隔壁甲板ノ上方ニ設置シタル動源ニ依リ非常ノ際ニ動作シ得ル裝置ト爲スベシ

第七十二條 動力滲水「ポンプ」ハ成ルベク同一ノ損傷ニ依リ迅速ニ浸水スル虞ナキ別々ノ水密區畫室ニ之ヲ設置スベシ若シ機關室ガ二箇以上ノ水密區畫室ヨリ成ルトキハ滲水「ポンプ」ヲ出來得ル限リ各室ニ分布スルコトヲ要ス

第七十三條 各滲水「ポンプ」ハ船首尾艙ニノミ使用スルモノヲ除キ手動ノモノナルト動力操作ノモノナルトヲ問ハズ船舶ノ各船艙又ハ機關室ヨリ排水シ得ル様裝置スベシ

第七十四條 各副滲水「ポンプ」ハ滲水主管ヲ通ル水ニ一分間一二メートル以上ノ速度ヲ與ヘ得ルモノナルコトヲ要シ且之ヲ設置シタル區畫室ニ對シ滲水主管ノ徑ヨリ小ナラザル徑ノ直接吸水管ヲ備フベシ

直接吸水管ハ船内ノ各側ヨリ吸水シ得ル様之ヲ配置スベシ

第七十五條 滲水「ポンプ」ニ連結スル滲水主管及各水密區畫室ニ對スル滲水支管ノ内徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一 滲水主管ノ徑ノ算式

$$\sqrt{\frac{L(B+D)}{36}} + 2.5 \text{ センチメートル}$$

二 滲水支管ノ徑ノ算式

$$\sqrt{\frac{1(B+D)}{51.6} + 2.5} \text{ センチメートル}$$

B ハ船ノ幅(メートルニテ)

D ハLノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ隔壁甲板ノ船側ニ於ケル上面迄ノ深サ(メートルニテ)
ノハ常該支管ニ依リ排水スベキ區畫室ノ長サ(メートルニテ)

前項ノ規定ニ拘ラズ溢水管ノ内徑ハ六センチメートルヨリ、溢水管ノ内徑ハ五センチメートルヨリ小ナラザルコトヲ要シ又溢水管ノ内徑ハ一〇センチメートルヨリ大ナルコトヲ要セズ

第七十六條 蒸汽機關ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ海水吸入管ノ徑ノ三分ノ二以上ノ徑ヲ有スル不還弁ノ直接吸水管ヲ主循環「ポンプ」ニ取附ケテ之ヲ機關室内ノ溢水ノ最低吸水位置迄導クベシ又燃料トシテ石炭ヲ使用シ若ハ使用スルコトアル船舶ニ於テ汽機室ト汽機室トノ間ニ水密隔壁ナキトキハ少クトモ一箇ノ循環「ポンプ」ヨリ復水器ヲ通過セズシテ直接船外ヘ排水スル爲別箇ノ排水管ヲ取附クルカ又ハ循環水排出管ニ連結セル支管ヲ設クベシ

第七十七條 貨物艙又ハ機關室ノ排水ニ用ウル管ハ水槽又ハ油槽ニ對スル管ト區別スベシ
石炭庫若ハ燃料油庫ノ下部、汽機室又ハ汽機室内ニハ排水用管トシテ鉛管ヲ使用スルコトヲ得ズ沈

第七十八條 溢水及脚荷水ノ管系ハ海水若ハ脚荷水ガ貨物艙若ハ機關室ニ流入シ又ハ一區畫室ニ在ル水ガ他ノ區畫室ニ流入スルノ虞ナキ裝置ト爲スベシ脚荷水及溢水ノ管系ニ連結セラルル深水槽ニ付テハ之ニ貨物ヲ積載シタル場合ニ於テ不意ニ海水流入シ又之ニ脚荷水ヲ積載シタル場合ニ於テ脚荷水ガ溢水管ニ依リ吸出サルルコトナキ様特別ノ設備ヲ爲スベシ

第七十九條 或區畫室ノ排水ニ使用スル溢水管ガ船舶ノ衝突又ハ乗揚等ニ因リ該區畫室外ノ場所ニ於テ損傷ヲ受ケ該區畫室ニ浸水スル虞アルモノナルトキハ之ヲ防止スル爲適當ノ設備ヲ爲スベシ溢水管ノ何レカノ部分ガ船側ニ近ク設置セラルルカ又ハ溝形龍骨内ニ設置セラルルトキハ此ノ目的ノ爲管ノ開放端ノ在ル區畫室ニ於テ之ニ不還弁ヲ取附クルカ又ハ隔壁甲板ノ上方ノ場所ヨリ操作シ得ル螺絲弁ヲ取附クベシ

第八十條 溢水排出裝置用ノ配流箱「コック」及弁ハ船舶ガ通常ノ状態ニ在ル場合ニ於テ常ニ近寄り得ル場所ニ之ヲ設ケ且非常用溢水「ポンプ」ヲ備フル船舶ニ在リテハ之ニ依リ何レノ區畫室ヨリモ吸水シ得ル様配置スベシ若シ各溢水「ポンプ」ニ共通ナル一管系ノミヲ備フルトキハ該「コック」又ハ弁ハ隔壁甲板ノ上方ヨリ之ヲ操作シ得ルモノナルコトヲ要シ又主溢水管系ノ外非常用溢水管系ヲ備フルトキハ之ヲ主管系ヨリ獨立セシメ且非常用「ポンプ」ニ依リ浸水状態ニ在ル何レノ區畫室ヨリモ吸水シ得ル様裝置スベシ

第十三章 特殊ノ航路又ハ特殊旅客ノ運送ニ使用スル船舶ニ對スル特別規定

第八十一條 管海官廳短國際航海ニ從事スル旅客船ニ付特ニ必要アリト認ムルトキハ第七章乃至第九章及第十二章ニ規定スル事項ニ付適當ニ斟酌スルコトヲ得

第八十二條 管海官廳ハ天候又ハ交通ノ狀況ニ因リ特ニ危険多キ航路ニ於テ専ラ旅客ノ運送ニ從事スル船舶ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ區畫ヲ第四章及第五章ニ規定スルモノヨリ更ニ細密ナラシムルコトヲ得

第八十三條 管海官廳一定區域ノ航路ニ於テ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル船舶ニ付本令ノ規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認ムルトキハ當該航路及旅客ノ種類ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄

之ヲ斟酌スルコトヲ得

附則

第八十四條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十五條 昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケ旅客船トシテ製造シタル船舶又ハ同日以前旅客

船ニ變更シタル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ其ノ水密區畫其ノ他ノ設備ヲ考慮シ實行不可能ニシテ且不適當ナリト認ムル限り本令ニ依ラシメザルコトヲ得

木船構造規程

(逓信省令第九號) 昭和九年二月一日

第一章 總則	三九	第六章 內龍骨、側內厚板、側內龍骨及彎曲部縱通材	三六
第二章 材料	三二	第七章 船鈔、梁壓材、副梁壓材、梁受材、副梁受板、船側縱通材及內部腰板	三五
第三章 龍骨、船首材、船尾材、舵柱、力材、船尾縱翼材、船尾橫翼材及船尾管胴材	三三	第八章 梁及梁ノ配置	三五〇
第四章 舵	三五	第九章 梁曲材	三五三
第五章 肋骨	三六		
		第十八章 機關室	三五〇
		第十九章 船樓及甲板室	三五二
		第二十章 檣帆架及斜檣	三五二
		第二十一章 通風間隙及滄水路	三五二
		第二十二章 排水裝置及諸管	三五三
		第二十三章 操舵機具及揚錨、揚貨、繫船等ノ裝置	三五四
		第二十四章 油運搬船	三五五
			三五六

第十章 梁柱	三四
第十一章 外板、舷牆及內張板	三五
第十二章 甲板	三七
第十三章 船首肘材及船尾肘材	三六
第十四章 過當比例ノ船舶	三六
第十五章 甲板口及船側口	三六〇
第十六章 固著釘及固著法	三六〇
第十七章 填絮及船底包板	三六〇
附則	三五六

木船構造規程

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ上甲板トハ最上層ノ甲板ヲ謂ヒ第二甲板トハ第二層ノ甲板ヲ謂フ

第二條 本令ニ於テ重甲板船トハ其ノ上甲板下ニ重量ノ貨物ヲ積載シ得ル船舶ヲ謂フ

本令ニ於テ輕甲板船トハ二層以上ノ甲板ヲ有シ其ノ第二甲板以上ニハ專ラ船員、旅客又ハ輕量ノ貨物ヲ搭載スルニ適スル構造輕裝ナル汽船ニシテ其ノ上甲板上ニハ船首樓、船尾樓又ハ全甲板面積ノ十分ノ一ヲ超ユル船橋樓若ハ甲板室ヲ設置スルニ適セザルモノヲ謂フ

第三條 本令ニ於テ船ノ長サトハ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ推進器孔ヲ有スル船舶ニ在リテハ舵柱ノ後面迄、之ヲ有セザル船舶ニ在リテハ船尾材ノ後面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部突出ノ船首材ヲ有スル船舶ニ付テハ該材下部ノ前面ニ沿ヒ延長シタル直線ヲ以テ船首材ノ前面トシ、外軸ト

内軸トヲ併有スル船舶ニ付テハ内軸前面ヲ以テ船首材ノ前面トシ又舵柱ヲ有セズ且舵ヲ船尾材ニ取附ケザル船舶ニ付テハ舵頭ノ中心ヲ以テ舵柱ノ後面トス

本令ニ於テ船舶ノ幅トハ船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ舷端突出ノ肋骨ヲ有スル船舶ニ付テハ肋骨下部ノ外面ニ沿ヒ延長シタル直線ヲ肋骨ノ外面ト看做ス

本令ニ於テ船舶ノ深サトハ船ノ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ

第四條 本令ニ於テ第一數トハ重甲板船ニ在リテハ船ノ深サト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂ヒ輕甲板船ニ在リテハ船側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ト第二甲板梁ノ上面トノ中央迄ノ深サト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

本令ニ於テ第二數トハ重甲板船ニ在リテハ船ノ長サト幅ト深サトヲ相乘ジタル數ヲ謂ヒ輕甲板船ニ在リテハ長サト幅ト船側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ト第二甲板梁ノ上面トノ中央迄ノ深サトヲ相乘ジタル數ヲ謂フ

本條ノ長サ、幅及深サハメートルヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入トス

第五條 本令ハ特ニ定アル場合ヲ除ク外船ノ長サガ深サノ十倍ヲ超ユルコトナク且幅ノ六倍ヲ超エザル船舶ノ構造ヲ示シ又寸法及箇數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第六條 船ノ長サ三〇メートル以上ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ノ外其ノ長サヲ深サノ十三倍以上ト爲スコトヲ得ズ

第七條 肋骨ノ寸法及心距ハ第一數ニ依リ、船首材、龍骨、船尾材、舵柱、船尾縱翼材、船尾橫翼材、舵心材、舵針、螺番、内龍骨、側内厚板、側内龍骨、彎曲部縱通材、船側縱通材、内部腰板、梁受板、副梁受板、

梁壓材、副梁壓材、船錨、木甲板、内張板、外板及固著釘等ノ寸法ハ第二數ニ依リ、梁、梁曲材、船首材、船尾材等ノ寸法ハ船ノ幅ニ依リ之ヲ定ムベシ

第八條 船體各部ノ工事ハ良好且有效ナルコトヲ要ス

第九條 本令ノ規定ニ該當セザル船體ノ構造並ニ材料及其ノ寸法ハ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ本令ニ適合スルモノト看做ス

第十條 管海官廳ハ船舶ノ用途、航路ノ狀況又ハ載貨ノ種類ニ應ジ本令ノ規定ニ拘ラズ船體ノ構造及材料寸法ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第十一條 第三級船及第四級船ノ船體ノ構造並ニ材料及其ノ寸法ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル但シ第百八條、第百十四條及第二十二章ニ規定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二章 材料

第十二條 船體ノ構造ニ使用スル木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セズシテ十分乾燥シタルモノナルコトヲ要ス

第十三條 船體ノ構造ニ使用スル曲材ハ天然ノ屈曲材ニシテ木理ノ通リタルモノナルコトヲ要ス

第十四條 船體構造材料ノ等級ハ第一號表ニ依ル

本令ニ規定スル縱梁、梁柱、梁下縱通材、樁孔板並ニ船口ノ蓋板、縱材及船口梁ノ寸法ハ乙材ヲ用キタルトキノ寸法トシ船口縁材、副龍骨、副内龍骨及第百四條ニ規定スル添材内龍骨ノ寸法ハ甲材ヲ用キタルトキノ寸法トス

第十五條 別表ニ掲グル木材ハ第一號表ニ掲グル同一等級ノ他ノ木材ヲ以テ代用スルコトヲ得

別表ニ掲グル木材ノ代リニ第一號表ニ掲グル他ノ等級ノ木材又ハ「チーク」若ハ赤樫ヲ用ウルトキハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 甲材ノ代リニ乙材ヲ用ウルトキハ百分ノ十、丙材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十又丁材ヲ用ウルトキハ百分ノ三十以上其ノ截面積ヲ別表ニ掲グルモノヨリ増スコトヲ要ス

二 乙材ノ代リニ丙材ヲ用ウルトキハ百分ノ十又丁材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十以上其ノ截面積ヲ別表ニ掲グルモノヨリ増スコトヲ要ス

三 乙材ノ代リニ甲材ヲ用ウルトキハ百分ノ十以下其ノ截面積ヲ別表ニ掲グルモノヨリ減ズルコトヲ得

四 「チーク」若ハ赤樫ヲ甲材ノ代リニ用ウルトキハ百分ノ十、乙材ノ代リニ用ウルトキハ百分ノ二十以下其ノ截面積ヲ別表ニ掲グルモノヨリ減ズルコトヲ得

第十六條 第一級船ニ在リテハ本令ニ依リ甲材又ハ乙材ヲ使用スベキ場合ニ於テ丙材又ハ丁材ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十七條 鋼材ハ同一寸法ノ鐵材ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第十八條 本令ニ規定スル堅材トハ樫「チーク」、樟、檜、山毛櫸、栗、櫻、楠、椴、赤拂、椎、鹽地又ハ之ニ類似ノ木材ヲ謂ヒ柔材トハ松、樺、米松、榧、赤松、桂、姫子松、榎、赤身杉、檜、杉、蝦夷松、樅又ハ之ニ類似ノ木材ヲ謂フ

第三章 龍骨、船首材、船尾材、舵柱、力材、船尾縱翼材、船尾橫翼材及船尾管舳材

第十九條 龍骨、船首材、船尾材及舵柱ノ寸法ハ第二號表ニ依ル

第二十條 龍骨ヲ構成スル各材ノ長サハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外一〇・五メートル以上ナルコトヲ要ス

ナルコトヲ要ス

前項ノ長サヨリ短キ材ヲ龍骨ニ使用スルトキハ其ノ下面ニ副龍骨ヲ附スベシ此ノ場合ニ於ケル龍骨ノ深サハ規定ノ深サノ三分ノ二以上、副龍骨ノ深サハ龍骨規定ノ深サノ二分ノ一以上ト爲シ肋骨心距ヨリ大ナラザル心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ

前二項ノ規定ハ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

龍骨ニハ龍骨翼板ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿チ且溝ノ上部ニハ適當ナル縁ヲ殘シ置クベシ

第二十一條 龍骨ノ接手ハ鈎形水平嵌接ト爲スコトヲ要ス但シ嵌接ノ中央ニ大ナル木栓ヲ打込ムトキハ平面水平嵌接ト爲スコトヲ得

龍骨ノ嵌接ハ其ノ長サヲ用材ノ深サノ五倍以上、其ノ端末ノ深サヲ用材ノ深サノ四分ノ一以上ト爲シ其ノ兩端ニ二箇宛、其ノ中間ニ三〇センチメートルノ心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ

龍骨ノ嵌接ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防グ爲水留栓ヲ打込ムベシ

龍骨ノ嵌接ハ副龍骨及龍骨翼板ノ嵌接ト一・五メートル以上相避距セシメ且樁根及艙口ト適當ニ避距セシムベシ

第二十二條 船首材ノ寸法ハ滿載吃水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ其ノ頂上ニ於ケル截面積ハ規定ノ截面積ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

船首材ハ一材ヲ以テ作ルベシ但シ長サ三〇メートル以上ノ船舶ニシテ其ノ船首材ノ嵌接ノ長サヲ用材ノ深サノ三倍半以上ト爲シ且適當ノ副船首材ヲ設クル場合ニ於テハ二材ヲ以テ作ルコトヲ得

船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ四倍以上ト爲シ且前條ニ規定スル龍骨ノ嵌接ニ等シキ構造ト爲スベシ

船首材ノ下部屈曲セズシテ龍骨ニ衝接スルトキハ筈ニテ相嵌込ミ兩面ニテ適當ナル金具ヲ附シ且内
部ニ根曲材ヲ設ケ其ノ衝接部ヲ緊著スベシ又接合部ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防グ爲水留栓ヲ打込
ムベシ

第二十三條 車軸孔ヲ有セザル船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作り其ノ上部ヲ上甲板梁ニ固著シ其ノ下
部ニ於ケル龍骨トノ固著ハ前條第四項ノ規定ニ依ルベシ

前項ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ其ノ頂上ニ於ケル截面積ハ規定ノ截面積ノ四
分ノ三ト爲スコトヲ得

第二十四條 車軸孔ヲ有スル船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作り其ノ上部ヲ上甲板梁又ハ第二甲板梁ニ
固著シ其ノ下部ニ於ケル龍骨トノ固著ハ第二十二條第四項ノ規定ニ依ルベシ但シ第二數八〇〇未滿
ノ船舶ニ在リテハ根曲材ヲ省略シ船尾材ト龍骨トヲ直接緊著スルモ妨ナシ

前項ノ船尾材ノ車軸孔ノ各側ニ於テハ其ノ截面積ヲ船尾材ノ規定ノ截面積ノ五分ノ三以上ト爲シ其
ノ厚サヲ規定ノ厚サノ二分ノ一以上ト爲スベシ

第二十五條 舵柱ハ眞直ナル一材ヲ以テ作り上甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テハ筈ニテ龍骨ニ嵌込ミ
且船尾材、龍骨及舵柱ニ跨ル黃銅製金具ヲ兩面ニ取附ケ三材ノ結合ヲ堅固ナラシムベシ但シ長サ三
〇メートル未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ固著方ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

龍骨ヲ船尾材ニ止ムルトキハ第三號表ニ掲グル龍骨ノ寸法ノ五分ノ一ヨリ小ナラザル厚サヲ有スル
黃銅製連結材ヲ設ケ之ヲ船尾材、龍骨及舵柱ニ堅牢ニ固著スベシ

第二十六條 船尾材ト舵柱トハ其ノ上部空間ニ堅材ヲ挿入シ其ノ兩面ニ第三號表ニ掲グル船尾縱翼材
ヲ設ケ之ヲ緊著セシムベシ

船尾縱翼材ハ舵柱ノ接合面ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ其ノ截面積ヲ減ジ其ノ頂上ニ於ケル截面積ハ規定ノ
モノノ三分ノ二ト爲スコトヲ得

舵柱ヲ有セザル船舶ニ在リテハ前二項ノ規定ニ準ジ船尾縱翼材ヲ設クルカ又ハ船尾材前面ニ船尾橫
翼材ヲ設ケ之ヲ船尾材ニ緊著シ且其ノ兩端ヲ橫曲材ヲ以テ船側ニ固著スベシ

船尾橫翼材ハ成ルベク一材ヲ以テ作り其ノ寸法ハ第三號表ニ依ルベシ但シ其ノ兩端ニ於ケル截面積
ハ規定ノモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第二十七條 船首材及船尾材ニハ外板ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿ツベシ

第二十八條 船ノ首尾ニハ斜肋骨ヲ取附クルニ十分ナル高サ及長サヲ有シ龍骨ノ厚サヨリ小ナラザル
厚サヲ有スル力材ヲ設クベシ

第二十九條 船尾管胴材ハ堅材ヲ以テ作り其ノ寸法ハ船尾管ノ徑ノ二倍以上ト爲スベシ

船尾管胴材ハ成ルベク上下二材ヲ以テ構成シ孔ノ兩側ニ於テ三〇センチメートルヲ超エザル心距ニ
敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ

船尾管胴材上部ニハ豎曲材ヲ設ケ船尾材及管胴材ヲ緊著スベシ

船尾管ノ外面ハ少クトモ其ノ前後部ニ於テハ船尾管胴材及船尾材ノ孔面ニ密接セシムルコトヲ要ス

第四章 舵

第三十條 舵心材ノ徑ハ第三號表ニ依ル

航海速力一時間ニ付十海里以上ノ汽船及船體ノ大サニ比シ特ニ大ナル舵ヲ有スル船舶ノ舵心材ハ適
當ニ其ノ徑ヲ増加スベシ

第三十一條 舵心材ハ舵頭迄一材ヲ以テ作り之ヲ矧材ト緊著セシムベシ

矧材ノ厚サハ之ヲ舵心材ノ厚サト等シクシ其ノ後端ニ至ルニ從ヒ適當ニ其ノ厚サヲ減ズルコトヲ得
舵心材頂部ノ舵柄取附部ハ成ルベク角形ト爲シ且其ノ截面積ヲ適當ニ増加スベシ
舵心材筆先部ノ長サハ舵心材ノ徑ノ二倍半ヨリ大ナルコトヲ要ス
第三十二條 舵針及臺金ノ材料、寸法及蝶番ノ數ハ第三號表ニ依ル最上ノ蝶番ハ成ルベク舵頭管ニ近
ク之ヲ設クベシ
第三十三條 鋼又ハ黃銅ノ船底包板ヲ有スル船舶ノ蝶番及舵針ハ黃銅製ナルコトヲ要ス

第五章 肋骨

第三十四條 肋骨ハ天然ノ曲材ヲ以テ構成シ其ノ寸法及心距ハ第二號表ニ依ル

肋骨ノ心距ハ肋骨ノ寸法ヲ規定ノ寸法ヨリ大ト爲ストキハ其ノ寸法ニ應ジ第二號表ニ掲グルモノヨ
リ大ト爲スコトヲ得

肋骨心距ガ第二號表ニ掲グル肋骨心距ノ一倍四分ノ一ヲ超ユルトキハ適當ノ斜帶板ヲ肋骨外面ニ取
附クベシ

第三十五條 肋根材ヲ龍骨ノ上面ニ於テ累接シ長短肢配置ト爲ストキハ船ノ中央部ニ於テハ各肋根材
ノ長サヲ船ノ幅ノ五分ノ二以上ト爲シ且累接ノ長サヲ船ノ幅ノ七分ノ一以上ト爲スベシ
第三十六條 肋根材及半肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長サヲ船ノ
幅ノ四分ノ一以上、半肋根材ノ總長ヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲スベシ

半肋根材ノ衝接ハ龍骨ノ中心線ヲ交互ニ五センチメートル以上左右ニ隔離セシムルコトヲ要ス
第三十七條 長肋根材ト短肋根材トヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ長肋根材ノ長サ
ヲ船ノ幅ノ二分ノ一以上、短肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ七分ノ一以上ト爲シ龍骨ノ上面ニ於テ相累接

セシムベシ

第三十八條 二材合セ肋骨ノ肋材衝接ノ避距ハ第一數七以下ノ船舶ニ於テハ船ノ幅ノ八分ノ一以上、
第一數七ヲ超ユル船舶ニ於テハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スベシ

肋材ノ衝接ハ總テ密接セシメ木栓ヲ以テ相嵌合セシムベシ但シ第一數七以下ノ船舶ニ付テハ木栓ヲ
省略スルコトヲ得

肋骨ヲ構成スル肋材ハ其ノ衝接ノ兩側ニ於テ敲釘又ハ木釘ヲ以テ他ノ肋材ニ緊著セシメ且衝接ノ中
間ニ於テ心距四五センチメートル以内ニ木釘又ハ打込釘ヲ以テ固著セシムベシ

第三十九條 衝接又ハ嵌接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長サ
ヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲シ其ノ他ノ肋材ノ長サヲ船ノ幅ノ三分ノ一以上ト爲スベシ
單材肋骨ノ衝接又ハ嵌接ハ之ヲ其ノ隣接肋骨ノ衝接又ハ嵌接ト船ノ幅ノ七分ノ一以上相避距セシム
ベシ

單材肋骨ノ衝接部ニハ用材ノ截面積以上ノ截面積ヲ有シ用材ノ深サノ四倍以上ノ長サヲ有スル添材
ヲ取附ケ衝接ノ兩側ニ於テ二箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムベシ又其ノ嵌接部ハ嵌接ノ長サヲ
用材ノ深サノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムベシ但シ肋根材ヲ龍骨ノ上面ニ

於テ衝接又ハ嵌接スルトキハ船ノ幅ノ五分ノ一以上ノ長サヲ有スル添材ヲ設クルコトヲ要ス
第四十條 蒸曲材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ第二號表ニ掲グルモノヨリ其ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得
但シ此ノ場合ニ於テハ肋骨ノ心距ヲ適當ニ減ズベシ

第四十一條 船ノ幅ガ深サノ三倍以上ナル船舶ニ於テハ中央部船ノ長サノ三分ノ二間ハ底部肋骨ノ寸
法ヲ増加スベシ

船底彎曲部ノ彎曲半徑小ナル船舶ニ於テハ彎曲部肋骨ヲ適當ニ補強スベシ
第四十二條 斜肋骨ノ踵部ハ力材ニ植込ミ敲釘ヲ以テ堅牢ニ緊著セシムベシ
第四十三條 船首肋材及船首肋材ハ各一材ヲ以テ作り其ノ厚サヲ肋骨ノ厚サノ二倍以上ト爲スベシ
船首材ヨリ船首肋材ノ後方適當ナル距離迄船首肋材、船首肋材及肋骨ノ間隙ニハ填材ヲ挿入スベシ
第四十四條 船尾肋材ハ其ノ心距ヲ頂部ニ於テ第二號表ニ掲グル心距以下、踵部ニ於テ二分ノ一以下ト爲シ其ノ截面積ヲ踵部ニ於テ規定ノ單材肋骨ノ頂材ノ截面積ノ一倍三分ノ一以上、頂部ニ於テ四分ノ三以上ト爲スベシ

船尾肋材ハ船尾縱翼材又ハ船尾橫翼材ニ植込ミ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ

第六章 内龍骨、側内厚板、側内龍骨及彎曲部縱通材

第四十五條 内龍骨、側内厚板及側内龍骨ノ寸法竝ニ彎曲部縱通材ノ厚サハ第三號表ニ依ル

第四十六條 内龍骨ヲ構成スル各材ノ長サハ船ノ首尾兩端ニ使用スルモノヲ除クノ外九メートル以上ナルコトヲ要ス

前項ノ長サヨリ短キ材ヲ以テ内龍骨ヲ構成スルトキハ其ノ上面ニ副内龍骨ヲ附スベシ此ノ場合ニ於ケル内龍骨ノ深サハ規定ノ深サノ三分ノ二以上、副内龍骨ノ深サハ内龍骨ノ規定ノ深サノ二分ノ一以上ト爲シ肋骨心距ヨリ大ナラザル心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ
前二項ノ規定ハ長サ三〇メートル未満ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第四十七條 内龍骨ノ嵌接ハ水平嵌接ト爲シ其ノ長サハ用材ノ深サノ五倍以上、其ノ端末ノ深サハ四分ノ一以上ト爲シ其ノ兩端ニ二箇宛・其ノ中間ニ三〇センチメートルノ心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ

内龍骨ノ嵌接ハ龍骨及副内龍骨ノ嵌接ト一・五メートル以上相避距セシメ又機關ト適當ニ避距セシムベシ

第四十八條 内龍骨ト船ノ首尾ニ於ケル力材トハ二肋骨心距以上相累ネ龍骨迄貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

第四十九條 橋ハ橋座ニ嵌込ミ直接内龍骨ニ嵌込ムコトヲ得ズ

第五十條 側内厚板ハ成ルベク肋根材ト第一肋材トノ接合部ニ之ヲ設クベシ

第五十一條 側内龍骨ハ第二數四五〇以上ノ船舶ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ船ノ首尾兩端ニ於テハ適當ニ減少スルコトヲ得

側内龍骨ノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ四倍以上ト爲シ四箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ
第五十二條 船底彎曲部ニハ船ノ首尾ニ通ズル彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ六分ノ一以上ト爲スベシ但シ船ノ首尾ニ於テハ總幅ヲ適當ニ減ズルコトヲ得

第五十三條 側内厚板及彎曲部縱通材ノ嵌接ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ成ルベク三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ

第七章 船鈔、梁壓材、副梁壓材、梁受板、幅梁受板、船側縱通材及内部腰板

第五十四條 船鈔ハ船ノ長サ二〇メートル以上ノ船舶ニ之ヲ設クベシ但シ第二數四五〇未満ノ船舶ニ於テハ梁壓材ノ幅ヲ第三號表ニ掲グルモノノ一倍半以上ト爲シ之ヲ船鈔ニ兼用スルモ妨ナシ

第五十五條 船鈔ノ厚サハ第三號表ニ依リ其ノ幅ハ外板及梁壓材ニ固著スル二十分ナルモノト爲スコトヲ要ス
船鈔ヲ貫キテ舷牆柱ヲ設クルトキハ船鈔ハ二材ヲ以テ構成スルコトヲ得

第五十六條 梁壓材ハ各層梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル但シ船梁ニ設クルモノハ同表ニ掲グルニ段上級ノモノト爲スコトヲ要ス
 梁トノ接面ニ於ケル梁壓材ノ幅ハ第四號表ニ掲グル梁ノ幅以上ナルコトヲ要ス
 第五十七條 副梁壓材ハ第二數八〇〇以上ノ船舶ノ各層甲板梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル
 第五十八條 梁受板ハ各層梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル但シ船梁ニ設クルモノハ同表ニ掲グルニ段上級ノモノト爲スコトヲ要ス
 第五十九條 副梁受板ハ第二數三七五ヲ超ユル船舶ノ各層梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル
 第六十條 船側縱通材ハ船ノ長サノ中央ニ於テ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ深サガ三メートル以上ナル船舶ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第六十一條 内部腰板ハ第二甲板梁又ハ船梁ノ梁壓材上ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル
 第六十二條 船鈔、梁壓材、副梁壓材、梁受板、副梁受板、船側縱通材及内部腰板ノ嵌接ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ但シ副梁壓材、副梁受板及内部腰板ノ嵌接ニ付テハ敲釘ノ代リニ打込釘ヲ用ウルコトヲ得
 前項ニ掲グル各材ノ嵌接ハ適當ニ相互ニ避距セシムベシ
 第八章 梁及梁ノ配置

第六十三條 甲板梁及船梁ノ寸法ハ第四號表ニ依ル但シ輕甲板船ノ甲板梁ノ寸法ハ同表ニ掲グルニ段下級ノモノト爲スコトヲ得
 船ノ首尾ニ於テ甲板ノ幅ガ中央部ニ於ケル船ノ幅ノ四分ノ三ヨリ小ナル部分ニ附スル梁ハ其ノ截面積ヲ前項ニ掲グルモノノ四分ノ三迄減ズルコトヲ得

第六十四條 甲板梁ノ心距ハ肋骨心距ノ二倍ト爲スベシ但シ一二〇センチメートルヲ超過スルコトヲ得ズ

第六十五條 梁ハ其ノ中央ヨリ兩端ニ至ルニ從ヒ漸次其ノ深サヲ減少シテ梁端ニ於テハ中央ノ深サノ十分ノ九ト爲スコトヲ得

第六十六條 上甲板梁ノ梁矢ハ梁ノ長サノ五十分ノ一、第二甲板梁ノ梁矢ハ梁ノ長サノ百分ノ一ト爲スベシ

第六十七條 各層ニ於ケル梁ハ成ルベク肋骨ノ位置ニ設ケ肋骨ニ密接セシメ且梁受板上ノ鳩尾形溝ニ嵌込ムベシ

各層ニ於ケル梁ハ上下相累ネテ之ヲ設クベシ

第六十八條 甲板口ノ端梁ノ截面積ハ甲板梁ノ規定ノ截面積ニ左ノ係數ヲ乘ジタルモノト爲スベシ但シ機關室口ノ端梁ノ寸法ハ第四號表ニ掲グル船梁ノ寸法以上ナルコトヲ要ス

甲板口ノ長サ(米)	係數
一・五未満	一・一
二・五以上	一・二
三・五未満	一・三
三・五以上	一・四
四・五未満	一・四

甲板口ノ位置ニ特設梁ヲ設ケタル場合ニ於テハ甲板口ノ端ヨリ特設梁迄ノ距離ヲ甲板口ノ長サニ充テ前項ノ規定ヲ適用スベシ

櫓ノ前後ノ梁ノ截面積ハ甲板梁ノ規定ノ截面積ノ一・一倍ト爲スベシ

機關室口ノ端梁ハ堅材ナルコトヲ要ス

第六十九條 甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ノ截面積ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲シ其ノ心距ハ甲板梁ノ心距ニ等シク爲スベシ但シ船ノ幅ノ四分ノ一以下ノ長サヲ有スル半梁ノ寸法ハ適當ニ之ヲ減ズルコトヲ得

第七十條 甲板口及櫓孔ノ兩側ニハ縱梁ヲ設クベシ

縱梁ノ截面積ハ甲板梁ノ規定ノ截面積ニ左ノ係數ヲ乗ジタルモノト爲スベシ

縱梁ノ長サ(米)	係數
二・五未満	〇・八
二・五以上 三・五未満	一・〇
三・五以上 四・五未満	一・二

機關室口ノ縱梁ハ堅材ナルコトヲ要ス

第七十一條 船ノ長サノ中央ニ於テ最下甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ深サガ四メートル以上五メートル未満ナル船舶ニ於テハ船ノ長サノ中央部二分ノ一間ハ上甲板梁一本置ニ輪梁ヲ設クベシ

前項ノ深サガ五メートル以上ナル船舶ニ付テハ船ノ首尾ヲ通ジ上甲板梁一本置ニ輪梁ヲ設クベシ

第七十二條 前條第一項ノ船舶ニ在リテハ船ノ長サノ中央部二分ノ一間ニ於テ船側肋骨、船底肋骨及甲板梁ノ截面積ヲ規定ノ截面積ノ五分ノ一以上、彎曲部肋骨ノ截面積ヲ規定ノ截面積ノ三分ノ一以

上増加シ且第六十條ニ規定スル船側縱通材ノ截面積ヲ輪梁ノ規定ノ面積以上ト爲ストキハ輪梁ヲ設ケザルモ妨ナシ

前條第二項ノ船舶ニ在リテ船ノ全長ニ互リ前項ノ補強ヲ爲ストキハ輪梁ヲ設ケザルモ妨ナシ

前二項ノ船側縱通材ノ嵌接ノ長サハ用材ノ幅ノ四倍以上ト爲シ四箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ

第七十三條 艙口、機關室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハザルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スベシ

揚錨機、斜檣等ヲ支フル梁ハ其ノ寸法ヲ適當ニ増加スベシ

第九章 梁曲材

第七十四條 各層甲板梁ニハ梁毎ニ第四號表ニ掲グル堅梁曲材ヲ取附クベシ但シ船ノ幅五メートル未満ノ船舶ニ付テハ堅梁曲材ノ寸法ヲ同表ニ掲グル二段上級ノモノト爲ストキハ甲板梁一本置ニ之ヲ取附クルコトヲ得

甲板口端梁ニ附スル堅梁曲材ハ梁ノ寸法ニ應ジ適當ニ其ノ寸法ヲ増スコトヲ要ス

輕甲板船ノ甲板梁ニ附スル堅梁曲材ノ寸法ハ第四號表ニ掲グル二段下級ノモノ迄減ズルコトヲ得

第七十五條 輪梁ニハ梁毎ニ第四號表ニ掲グル三段上級ノ堅梁曲材ヲ取附クベシ

第七十六條 堅梁曲材ノ代リニ鋼製肘板及山形材ヲ用ウルトキハ其ノ寸法ハ第四號表ニ依ル但シ梁腕

及側腕ニ於ケル山形材ノ長サハ堅梁曲材ノ腕ノ長サト等シクスベシ

第七十七條 櫓孔前後ノ梁又ハ長サ二・五メートルヲ超ユル甲板口ノ縱梁及端梁ノ兩端ニハ橫梁曲材ヲ取附クベシ

機關室口及長サ三・五メートルヲ超ユル艙口ノ端梁ニハ其ノ兩面ニ前項ノ橫梁曲材ヲ設クベシ

橫梁曲材ノ厚サ及幅ハ第四號表ニ掲グル豎梁曲材ノ厚サ及幅ノ四分ノ三以上ト爲スベシ

第七十八條 甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ハ豎梁曲材ヲ以テ之ヲ船側ニ固著セシムルノ外其ノ兩端ニハ

橫梁曲材ヲ設ク之ヲ船側及縱梁ニ固著セシムベシ但シ船ノ幅ノ四分ノ一以下ノ長サヲ有スル半梁ニ

於テハ豎梁曲材ハ之ヲ梁毎ニ附セザルモ妨ナク又長サ二・五メートル未滿ノ甲板口ニ於ケル半梁ニ

付テハ管海官廳ニ於テ橫梁曲材ノ取附ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第七十九條 肋骨間ニ於テ豎梁曲材ヲ固著セシムルトキハ該部ニ填材ヲ挿入スベシ

第十章 梁柱

第八十條 梁柱ハ梁毎ニ之ヲ設クベシ但シ船ノ首尾ニ於テ上甲板ノ幅ガ船ノ幅ノ二分ノ一以下ナル部

分ニ設クル梁ニハ之ヲ設ケザルモ妨ナシ

上層梁ニ梁柱ヲ設クルトキハ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クベシ

第八十一條 甲板梁ノ規定ノ截面積以上ノ截面積ヲ有スル梁下縱通材ヲ設ケ且梁柱ノ截面積ヲ第八十

三條ニ依ルモノノ一倍半ト爲ストキハ梁一本置ニ梁柱ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ梁下縱通材ノ接手ハ嵌接ト爲スコトヲ要シ其ノ長サハ用材ノ深サノ三倍以上ト爲スベシ

第八十二條 船ノ幅五メートル未滿ノ船舶ニ於テハ梁及之ニ附スル豎梁曲材ノ寸法ヲ表ニ掲グル三段

上級ノモノト爲ストキハ梁柱ヲ設ケザルモ妨ナシ

第八十三條 艙内ニ於ケル木製梁柱ノ各邊ノ寸法ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ

$S = 15(N + 2)$

S ハ各邊ノ寸法(ミリメートルニテ)

N ハ第一數

鐵製中實梁柱ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$d = 6(N + 1)$

d ハ徑(ミリメートルニテ)

N ハ第一數

甲板間ノ梁柱ノ截面積ハ前二項ノ規定ニ依ルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第八十四條 梁ノ心距ガ規定ノモノヨリ大ナルトキハ梁柱ノ寸法ハ前條ノ規定ニ依ルモノヨリ適當ニ

其ノ寸法ヲ增加スベシ

第八十五條 梁柱ガ木製ナルトキハ適當ナル金具ヲ以テ又鐵製ナルトキハ二箇以上ノ螺釘又ハ捻込釘

ヲ以テ十分ニ其ノ兩端ヲ固著セシムベシ

第八十六條 甲板室、斜檣、揚錨機及揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クベシ

第十一章 外板、舷牆及内張板

第八十七條 外板、外部腰板、舷側厚板及龍骨翼板ノ寸法ハ第三號表ニ依ル但シ船ノ首尾兩端ニ於テ船

ノ長サノ五分ノ一間ハ車軸覆板ノ附近ニ於ケル外板ヲ除キ漸次其ノ厚サヲ減ジ船ノ首尾ニ在リテハ

同表ニ掲グル寸法ノ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第八十八條 外板、外部腰板、舷側厚板及龍骨翼板ノ長サハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外五・

五メートル以上ト爲シ外板及外部腰板ノ幅ハ三〇センチメートル以下ト爲スベシ

第八十九條 外板、外部腰板、舷側厚板及龍骨翼板ノ橫線ハ上下ニ隣接スルトキハ三肋骨心距以上、一

條ヲ隔ツルトキハ二肋骨心距以上、二條ヲ隔ツルトキハ一肋骨心距以上相互ニ避距セシムルコトヲ要シ又三條ヲ隔ツルニ非ザレバ同一ノ肋骨上ニ之ヲ置クコトヲ得ズ但シ船ノ首尾兩端ニ於テハ之ヲ適用セザルコトヲ得

第九十條 龍骨翼板ノ兩舷ニ於ケル橫線ハ相互ニ三肋骨心距以上且龍骨ノ嵌接ト一・五メートル以上避距セシムベシ

龍骨翼板ノ橫線ハ嵌接ト爲スコトヲ要シ其ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ但シ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ於ケル龍骨翼板ノ嵌接ニ付テハ敲釘ノ代リニ龍骨迄達スル長サヲ有スル打込釘ヲ用ウルコトヲ得

第九十一條 外部腰板ハ吃水線附近ニ取附ケ其ノ總幅ハ左表ニ依ル

船ノ長サノ深サニ割スル割合	外部腰板ノ總幅ト船ノ深サトノ割合
六倍以下	百分ノ二十五
六倍ヲ超エ下	百分ノ三十
八倍ヲ起エ下	百分ノ三十五
十倍以下	百分ノ四十
十倍ヲ超ユルトキ	

第九十二條 舷側厚板ハ其ノ幅三〇センチメートルヲ超ユルトキハ二材ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ各材ハ肋骨ノ間ニ於テ二肋骨心距ヨリ大ナラザル心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ

緊著セシムベシ

舷側厚板ノ橫線ハ梁壓材及梁受板ノ嵌接ト適當ニ避距セシムベシ

舷側厚板ノ橫線ハ嵌接ト爲スコトヲ要シ其ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ

第九十三條 重甲板船ノ暴露上甲板ニハ適當ナル高サヲ有スル舷牆ヲ設クベシ

前項ノ舷牆ハ之ヲ堅牢ニ構造シ若シ舷門ヲ設クル爲之ヲ切斷スルトキハ其ノ兩舷牆柱ヲ適當ニ補強スベシ

第九十四條 内張板ノ厚サハ第三號表ニ依ル但シ船ノ首尾兩端ニ於テハ同表ニ掲グル厚サノ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第十二章 甲板

第九十五條 木甲板ノ厚サハ第三號表ニ依ル

木甲板ノ幅ハ二五センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ又其ノ端末ニ於ケル幅ハ填絮ヲ施ス二十分ナルコトヲ要ス

木甲板ノ長サハ五・五メートル以上ト爲スベシ但シ船ノ首尾兩端及甲板口間ニ於ケルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第九十六條 木甲板ノ橫線ハ相隣接スル木甲板ニ付テハ梁心距ノ二倍以上相互ニ避距セシムルコトヲ要シ又木甲板三條ヲ隔ツルニ非ザレバ同一ノ梁上ニ之ヲ置クコトヲ得ズ

第九十七條 艙口、機關室口其ノ他大ナル甲板口ガ相接近スルトキハ該口間ノ木甲板ハ其ノ厚サヲ適當ニ増加シ之ヲ特ニ堅牢ニ梁ト固著セシムベシ

第九十八條 揚船機、揚貨機、繫船機具等ノ下部ニ於ケル甲板ニハ適當ナル補強構造ヲ爲スベシ
 第十三章 船首肘材及船尾肘材
 第九十九條 最下層梁ノ下方ニ於テハ左表ニ定ムル數ノ船首肘材及船尾肘材ヲ設ケ層梁間ニ於テハ一箇以上ノ船首肘材ヲ設クベシ

種 類	船ノ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離				
	一・五メートル以下ノトキ	一・五メートルヲ超ユ	三メートル以下	四メートル以下	五メートル以下
船首肘材ノ數	一箇	二箇	三箇	四箇	五メートルヲ超ユルトキ
船尾肘材ノ數	一箇	一箇	一箇	二箇	每一メートル以内ノ距離ニ一箇

第一百條 船首肘材及船尾肘材ノ寸法ハ第四號表ニ依ル
 第一百一條 各層梁受板ノ端末ニハ別ニ肘材ヲ設クベシ
 第一百二條 船首肘材及船尾肘材ハ成ルベク縱通材ノ位置ニ之ヲ設ケ下部ニ用ウルモノハ其ノ部分ニ於ケル内張板ニ四五度ノ角度ヲ以テ之ヲ交叉セシムベシ

第十四章 適當比例ノ船舶
 第一百三條 本章ニ於テ適當比例ノ船舶トハ其ノ長サガ深サノ十倍ヲ超ユルカ又ハ幅ノ六倍ヲ超ユル船舶ヲ謂フ
 第一百四條 適當比例ノ船舶ニハ其ノ長サト深サ又ハ長サト幅トノ割合ニ依リ左表ニ從ヒ上部ニ於テハ梁壓材及舷側厚板ノ截面積ヲ増シ下部ニ於テハ内龍骨若ハ側内龍骨ノ截面積ヲ増スカ又ハ内龍骨ノ

兩側ニ添材内龍骨ヲ増設スベシ

長サト深サ又ハ幅トノ比	梁壓材ノ增加スベキ截面積トノ割合	舷側厚板ノ增加スベキ截面積トノ割合	内龍骨ノ增加スベキ截面積トノ割合又ハ兩側ニ増設スベキ添材内龍骨ノ合計截面積トノ割合
長サガ深サノ十倍ヲ超ユルカ又ハ幅ノ六倍ヲ超ユ	百分ノ十五	百分ノ十五	百分ノ二十五
長サガ深サノ十倍以下又ハ幅ノ六倍以下	百分ノ十五	百分ノ十五	百分ノ二十五
長サガ深サノ十倍以下又ハ幅ノ七倍以下	百分ノ三十	百分ノ三十	百分ノ五十
長サガ深サノ十倍以下又ハ幅ノ七倍以下	百分ノ五十	百分ノ五十	百分ノ八十

第一百五條 第二數八〇〇ヲ超ユル適當比例ノ船舶ニ付テハ船ノ首尾ヲ通シ鋼製斜帶板ヲ肋骨ノ外面ニ取附クベシ

前項ノ斜帶板ノ幅ハ肋骨心距ノ六分ノ一以上ト爲シ其ノ厚サハ幅ノ八分ノ一以上ト爲スベシ
 第一百六條 斜帶板ハ肋骨ニ四五度ノ角度ニ取附ケ船首ニ於テハ其ノ頭部ヲ後方ニ向ハシメ船尾ニ於テハ之ヲ前方ニ向ハシムル様配置シ船鐔ノ下部ヨリ肋根材迄達セシメ其ノ心距ハ左表ニ依ル

長サト深サ又ハ幅トノ比	心距(糧)
長サガ深サノ十倍ヲ超ユルカ又ハ幅ノ六倍ヲ超ユ	二四〇
長サガ深サノ十倍以下又ハ幅ノ六倍以下	二四〇

長サガ深サノ十一倍ヲ超エ十二倍以下又ハ幅ノ七倍ヲ超エ八倍以下	二二〇
長サガ深サノ十二倍ヲ超ユルカ又ハ幅ノ八倍ヲ超ユルモノ	一八〇

第七百七條 斜帶板ハ船ノ中央部ニ於テハ三本以上相交叉セシメ其ノ交叉部ハ板ノ厚サノ二倍以上ノ徑ヲ有スル鉸釘一箇ヲ以テ固著セシムベシ
斜帶板ノ累接部ハ累接ノ長サヲ板ノ幅以上ト爲シ板ノ厚サノ二倍以上ノ徑ヲ有スル鉸釘二箇以上ヲ以テ固著セシムベシ

第十五章 甲板口及船側口

第八百八條 暴露甲板ニ設クル艙口、機關室口、載炭口、出入口、天窗、通風器等ノ諸口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ニハ縁材ヲ設ケ其ノ甲板上ノ高サハ左表ニ依ルベシ但シ第三級船ノ上甲板ニ設クル大ナル艙口ニ於テ挿板等ヲ以テ之ヲ蔽圍スル構造ト爲スモノニ付テハ其ノ水密裝置適當ナラザル限リ艙口縁材ノ甲板上ノ高サヲ四五センチメートル以上ト爲スベシ

船ノ種類	第一級船又ハ長サ六〇メートルヲ超ユル第二級船		第三級船
	長サ六〇メートル以下ノ第二級船	第一級船又ハ長サ六〇メートルヲ超ユル第二級船	
重甲板船ノ上甲板	四五種	三〇種	一五種
輕甲板船ノ上甲板、低船首樓甲板及低船尾樓甲板	三〇種	二三種	一五種
船樓甲板(低船首樓甲板及低船尾樓甲板ヲ除ク)	二三種	一五種	一〇種

船樓甲板又ハ第三級船以下ノ船船ノ上甲板ニ於テハ平載炭孔ヲ設クルコトヲ得

前項ノ平載炭孔ノ枠及蓋ハ黃銅製又ハ鋼製ニテ堅牢ニ之ヲ構造シ其ノ蓋ハ螺込又ハ挿込接合ト爲シ若シ蝶番ニ依リ取附ケラザルトキハ鎖ヲ以テ常ニ枠ニ連結シ置クコトヲ要ス

暴露甲板ニ設クル艙口及機關室ノ縁材ノ厚サハ第一項ノ表ニ掲グル縁材ノ高サノ三分ノ一以上ト爲スベシ但シ縁材ノ實際ノ高サノ五分ノ一ヨリ小ナラズ且七センチメートルヨリ小ナラザルコトヲ要ス

第九百九條 帆船ニ付テハ上甲板及櫓ヲ楔止メト爲ス甲板ニ於ケル櫓ノ前後ノ梁ノ間ニハ櫓ノ兩側ニ縱梁ヲ設ケ填材及橫梁曲材ヲ以テ固メ且其ノ上面ニ甲板ノ厚サノ一倍三分ノ一ノ厚サト櫓徑ノ二倍ヨリ少カラザル幅トヲ有スル櫓孔板ヲ設クベシ但シ小ナル櫓孔ニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百十條 長サ二・五メートル以上ノ艙口ニハ中央ニ堅牢ナル取外シ得ベキ梁ヲ設ケ縱梁ニ堅固ニ取附ケラレタル堅材ノ受臺ニ嵌込ムベシ

長サ三・五メートル以上ノ艙口ニハ前項ノ梁ノ代リニ第四號表ニ掲グル艙梁ノ寸法以上ノ寸法ヲ有スル特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一箇及橫梁曲材二箇ヲ以テ之ヲ船側ニ固著セシムベシ

長サ四・五メートルヲ超ユル艙口又ハ船ノ幅ノ三分ノ一ヲ超ユル幅ヲ有スル艙口ニ在リテハ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ船體ノ強力ヲ補強スベシ

第一百十一條 艙口ニハ蓋板ヲ備ヘ縱材又ハ艙口梁ヲ以テ之ヲ支フル裝置ト爲スベシ
艙口ノ縱材又ハ艙口梁ノ心距ハ一・五メートル以内ト爲シ其ノ兩端ハ縁材ニ堅牢ニ取附ケラレタル堅材ノ受臺ニ嵌込ムベシ

蓋板ノ厚サハ支點間ノ間隔一メートルニ付三・五センチメートルト爲スベシ但シ二・五センチメートルヨリ小ナルコトヲ得ズ
 縦材又ハ艙口梁ノ寸法ハ其ノ長サニ應ジ左表ニ依リ之ヲ定ムベシ

縦材又ハ艙口梁ノ長サ(米)	縦材又ハ艙口梁ノ心距	
	一・五メートルノトキ	一メートル以下ノトキ
一・五	一三〇度角	一一〇度角
二・五	一八〇度角	一六〇度角
三・五	二二〇度角	二〇〇度角
四・五	二六〇度角	二三〇度角

長サ三〇メートル未満ノ船舶又ハ輕甲板船ノ上甲板、低船首樓甲板及低船尾樓甲板ニ於ケル艙口ノ蓋板、縦材又ハ艙口梁ノ寸法ハ前二項ニ依ルモノノ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第一百十二條 暴露甲板ノ艙口縁材ノ外面ニハ七五センチメートル以内ノ心距ニ及艙口ノ四隅ヨリ二〇センチメートルヲ超エザル距離ニ堅牢ナル帶金受ヲ取附ケ覆布、帶金又ハ帶板及楔ヲ以テ密閉シ得ベキ裝置ト爲スベシ但シ小ナル艙口ノ密閉裝置ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル
 近海以上ノ航行區域ヲ有スル總噸數一五〇噸以上ノ船舶ノ暴露セル各艙口ニハ艙口覆布試驗規程ニ依ル甲種覆布二枚ヲ備ヘ且艙口ノ長サ三メートル以上ナルトキハ適當ナル壓材ヲ以テ之ヲ締附クル

裝置ヲ備フベシ

第一百十三條 長サ三・五メートル以上ノ機關室口ノ中央ニハ第四號表ニ掲グル艙梁ノ寸法以上ノ寸法ヲ有スル堅材ノ特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一箇及橫梁曲材二箇ヲ以テ之ヲ船側ニ固著セシムベシ
 長サ四・五メートルヲ超ユル機關室口又ハ船ノ幅ノ三分ノ一ヲ超ユル幅ヲ有スル機關室口ニ在リテハ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ船體ノ強力ヲ補強スベシ
 第一百十四條 機關室口ハ成ルベク小サク之ヲ作り其ノ周圍ニハ縁材ヲ取附ケ甲板間ニ圍壁ヲ設クベシ
 暴露甲板ニ設クル機關室口ハ左表ニ掲グル甲板上ノ高サヲ有スル堅牢ナル圍壁ヲ以テ之ヲ蔽圍スベシ但シ小ナル機關室口ニ付テハ管海官廳ニ於テ圍壁ノ高サヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

船ノ種類	船ノ種類		
	第一級船又ハ長サ六メートルヲ超ユル第二級船	長サ六メートル以下ノ第二級船	第三級船
甲板ノ種類			
重甲板船ノ上甲板	一五〇糎	一二〇糎	六〇糎
輕甲板船ノ上甲板	一二〇糎	九〇糎	六〇糎
低船首樓甲板及低船尾樓甲板			
船樓甲板(低船首樓甲板及低船尾樓甲板ヲ除ク)	六〇糎		

暴露甲板ニ設クル機關室口ノ圍壁ニハ第八條第一項ニ規定スル縁材ノ高サ以上ノ高サニ於テ出入口ヲ設クルコトヲ得但シ之ヲ設ケタルトキハ堅牢ナル戸ヲ備フベシ
 第一百十五條 機關室口圍壁ノ頂部ニハ天窗ヲ設クベシ

前項ノ天窓ニハ縁材ヲ設ケ且適當ナル覆蓋ヲ備フベシ

汽罐室圍壁ノ頂部ニ開口ヲ設クルトキハ蝶番ヲ以テ固著シタル鋼製ノ蓋板ヲ備フベシ

第一百十六條 暴露甲板ニ設クル載炭口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋、覆布及適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルベキ裝置ヲ備フベシ

暴露甲板ニ設クル通風器ニハ有效ナル閉鎖裝置ヲ備フベシ

第一百十七條 船側ニ載貨門又ハ載炭門其ノ他大ナル開口ヲ設クルトキハ其ノ周圍ニハ適當ノ補強構造ヲ爲シ其ノ枠ハ堅材ヲ使用シ其ノ戸ハ堅牢ニ作り適當ノ締具ヲ備ヘ閉鎖シタルトキ水密トナルベキ構造ト爲スベシ

第一百十八條 船側口ハ舷側厚板、梁受板、副梁受板及内部腰板ヲ切缺ギテ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ特ニ相當ノ補強構造ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十九條 滿載吃水線ヲ標示スル船舶ノ上甲板下ニ設クル舷窓ニシテ海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一五センチメートル未滿ノ箇所ニ其ノ下縁ヲ有スルモノハ舷窓試驗規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノ又海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一二センチメートル未滿ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設クル舷窓ハ同規程ニ適合スル乙種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

第十六章 固著釘及固著法

第二十條 堅梁曲材ニ用ウル固著釘ノ徑ハ第四號表ニ依リ其ノ他重要ナル部分ニ用ウル固著釘ノ徑

ハ第五號表ニ依ル但シ用材ノ寸法ガ規定ノ寸法ヨリ大ナルトキハ固著釘ノ徑ヲ適當ニ増加スベシ

打込釘ノ徑ハ第五號表ニ掲グル敲釘ノ徑ヨリ三ミリメートル減ジタルモノト爲スコトヲ得

圓釘ノ代リニ角釘ヲ用ウルトキハ其ノ邊ハ圓釘ノ徑ノ十分ノ九ト爲スベシ

敲釘ヲ打込ムベキ釘孔ノ徑ハ釘徑ヨリ一・五ミリメートル以上小ナルモノト爲スベシ

敲釘ハ總テ同金屬ノ座金ノ上ニテ敲著セシムベシ

螺釘ハ敲釘ノ代リニ之ヲ用ウルコトヲ得

第二百一十一條 打込釘ノ長サハ固著スベキ材料ノ厚サニ應ジ成ルベク長キモノヲ用ウベシ

板ヲ肋骨又ハ梁等ニ固著スル打込釘ノ長サハ板ノ厚サノ二倍四分ノ一以上ト爲スベシ

第二百一十二條 木釘ヲ用ウルトキハ其ノ兩端ハ固著セラルル用材ノ木理ニ直角ノ方向ニ之ヲ切開シテ

楔止メト爲スベシ但シ外板及外部腰板ヲ固著スル木釘ノ外端ハ楔止メ代リニ填絮ヲ施スベシ

頭部ヲ三ミリメートル以上太メタル勾配木釘ヲ用ウルトキハ其ノ頭端ニ付テハ前項ノ施工ヲ爲スコトヲ要セズ

木釘ハ固著セラルル用材ノ厚サノ和ヨリ適當ニ長キモノヲ使用スベシ

木釘ヲ打込ムベキ孔ノ徑ハ釘徑ヨリ一ミリメートル以上小ナルモノト爲スベシ

第二百二十三條 銅又ハ黃銅ノ船底包板ヲ施スベキ外板等ノ固著釘ニ鋼又ハ亞鉛鍍鋼ヲ使用スルトキハ

其ノ頭部ニ填絮ヲ卷附ケタル儘之ヲ打込ミ且其ノ頭部ヲ緊密ニ打込ミタル木栓等ヲ以テ保護スベシ

外板及甲板等水密ヲ要スル場所ニ使用スル敲釘又ハ打込釘ニ付テハ前項ニ該當セザルモノト雖モ成ルベク前項ノ施工ヲ爲スベシ

第二百二十四條 船ノ首尾ニ於ケル力材又ハ内龍骨ト船首材、船尾材又ハ龍骨トハ此等ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ四五センチメートル以内ノ心距ニ於テ固著セシムベシ但シ内龍骨ト力材トガ相累接スル箇所

ニ於テハ敲釘ハ内龍骨ヲ貫通セシムルコトヲ要ス

舵柱ハ推進器孔ノ上部ニ於テ四五センチメートル以内ノ心距ニ船尾材迄貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

第二百五條 舵心材ト矧材トハ四五センチメートル以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ固著セシムベシ

第二十六條 肋骨ハ打込釘ヲ以テ之ヲ龍骨ニ固著セシムベシ

第二十七條 龍骨ト内龍骨トハ肋骨毎ニ肋骨ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ固著セシムベシ

第二十八條 側内厚板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ

第二十九條 側内龍骨ハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ

第三十條 彎曲部縦通材ハ其ノ幅一五センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ、幅一五

センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ但シ其ノ幅

二〇センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ用ウベキ固著釘ノ數ヲ適當ニ増加スベシ

前項ノ敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要ス

第三十一條 梁受板及副梁受板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ

梁受板ノ敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要ス

第三十二條 梁壓材ノ固著ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 肋骨トノ固著 船鰐ニ兼用セザル梁壓材ハ肋骨毎ニ梁壓材、肋骨及外板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ

之ヲ固著セシムベシ但シ第二甲板又ハ艙梁ニ於ケル梁壓材ノ敲釘ハ外板ヲ貫通セザルモ妨ナシ

二 梁トノ固著 梁壓材ハ梁毎ニ打込釘ヲ以テ之ヲ梁ニ固著セシムベシ

三 梁受板トノ固著 船鰐ニ兼用スル梁壓材又ハ第二甲板若ハ艙梁ノ梁壓材ハ梁毎ニ梁及梁受板ヲ

貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ但シ第二數四五〇未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ適

當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

四 舷側厚板トノ固著 船鰐ニ兼用スル梁壓材ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ之ヲ

舷側厚板ニ固著セシムベシ

五 舷側柱トノ固著 船鰐ニ兼用スル梁壓材ヲ貫キテ舷側柱ヲ設クルトキハ舷側柱毎ニ敲釘ヲ以テ

之ヲ緊著セシムベシ

第三十三條 副梁壓材ハ梁毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ梁ニ固著セシムベシ

第二數一、七五〇ヲ超ユル船舶ニ於テハ副梁壓材ハ肋骨一本置ニ梁壓材、肋骨及外板ヲ貫通スル敲釘

ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

第三十四條 船鰐ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ之ヲ舷側厚板ニ固著セシムベシ

船鰐ハ梁毎ニ梁壓材、梁及梁受板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシメ且梁ノ間ニ於テ打込釘ヲ以

テ之ヲ梁壓材ニ固著セシムベシ

船鰐ヲ貫キテ舷側柱ヲ設クルトキハ船鰐ハ舷側柱毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシメ且船鰐ヲ二材合セ

ト爲ストキハ舷側柱ノ間ニ於テモ敲釘ヲ以テ之ヲ相互ニ緊著セシムベシ但シ肋骨毎ニ肋材ヲ延長シ

テ舷側柱ト爲ス場合ニ於テ船鰐ガ一材ヨリ成ルモノナルトキハ舷側柱毎ニ用ウル敲釘ハ舷側柱一本

置ニ十分ナル長サヲ有スル打込釘ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得又船鰐ガ二材合セナル場合ニ於テ舷

側柱ノ心距ガ肋骨心距以下ナルトキハ舷側柱ノ間ニ於ケル敲釘ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十五條 船側縦通材ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ但シ第七十二條

第一項又ハ第二項ヲ適用シタル場合ノ船側縦通材ニ在リテハ肋骨毎ニ外板ヲ貫通スル敲釘二箇ヲ以

テ之ヲ固著セシムベシ

第三百三十六條 内部腰板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ
 第三百三十七條 豎梁曲材ニ用ウル敲釘ノ心距ハ木製梁曲材ニ在リテハ二三センチメートルヲ、鋼製梁曲材ニ在リテハ三〇センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ又敲釘ノ數ハ側腕ニ於テハ咽喉部釘ヲ含ミ三箇以上、梁腕ニ於テハ二箇以上ナルコトヲ要ス
 柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成シタル船舶ニ於ケル豎梁曲材ノ側腕ニ用ウル敲釘ハ總テ外板迄貫通セシムルコトヲ要ス
 橫梁曲材ノ各腕ニ於ケル敲釘ノ數ハ二箇以上ナルコトヲ要ス

第三百三十八條 外板、外部腰板、龍骨翼板及舷側厚板ハ其ノ幅二〇センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅二〇センチメートル超エ三〇センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅二五センチメートル超エ三〇センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ固著釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ但シ肋骨單材ナルトキハ幅二五センチメートル超ユル場合ト雖モ固著釘ノ數ヲ三箇ト爲スコトヲ得

三〇センチメートル超ユル幅ヲ有スル龍骨翼板及舷側厚板ニ在リテハ之ヲ肋骨毎ニ固著セシムベキ固著釘ノ總數ハ幅七・五センチメートル毎ニ及其ノ端數ニ付一箇ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムベシ但シ肋骨單材ナルトキノ固著釘ノ總數ハ之ヨリ一箇ヲ減ズルコトヲ得

龍骨翼板及舷側厚板ニ於テハ前二項ノ固著釘ノ中其ノ幅三五センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ一箇以上、幅三五センチメートル超ユルトキハ肋骨毎ニ二箇以上ノ敲釘ヲ用ウベシ
 外板及外部腰板ニ於テハ第一項ノ固著釘ノ中肋骨一本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ヲ用ウベシ但シ肋骨毎ニ敲釘又ハ木釘一箇以上ヲ用ウルトキハ固著釘四箇ヲ要スル場合ト雖モ之ヲ三箇ト爲スコト

ヲ得

船底彎曲部ノ彎曲半徑小ナル船舶ノ彎曲部外板ニ於テハ肋骨毎ニ一箇以上ノ敲釘ヲ用ウベシ

第三百三十九條 外板及外部腰板ハ肋骨ノ箇所ニ於テ衝接シ横縁ノ兩側ニ於テハ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ但シ該肋骨ニ隣接スル肋骨ニ敲釘ヲ以テ固著セシメタル外板及外部腰板ニ付テハ其ノ横縁ノ兩側ニハ打込釘ノミヲ用ウルモ妨ナシ

第四百十條 第二數一、五〇〇ヲ超ユル船舶ノ中央部船ノ長サノ五分ノ三間ニ於テハ龍骨翼板ヲ肋骨ノ間ニ於テ二肋骨心距以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ之ヲ龍骨ニ固著セシムベシ

第四百十一條 木甲板ハ幅一五センチメートル以下ナルトキハ一箇以上、幅一五センチメートル超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ之ヲ梁毎ニ固著セシムベシ

第四百十二條 船首肘材又ハ船尾肘材ハ其ノ咽喉部ヲ船首材又ハ船尾材ニ敲釘ヲ以テ固著セシメ其ノ兩腕ハ四五センチメートル以内ノ心距ニ成ルベク肋骨ノ箇所ニ於テ外板迄貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

船首肘材又ハ船尾肘材ノ各腕ニ於ケル敲釘ノ數ハ咽喉部釘ヲ除キ二箇以上ナルコトヲ要ス

第四百十三條 斜帶板ハ板ノ厚サノ二倍以上ノ徑ヲ有スル敲釘ヲ以テ之ヲ肋骨毎ニ固著セシムベシ

第四百十四條 甲板口ノ縁材ハ四五センチメートル以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ端梁又ハ縱梁ニ固著セシムベシ

第十七章 填絮及船底包板

第四百十五條 水密ト爲スベキ接合部ニハ填絮ヲ施スベシ

第四百十六條 填絮ヲ施シタル部分ハ射水又ハ漲水ニ依ル水密試験ニ堪フルモノナルコトヲ要ス

第四百十七條 船底ニハ滿載吃水線附近ノ所迄船底包板ヲ張詰ムベシ但シ適當ノ防腐劑ヲ塗布スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八章 機關室

第四百十八條 機關室ノ前後ニハ少クトモ第二甲板ニ達スル隔壁ヲ設クベシ

第二數一、五〇〇ヲ超ユル船舶ニ付テハ前項ノ隔壁及石炭庫ノ圍壁ヲ鋼製ト爲スベシ

第四百十九條 機關室ノ甲板間ニ於ケル部分ノ周圍ニハ圍壁ヲ設ケ之ヲ暴露甲板迄達セシムベシ

第四百十條 機關ノ下部ニ於ケル内龍骨ハ成ルベク堅材ヲ使用シ且汽罐ノ下部ト内龍骨ノ上部トヲ三〇センチメートル以上隔離スルカ又ハ該部ニ適當ノ防熱工事ヲ施スベシ

第四百十一條 隔壁、圍壁其ノ他船體ノ部分ガ木製ニシテ發動機又ハ汽罐ニ接近シ燃燒ノ虞アルモノナルトキハ之ニ金屬板ヲ張ルカ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ヲ豫防シ且汽罐ニ接近スル場合ニハ防熱ノ爲金屬板ノ下ニ石棉若ハ毛紙ヲ敷クカ又ハ適當ノ間隔ヲ置クベシ

電動機船ノ蓄電池室ニハ通風ノ裝置ヲ爲シ其ノ床ハ鉛板ヲ以テ之ヲ覆フベシ

第四百十二條 機關室ニ付テハ第四百十三條ニ依ル機關室口ノ補強ヲ爲スノ外機關ノ種類及馬力ニ應ジ肋骨及縱通材ニ適當ノ補強ヲ爲スベシ

第四百十三條 機關臺ハ成ルベク長キ堅材ヲ以テ適當ニ構造シ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ固著スルノ外必要ニ應ジ肋骨ノ位置ニ於テ機關臺ノ兩側ニ豎曲材ヲ取附ケ之ヲ堅牢ニ船底ニ固著セシムベシ

第四百十四條 第二數二、〇〇〇ヲ超ユル船舶ニ付テハ機關室ヨリ船尾管ニ達スル通行シ得ベキ軸路ヲ設クベシ但シ甲板ヨリ各軸受及船尾管ニ達シ得ベキ昇降路ヲ設クルトキハ軸路ハ通行シ得ザルモノナルモ妨ナシ

第十九章 船樓及甲板室

第四百十五條 輕甲板船ニ在リテハ甲板室又ハ船橋樓ノ高さハ二・一メートルヲ超ユルコトヲ得ズ又船ノ首尾ニ於テ船ノ長サノ五分ノ一間ニハ甲板室ヲ設クルコトヲ得ズ

第四百十六條 船首樓、船橋樓及船尾樓ノ各材ノ截面積ハ上甲板下ノ各材ノ截面積ノ四分ノ三以上ト爲スベシ

船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ヲ設クルトキハ上甲板ニ於ケル肋骨間ノ空隙ハ船鈔ヲ以テ閉塞シ之ヲ水密ト爲スベシ

第四百十七條 低船首樓又ハ低船尾樓ノ各材ノ寸法ハ上甲板以下ニ要スルモノニ等シクスベシ

低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クルトキハ上甲板ノ梁壓材及梁受板ヲ該船樓内ニ五肋骨心距以上延長スベシ但シ第二數四五〇未滿ナルトキハ四肋骨心距以上、第二數二五〇未滿ナルトキハ三肋骨心距以上、第二數一二五未滿ナルトキハ二肋骨心距以上之ヲ延長スルニ止ムルモ妨ナシ

低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クル船舶ニ付テハ上甲板ノ高さニ於テ船ノ首尾ヲ通ジ舷側厚板ヲ設クベシ

第四百十八條 甲板室ハ堅牢ニ構造シ少クトモ其ノ四隅ハ甲板室頂部ヨリ梁下面迄貫通スル螺釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムベシ

第二十章 檣、帆架及斜檣

第四百十九條 帆船ノ檣、帆架、斜檣等ノ寸法ハ左表ニ依ル

第四百十九條 帆船ノ檣、帆架、斜檣等ノ寸法ハ左表ニ依ル

第二十章 檣、帆架及斜檣

第四百十九條 帆船ノ檣、帆架、斜檣等ノ寸法ハ左表ニ依ル

名	稱	材料	徑
「シツプ」、「バーク」及「ブリツグ」ノ前橋、正橋、前上橋及正上橋 並ニ「シツプ」ノ後上橋		杉	長サ一メートルニ付 三センチメートル
頂橋、「シツプ」及「バーク」ノ後橋、「バーク」ノ後上橋並ニ「バ クンタイン」、「ブリガンタイン」、「トツプスルスクリーナー」、「ス クリーナー」、「ラツガー」、「カッター」、「ケツチ」及「スルー」ノ橋		杉	長サ一メートルニ付 二センチメートル
「ヤード」、「ブーム」、「ガフ」、「ジブブーム」及「フライイン グ」		杉	長サ一メートルニ付 二センチメートル
斜橋		杉	長サ一メートルニ付 五センチメートル

前項ノ橋ノ長サハ上橋ニ在リテハ上橋索具帶金ヨリ下部固定帶金迄、下橋ニ在リテハ下橋索具帶金ヨリ内龍骨上面迄ノ長サトシ其ノ徑ハ上橋ニ在リテハ下橋上端部、下橋ニ在リテハ上甲板楔止部ニ於ケル徑ト爲スベシ

前二項ノ規定ハ一材橋ノ寸法ヲ定ムル場合ニ之ヲ準用ス但シ内龍骨ノ上面ヨリ下橋索具ヲ取附クル帶金迄ノ長サヲ下橋ノ長サトシ其ノ上部上橋索具ヲ取附クル帶金迄ノ長サヲ上橋ノ長サトス

第二十一章 通風間隙及滲水路

第六十一條 各層甲板梁ノ梁受板又ハ副梁受板ノ直下ニハ通風ノ爲船ノ首尾ヲ通ジ間隙ヲ設クベシ
船首艙又ハ船尾艙ニ於テハ前項ノ間隙ノ外梁受板ト内龍骨トノ間ニ通風間隙ヲ設クベシ

第六十二條 龍骨ノ兩側ニ於ケル肋骨ノ下面ニハ船ノ首尾ヲ通ジ適當ノ滲水路ヲ設クベシ但シ外板ノ縦縁上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ

第二十二章 排水裝置及諸管

第六十三條 舷牆ニハ甲板上ノ水ヲ排除スル爲適當ナル排水口ヲ設クベシ

暴露甲板上ニハ船外ニ通ズル適當ナル排水孔ヲ設クベシ

第六十四條 第二甲板以下ノ甲板及蔽圍セラレタル船樓内ノ上甲板ニハ適當ノ排水管ヲ設ケ之ヲ滲水道ニ導クベシ

第六十五條 手動滲水「ポンプ」及測水管ハ各艙ニ之ヲ設クベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ手動滲水「ポンプ」ノ數ヲ減ジ又平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ限リ手動滲水「ポンプ」及測水管ヲ設ケザルコトヲ得

前項ノ手動滲水「ポンプ」ハ滿載吃水線以上ノ高サニ於テ何時ニテモ近寄り得ベキ場所ニ之ヲ裝置スベシ

第六十六條 手動滲水「ポンプ」ノ吸水管ノ内徑ハ四センチメートル以上ニシテ船ノ大サニ應ジ適當ノモノト爲スベシ但シ一〇センチメートルヨリ大ナルコトヲ要セズ

手動滲水「ポンプ」ノ内徑ハ吸水管ノ内徑ノ二倍以上ト爲スベシ

第六十七條 滲水吸水管ノ端末ニハ適當ナル芥除箱ヲ設クベシ

第六十七條 動力ニ依ル滲水「ポンプ」ヲ備フル船舶ニ付テハ各艙ニ其ノ吸水管ヲ導キ各艙ノ滲水ヲ排除シ得ベキ裝置ト爲スベシ但シ第二數一、五〇〇以下ノ船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ滲水吸水管ヲ各艙ニ導カザルモ妨ナシ

第六十八條 艙内又ハ石炭庫ヲ通過スル諸管ニハ貨物又ハ石炭ノ積載等ニ依リ破損セザル様堅固ナル覆箱又ハ覆板ヲ設クベシ

汽管其ノ他高内壓力ヲ受クル諸管ハ艙内又ハ石炭庫ヲ通過セシムルコトヲ得ズ但シ適當ノ圍壁又ハ隧道ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百六十九條 滿載吃水線ヲ標示スル船舶ニ在リテハ滿載吃水線下ニ開口ヲ有スル各排泄管ニハ自動不還弁二箇ヲ備ヘ中一箇ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ之ヲ設クベシ但シ滿載吃水線以上ノ高サニ於ケル甲板以上ノ何時ニテモ近寄り得ベキ場所ヨリ弁ヲ閉ヂ得ル裝置ト爲ストキハ自動不還弁ハ之ヲ一箇ト爲スコトヲ得

滿載吃水線下ニ於テ取附クル弁ハ鑄鐵製ナルコトヲ得ズ

第二十三章 操舵機具及揚錨、揚貨、繫船等ノ裝置

第百七十條 舵柄又ハ舵柄弧ニ對シテハ甲板上ニ堅牢ナル回轉止ヲ取附クベシ但シ舵柄又ハ舵柄弧ニ適當ノ制動裝置ヲ備フルカ又ハ操舵機ヲ直接舵柄弧ニ連結スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百七十一條 舵柄又ハ舵柄弧ノ半徑ハ成ルベク第三號表ニ掲グル舵心材ノ徑ノ四倍以上ト爲スベシ
第百七十二條 舵柄ノ寸法ハ舵頭固定部ニ於テハ帶金ノ深サ及腕ノ幅ヲ第三號表ニ掲グル舵心材ノ徑ノ三分ノ一以上、腕ノ厚サヲ其ノ幅ノ二分ノ一以上ト爲シ腕ノ端末ニ於テハ舵頭部ニ於ケル寸法ノ三分ノ二ト爲スベシ

二箇ノ腕ヲ有スル舵柄弧ニ在リテハ各腕ノ寸法ヲ前項ニ依ルモノノ五分ノ四ト爲スベシ

第百七十三條 操舵鎖ノ徑ハ第三號表ニ掲グル舵心材ノ徑ノ百分ノ五以上ト爲シ操舵圓材ノ徑ハ操舵鎖ノ徑ノ一倍四分ノ一以上ト爲スベシ

第百七十四條 導鎖滑車ハ操舵鎖ヲ小角度ニ屈曲セシメザル様之ヲ配置シ其ノ徑ハ操舵鎖ノ徑ノ十五倍以上ト爲シ其ノ車針ノ徑ハ操舵鎖ノ徑ノ一・七倍以上ト爲スベシ

第百七十五條 操舵、揚錨、揚貨、繫船等ノ諸機具、錨鈎、端艇鈎其ノ他ノ鑄製品ハ其ノ用途ニ應ジ之ヲ適當ニ構造スベシ但シ管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ノ試驗ヲ執行スルコトアルベシ

第二十四章 油運搬船

第百七十六條 本章ノ規定ハ艙内ニ鋼製槽ヲ据附ケ油類ヲ積載スル船舶ニ之ヲ適用ス

第百七十七條 油槽ハ堅牢ナル臺上ニ据附ケ船體ノ動搖ニ依リ移動セザル様支柱ヲ以テ之ヲ支持スベシ

油槽ハ現場ニ於テ其ノ周圍及上下ヲ検査シ得ベキ十分ナル餘地ヲ保ツ様之ヲ据附クルカ又ハ艙口ヨリ取出シ得ル寸法ノモノナルコトヲ要ス

第百七十八條 油槽ハ之ヲ堅牢ニ構造シ其ノ頂板上ニ一・五メートルノ水高壓力ヲ以テ試驗ヲ行フモ變形又ハ漏洩セザルモノナルコトヲ要ス

第百七十九條 油槽ニハ適當ナル排氣管ヲ備ヘ之ヲ上甲板上適當ノ高サニ達セシメ其ノ開口ニハ取外シ得ベキ細目金網ヲ備フベシ

各槽ヲ連結スル油管ハ之ヲ堅牢ニ槽ニ取附ケ其ノ内徑ハ給油管ノ内徑以上ト爲スベシ

油槽ニハ其ノ大サニ應ジ適當ナル縱横ノ區畫ヲ設ケ且適當ノ高サヲ有スル膨脹圍壁ヲ設クベシ但シ特ニ小ナル油槽ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ膨脹圍壁ハ相連結シタル油槽ニ在リテハ其ノ中一箇ノミニ付テ之ヲ設クルモ妨ナシ

第百八十條 油槽ヲ据附ケタル艙内「ポンプ」室其ノ他瓦斯ノ發生スル場所ニハ有效ナル通風裝置ヲ設クベシ

油槽ヲ据附ケタル艙内ニ於ケル通風間隙及滲水路ハ之ヲ他ノ艙内ノモノト連絡ナキ構造ト爲スベシ

表號二第

單 材 頂	料												
	橋、帆架、斜橋	木	敲釘、螺釘、打込釘	舵針、舵螺番	船底包板	內張板	甲板口緣材	木甲板、橋孔板、船口蓋板	梁、梁柱、縱梁	舷側厚板、龍骨翼板	外板、外部腰板	船首尾肘材、梁曲材、根曲材	梁受板、副梁受板、內部腰板
角 樞 7													
8	樺、檜	檫、樺	銅、黃銅	黃銅	銅	楠、椎、鹽地	樺、檜、山毛櫸、栗	樺、檜、山毛櫸、栗	樺、檜	樺、楠、檜	樺、楠、檜、栗	樺、楠、檜、栗	樺、楠、檜、山毛櫸
9													
10.5													
11.5	松、杉	檜、栗	亞鉛鍍銅	銅	黃銅	榲、松、榲、米松、赤榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
12.5													
14													
15			銅		木	杉、桂、榲小松、榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
16.5													
17.5													
18					亞鉛鍍銅	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
19.5													
21													
22.5													

別表

表號一第

材	等			
	件名	甲	乙	丙
龍骨、副龍骨、船首材、副船首材	樺、檜	山毛櫸、栗、榲、楠	榲、鹽地、榲、榲、榲、榲、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
船尾材、舵柱、船尾管	樺、檜	山毛櫸、栗、榲、楠	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
舵心材	樺、檜	山毛櫸、栗、榲、楠	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
功骨、船尾橫翼材、船尾縱翼材	樺、檜、楠	山毛櫸、栗、榲、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
力材	樺、楠、檜	山毛櫸、栗、榲、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
內龍骨、側內龍骨、副內龍骨	樺、檜	山毛櫸、栗、榲、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
側內厚板、彎曲前縱通材、船側縱通材	樺、檜、山毛櫸	山毛櫸、栗、榲、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲
梁壓材、副梁壓材、船鈔	樺、檜	山毛櫸、栗、榲、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲	榲、榲、赤榲、鹽地、榲、榲、米松、赤榲

油槽ヲ据附ケタル船ニハ船内ノ滲水及漏油ヲ排除スルニ十分ナル「ポンプ」ヲ備フベシ
 第一百八十一條 油槽ヲ据附ケタル船内ニハ他ノ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ズ
 附則
 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

材		材 二				
		材根助	材部曲彎	材 頂	材根助	材部曲彎
肋 骨 ノ 心 距	材	樺	樺	樺	樺	樺
	角樺	角樺	角樺	角樺	角樺	角樺
	35	7.5	6.5	5	9.5	8.5
	3.5-4	8.5	7.5	6	10.5	9.5
	4-4.5	10	8.5	7	12.5	11
	4.5-5	11	10	8	14	12.5
	5-5.5	12.5	11	9	15.5	14
	5.5-6	14	12	9.5	17.5	15.5
	6-6.5	15.5	13.5	10.5	19.5	17.5
	6.5-7	17	14.5	11	21.5	19
	7-7.5	18.5	16	12	23.5	21
7.5-8	20	17	12.5	25.5	22.5	
8-8.5	21.5	18	13	27	24	
8.5-9	23	19	14	29.5	25.5	
9-9.5	24.5	20	15	30.5	27	
9.5-10	26	21.5	16	32.5	28.5	

材 種 類	材 寸 寸	材		材		材		材		材		材		材		材		材	
		材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材	材
175-200	10.6	14	18.6	18.6	19.8	2.95	3x1.8	3	33	18.5	6.5	—	—	—	—	—	—	—	—
200-275	21	18	30	31.5	3.85	7x1.9	3	35	21x7	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—
275-300	22.5	18	31.5	33.5	4	6x3	3	37	23.5x7.5	19	7.5	94x6.5	94x6	—	—	—	—	—	—
300-400	24	17	32.5	35	4.55	8x2.2	3	39	34x8	18.5	8	94.5x7	94.5x6.5	94x6	98x11	—	—	—	—
400-475	25	19	33.5	36	4.85	8x2.2	3	40.5	35x8.5	14.5	8.5	95x7.5	95x7	95x6.5	98.5x11.5	—	—	—	—
475-500	26	19	34.5	37.5	4.87	9x2.4	3	41.5	35x9	15.5	9	95.5x8	95.5x7.5	95x7	98.5x11.5	—	—	—	—
500-575	27	19	35.5	38.5	5	7.5x2.5	3	42.5	35.5x9	16.5	9	96.5x8.5	96.5x8	95x7.5	98.5x11.5	—	—	—	—
575-600	28.5	20	36.5	39	4.87	9x2.4	4	44	36.5x9.5	18	9.5	96x9	96x10.5	95.5x8	98x11.5	—	—	—	—
600-675	30	21	38	40	5	7.5x2.5	4	45	38x10	19.5	10	96.5x9.5	96.5x11	94x8.5	94.5x14	—	—	—	—
675-700	31	21	39	41	5	8x2.6	4	47	38x10	20.5	10.5	97x10.5	97x11.5	94.5x9	94.5x14	—	—	—	—
700-775	33	23	40	42	5.5	8x2.6	4	48	38x10	20.5	10.5	97x10.5	97x11.5	94.5x9	94.5x14	—	—	—	—
775-800	34.5	23	41	43	5.5	8x2.6	4	49	38x10	20.5	10.5	97x10.5	97x11.5	94.5x9	94.5x14	—	—	—	—
800-875	35	23	42	44	5.5	8x2.6	4	50	38x10	20.5	10.5	97x10.5	97x11.5	94.5x9	94.5x14	—	—	—	—
875-900	35	23	42	44	5.5	8x2.6	4	50	38x10	20.5	10.5	97x10.5	97x11.5	94.5x9	94.5x14	—	—	—	—
900-975	35	23	42	44	5.5	8x2.6	4	50	38x10	20.5	10.5	97x10.5	97x11.5	94.5x9	94.5x14	—	—	—	—
975-1000	35	23	42	44	5.5	8x2.6	4	50	38x10	20.5	10.5	97x10.5	97x11.5	94.5x9	94.5x14	—	—	—	—

船舶機關規程

(逓信省令第十號)
昭和九年二月一日

第一章 總則……………三三

第二章 材料及材料試驗……………三六

第一節 試驗片

第二節 壓延鋼材

第三節 鍛鋼材

第四節 鑄鋼材

第五節 管

第六節 雜則

第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關……………三七

第一節 汽機

第二節 筒形汽罐及直立汽罐

第三節 水管汽罐及過熱器

第四節 汽罐附屬品

第五節 汽罐ニ關スル雜則

第六節 給水裝置

第七節 排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル裝置

第八節 管

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

第十節 燃油裝置

第四章 發動機ヲ備フル船舶ノ機關……………四八

第一節 發動機

第二節 油槽、油管、潤滑油裝置等

第三節 廢氣裝置及空氣壓縮機

第四節 氣槽

第五節 排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置

第六節 水壓試驗

第七節 補汽罐

第五章 鑄裝品及備品……………四五

附則

船舶機關規程

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ汽機又ハ發動機トハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外推進軸系ニ連接スル汽機又ハ發動機ヲ謂フ

本令ニ於テ汽罐トハ補汽罐ヲモ包含ス

本令ニ於テ第一種螺旋軸トハ一體被金ヲ有スルカ又ハ之ト同等ノ耐蝕性ヲ有スル螺旋軸ヲ謂ヒ第二種螺旋軸トハ其ノ他ノ螺旋軸ヲ謂フ

適當ナル船尾管内潤滑油裝置ヲ備フル螺旋軸ハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ第一種螺旋軸ト看做ス

第二條 船舶ノ推進機關ヲ分チテ甲種、乙種及丙種ノ三種トス

乙種機關ハ第一級船又ハ第二級汽船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

丙種機關ハ第一級船又ハ第二級船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三條 汽罐ニ付テハ第三章第二節又ハ第三節ノ規定ニ依リ算定シタル汽罐各部ノ強力ニ對スル制限汽壓中最小ノモノヲ以テ其ノ制限汽壓トス但シ該汽罐ニ連絡スル汽機、汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第四條 本令ニ依ル試驗ハ管海官廳ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スベシ

試驗機ハ船用品試驗機試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

本令ニ依ル試驗ハ管海官廳ノ適當ト認ムル證明書アルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ノ規定ニ該當セザルモノト雖モ管海官

應ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノ又ハ機關ノ用途ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

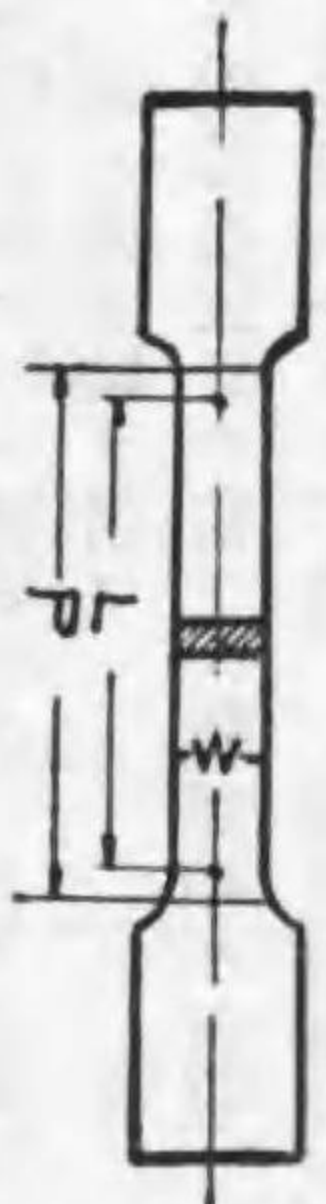
第六條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ニ規定ナキモノニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二章 材料及材料試驗

第一節 試驗片

第七條 抗張試驗ニ用ウル標準試驗片ハ左ノ形狀及寸法ト爲スベシ但シ其ノ兩端ハ試驗機ニ應ジ之ニ適合スル形狀ニ仕上グルモノトス

一 第一號試驗片 主トシテ鋼板、平鋼及形鋼ニ對シテ用ウルモノ



標點距離 L 二〇〇耗

平行部ノ長サ P 約二二〇耗

幅 W 左表ニ依ル

試驗片ノ厚サ(耗)	試驗片ノ幅W(耗)
一三ヲ超ユルモノ	四〇以下

九以上二三以下	五〇以下
九未滿	六〇以下

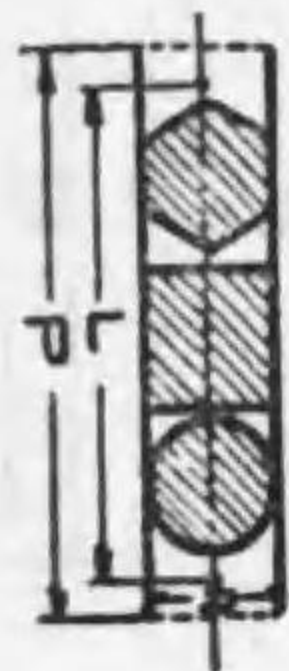
二 第二號試驗片 主トシテ徑(又ハ對邊距離)二五耗以下ノ棒鋼ニ對シテ用ウルモノ



標點距離 L ハ徑(又ハ對邊距離) D ノ八倍、兩端ヲ太クスルモノニ在リテハ平行部ノ長サ P ハ D ノ約九倍

平行部ハ壓延セル儘トシ又ハ機械仕上ニ依リ之ヲ作製スルコトヲ得

三 第三號試驗片 徑(又ハ對邊距離)二五耗ヲ超ユル棒鋼ニ對シテ用ウルモノ

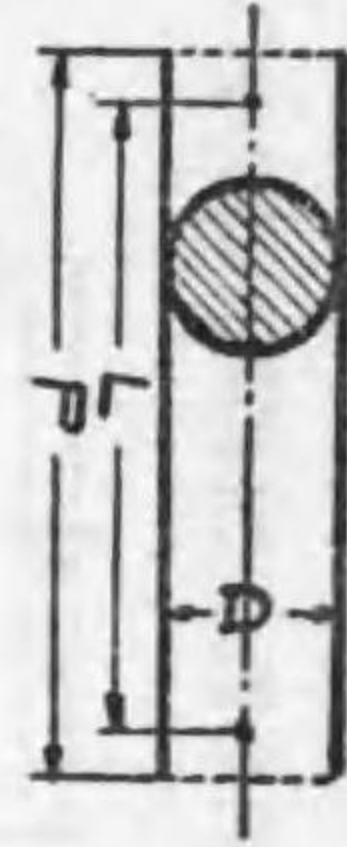


標點距離 L ハ徑(又ハ對邊距離) D ノ四倍、兩端ヲ太クスルモノニ在リテハ平行部ノ長サ P ハ D ノ約四・五倍

平行部ハ壓延セル儘トシ又ハ機械仕上ニヨリ之ヲ作成スルコトヲ得

四 第四號試驗片

主トシテ鍛鋼材、鑄鋼材並ニ非鐵金屬(又ハ其ノ合金)棒ニ對シテ用ウルモノ



標點距離 L

五〇耗

平行部ノ長サ P

約六〇耗

徑 D

一四耗

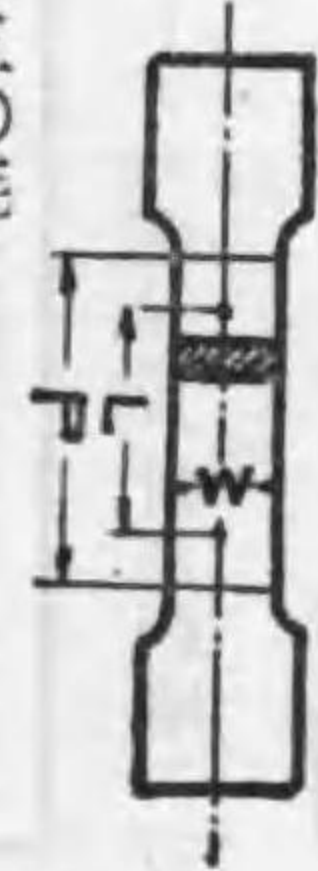
材料ノ都合ニ依リ右ノ寸法ト爲シ得ザルトキハ左ノ算式ニ依リ標點距離ヲ定ムルコトヲ得

$$L = 4\sqrt{A}$$

Lハ標點距離(耗ニテ)

Aハ横截面積(平方耗ニテ)

五 第五號試驗片 主トシテ管類並ニ非鐵金屬(又ハ其ノ合金)板ニ對シテ用ウルモノ



標點距離 L

五〇耗

平行部ノ長サ P

約七〇耗

幅 W

二五耗

第八條

壓延鋼材ノ抗張試驗片ニハ成ルベク壓延肌ヲ殘スベシ

前項ノ規定ニ拘ラズ徑又ハ對邊距離七五耗以下ノ棒鋼ノ試驗片ニ付テハ適宜機械仕上ヲ爲シ又七五耗ヲ超ユル棒鋼ニ在リテハ左圖ニ於テ小圓ヲ以テ示ス位置ヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得
前項ニ依リ作成スル試驗片ノ徑ハ之ヲ一四耗以下ト爲スコトヲ得ズ



第九條

壓延鋼材ノ屈曲試驗片ノ幅、徑又ハ對邊距離ハ三五耗以上ナルコトヲ要ス但シ「フランヂ」ノ幅五〇耗未滿ノ形鋼ヨリ採取セル試驗片ノ幅ハ三五耗未滿ナルモ妨ナク又徑又ハ對邊距離三五耗未滿ノ棒鋼ニ對シテ用ウル試驗片ハ壓延セル儘ノ材料ヲ使用スベシ

「フランヂ」ノ幅五〇耗未滿ノ形鋼ニ在リテハ之ニ壓力ヲ加ヘ若ハ鋸打シテ扁平ト爲シタルモノヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得

壓延鋼材ノ屈曲試驗片ニハ左ノ加工以外ノ加工ヲ爲スコトヲ得ズ

一 剪斷ノ爲生ジタル稜角又ハ縁ノ不整ヲ鑄又ハ研摩機ニ依リ削除スルコト

二 厚サ二五耗以上ノモノニ付剪斷面ヲ機械仕上ト爲スコト

厚サ一二耗未滿ノ燒入屈曲試驗片ニハ前項各號ノ加工ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 鍛鋼材又ハ鑄鋼材ノ屈曲試驗片ハ幅二五耗厚サ一九耗ノ截面ヲ有シ角隅ニハ半徑一・五耗ノ丸味ヲ附シタルモノトス

第十一條 抗張試驗片及屈曲試驗片ノ數ハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外左表ニ依ル

種	類	抗張試驗片ノ數	屈曲試驗片ノ數
加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火焰ニ接觸スル鋼板		壓延シタル儘ノ鋼板一箇毎ニ一箇但シ其ノ重量ニ・五超ヲ超ユルトキハ其ノ兩端ヨリ各一箇	壓延シタル儘ノ鋼板一箇毎ニ燒入屈曲試驗片一箇但シ其ノ重量ニ・五超ヲ超ユルトキハ兩端ヨリ各一箇
其ノ他ノ鋼板	同右	同右	同右
形鋼、棒鋼又ハ鉄材	同一鋸鋼ニ屬シ壓延シタル儘ノ同種同一截面寸法ノ鋼材一五箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇 徑又ハ對邊距離四五耗未滿ノ棒鋼若ハ鉄材ニ在リテハ右ノ一五箇ヲ五〇箇ト爲スコトヲ得 鋸鋼不明ナルトキハ同一種類ノ材料ヨリ管海官廳ノ適當ト認ムル數 同一管海官廳ノ適當ト認ムル數又ハ其ノ端數毎ニ一箇	同一鋸鋼ニ屬シ壓延シタル儘ノ同種同一截面寸法ノ鋼材一五箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇 徑又ハ對邊距離四五耗未滿ノ棒鋼若ハ鉄材ニ在リテハ右ノ一五箇ヲ五〇箇ト爲スコトヲ得 鋸鋼不明ナルトキハ同一種類ノ材料ヨリ管海官廳ノ適當ト認ムル數 同一管海官廳ノ適當ト認ムル數	同一鋸鋼ニ屬シ壓延シタル儘ノ同種同一截面寸法ノ鋼材一五箇又ハ其ノ端數毎ニ一箇 徑又ハ對邊距離四五耗未滿ノ棒鋼若ハ鉄材ニ在リテハ右ノ一五箇ヲ五〇箇ト爲スコトヲ得 鋸鋼不明ナルトキハ同一種類ノ材料ヨリ管海官廳ノ適當ト認ムル數 同一管海官廳ノ適當ト認ムル數
鉄	同上	同上	同上
鍛鋼	同上	同上	同上
鑄鋼	同上	同上	同上

ハ鑄鋼材一箇毎ニ一箇但シ一鋸鋼材ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル數

第十二條 壓延鋼材ノ試驗片ハ鋼板ニ在リテハ横又ハ縦ノ方向ヨリ形鋼又ハ棒鋼ニ在リテハ長サノ方向ヨリ之ヲ採取シ矯正ノ必要アルトキハ常温ノ儘矯正スベシ
 壓延鋼材ノ試驗片ハ鋼材ト共ニスル場合ノ外之ニ燒鈍其ノ他ノ熱處理ヲ爲スコトヲ得ズ
 第十三條 鍛鋼材ノ試驗片ハ鍛鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲シタル後其ノ主体ヨリ小ナラザル截面ヲ有スル部分ヨリ縱ニ切取ルモノトス但シ鍛鋼品ノ形狀又ハ用途ニ依リ横ニ切取ルモ妨ナシ
 第十四條 鑄鋼材ノ試驗片ハ之ヲ鑄鋼材ニ附著又ハ連結シテ鑄造シ鑄鋼材ト共ニ熱處理ヲ爲シタル後切取ルベシ

第二節 壓延鋼材

第十五條 機關ノ重要部分ニ用ウル壓延鋼材ハ酸性又ハ鹽基性ノ平爐ニ依リ製造セラレ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第十六條 前條ノ壓延鋼材ハ其ノ試驗片ガ左ノ各號ノ試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス但シ同一ノ汽罐又ハ氣槽ニ於テ同一ノ用途ニ供スル鋼板又ハ縱支柱用棒鋼ノ抗張力ノ差ノ範圍ハ每平方耗七疋ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 抗張試驗 抗張力及標點間伸長百分率ハ左表ニ依ルコト

種	類	標準抗張試驗片	標點間伸長百分率
加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火焰ニ接觸スル鋼板	抗張力(每平方耗疋)	第一號	厚サ九耗未滿 二〇以上
	四一以上四八以下		二二以上

其ノ他ノ鋼板	四四以上五五以下	第一號	厚サ九耗以上 二〇以上
形鋼	四四以上五〇以下	第一號	厚サ九耗以上 一七以上
鋼材	四一以上四八以下	第二號	厚サ九耗以上 一七以上
汽罐ノ燃燒室又ハ火 爐ノ支用棒鋼	四一以上四八以下	第三號	三〇以上
其ノ他ノ棒鋼	四四以上五五以下	第二號	二八以上
		第三號	二〇以上

二 屈曲試験 焼入屈曲試験ニ於テハ試験片ヲ濃紅色（日光ノ直射セザル室内ニ於テ判定スルモノ
ニシテ約六五〇度）ニ熱シテ約二八度ノ水中ニ急冷シタル後常温屈曲試験ニ於テハ常温ノ儘試験
片ニ壓力ヲ加ヘ又ハ鏈打ニ依リ左表ノ内側半徑ニテ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

種類	内側半徑
鋼板	試験片ノ厚サノ一・五倍以内
形鋼	試験片ノ厚サノ一・五倍以内
棒鋼	試験片ノ徑又ハ對邊距離ノ 一・五倍以内
鋸材	密著

第十七條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタ
ルトキハ其ノ試験ヲ無効トシ更ニ最初ニ試験片ヲ採取シタル鋼材ニ付再試験ヲ行フコトヲ得

抗張試験又ハ屈曲試験ガ不合格ト爲リタルトキハ其ノ試験片一箇ニ付更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シ再
試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ
行ヒタル鋼材ハ總テ不合格トス

第十八條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋸ハ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス但シ第十六
條各號ノ試験ニ合格シタル鋸材ヨリ製作シタル鋸ニ付テハ抗張試験ヲ省略スルモ妨ナシ

一 抗張試験 抗張力ハ每平方耗四一疋以上四八疋以下ナルコト

二 屈曲試験 常温ノ儘脚部ヲ一八〇度屈曲シテ密著セシムルモ屈曲部ノ外側ニ裂疵ヲ生ゼザルコ
ト

三 打展試験 頭部ヲ赤熱シテ脚部ノ徑ノ二・五倍迄扁平ニ打展スルモ其ノ縁ニ裂疵ヲ生ゼザルコ
ト

前項第三號ノ試験ニ用ウル鋸ノ數ハ同一徑ノモノノ重量四分ノ一種又ハ其ノ端數毎ニ一箇トス
前條ノ規定ハ鋸ノ再試験ニ付之ヲ準用ス

第十九條 厚サ六耗未満ノ壓延鋼材及抗張力ヲ重要トセザル部分ニ使用スル壓延鋼材ニハ抗張試験及
焼入屈曲試験ヲ省略スルコトヲ得

第三節 鍛鋼材

第二十條 機關ノ重要部分ニ用ウル鍛鋼材ハ平爐、坩堝爐又ハ電氣爐ニ依リ製造シタル鋼塊ヨリ鍛造
シ品質均一ニシテ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス
前項ノ鍛鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

第二十一條 主機ノ軸、「ピストン」桿、十字頭、連接桿、推進軸系ノ軸類其ノ他強力ヲ重要スル部分ニ用ウル鍛鋼材ノ主体ハ其ノ截面積ヲ原鋼塊ノ平均截面積ノ四分ノ一以內ニ、主体以外ノ部分ハ其ノ截面積ヲ原鋼塊ノ平均截面積ノ三分ノ二以內ニ鍛鍊スベシ但シ一體型又ハ半組成型ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニ用ウル鍛鋼材ニ付テハ其ノ截面積ノ割合ハ二分ノ一以內トス

前項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル補機ノ「クランク」軸ニ用ウル鍛鋼材ニ之ヲ準用ス

第二十二條 前條第一項ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ニシテ大サ又ハ形狀ニ依リ其ノ截面積ノ割合ガ前條第一項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ其ノ割合ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二十三條 第二十一條ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

- 一 抗張試験 抗張力ガ每平方耗四四疋以上五五疋以下ニシテ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ九〇以上ナルコト
 - 二 屈曲試験 常温ノ儘六耗以下ノ内側半徑ヲ以テ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト但シ抗張力每平方耗五〇疋以上ノモノニ付テハ屈曲ノ内側半徑ヲ一〇耗迄増スコトヲ得
- 軸ノ計畫仕上徑二五〇耗以上ノ一體型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ノ「クランク」部ハ該鍛造物ノ成ルベク中心部ニ於テ互ニ直角ナル三方向ニ採取シタル試験片ニ付抗張試験及屈曲試験ヲ執行シ左表ノ規格ニ適合スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

試験片採取方向	抗張力(每平方耗疋)	標點間伸長百分率	裂疵ヲ生ゼザルコトヲ要スル屈曲角度
軸ノ中心線ニ平行ナル方向	四二・五以上五三・五以下	二七以上	一八〇

「クランク」腕ノ中心線ニ平行ナル方向	四二・五以上五三・五以下	二七以上	一五〇
前二方向ニ直角ナル方向	四一・〇以上五三・五以下	一九以上	一二五

備考 屈曲試験ニ於ケル屈曲ノ内側半徑ハ軸ノ中心線ニ平行ナル方向ノ抗張力ガ每平方耗四九疋未滿ナルトキハ六耗以下、四九疋以上ナルトキハ一〇耗以下ト爲スベシ

鍛造ノ割合ニ關シ前條ノ規定ニ依リタル鍛鋼材ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル試験ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二項ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニシテ鍛造ノ方法其ノ他ノ事由ニ因リ同項ノ規定ニ依リ難キモノハ第一項ノ試験ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試験ヲ行フコトヲ得

前條ノ材料試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限り當該試験ニ對シ更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シテ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鍛鋼材ハ不合格トス

第二十五條 第二十三條ノ材料試験ガ不合格トナリタルトキハ更ニ鍛鋼材ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ニ抗張試験及屈曲試験ノ全部ヲ行フモノトス

第四節 鑄鋼材
第二十六條 機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ平爐、轉爐、電氣爐又ハ坩堝爐ニ依リ鑄造シ其ノ品質均

一ニシテ有害ナル疵、鑄集其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス
前項ノ鑄鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ
鑄鋼材ノ疵等ニシテ強力ニ對スル影響輕微ナリト認ムルモノニ付テハ管海官廳ハ鑄掛、電氣銲接又
ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ補修セシムルコトヲ得
前項ノ補修ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ補修後更ニ該鑄鋼材ニ適當ナル
熱處理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條

機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ第一號及第二號ノ試験ニ合格シ且該
鑄鋼材ガ左ノ第三號及第四號ノ試験ニ合格スルコトヲ要ス但シ強力ヲ重要トセザル部分ニ用ウル鑄
鋼材ニ付テハ第一號及第二號ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

一 抗張試験 抗張力ハ每平方耗四一疋以上五五疋以下ニシテ標點間伸長百分率ハ二〇以上ナルコ
ト

二 屈曲試験 常温ノ儘二五耗以下ノ内側半徑ヲ以テ一二〇度以上屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

三 落下試験 鑄鋼材ヲ約三米ノ高サヨリ硬質ノ地面ニ落下シ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ生ゼザルコト

四 鋤打試験 前號ノ試験執行後鑄鋼材ヲ吊シ其ノ重量ニ應ジ三疋乃至七疋ノ鋤ヲ以テ其ノ表面ヲ
打ツモ有害ナル裂疵、鑄集、偏肉其ノ他ノ缺點ヲ認メザルコト

形狀特ニ複雜又ハ長大ニシテ落下試験ヲ執行スルトキハ變形ノ虞アリト認ムルモノニ付テハ該鑄鋼
材ノ成ルベク隔リタル兩端ヨリ採取シタル各二箇ノ試験片ガ前項第一號及第二號ノ試験ニ合格スル
トキハ落下試験ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ト雖モ鋤打試験ハ之ヲ省略スルコトヲ得ズ
第二十八條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シ

タルトキハ再試験ヲ行フコトヲ得

抗張試験又ハ屈曲試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザル
モノト認メタル場合ニ限り更ニ之ト同數ノ試験片ヲ採取シ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ其ノ試験片ニ依
リ代表セラルル鑄鋼材ハ之ヲ不合格トス

鑄鋼材ニハ再試験用試験片採取前更ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ既ニ合格シタル試験ニ付テモ更ニ試験ヲ行フコトヲ要ス

第五節 管

第二十九條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋼管ハ良質ノ平爐鋼又ハ電爐鋼ヲ用キ常温引拔法又ハ高温仕上

法ニ依リ無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト

認ムルトキハ鍛接合管又ハ銲接合管ナルモ妨ナシ

水管汽罐ノ水管ニ用ウル鋼管ニシテ外徑四〇耗未満ノモノ又ハ汽罐ノ給水管ニ用ウル鋼管ハ前項ノ
規定ニ拘ラズ常温引拔法ニ依リ製造シタルモノナルコトヲ要ス

常温引拔無接合鋼管及鍛接合鋼管ハ製造後之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

第三十條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋼管ハ常温引拔法ニ依リ無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモ
ノナルコトヲ要ス但シ每平方耗五疋以上ノ壓力ヲ受ケザルモノハ鐵附管ナルモ妨ナシ

每平方耗一二・五疋以上ノ壓力ヲ受クル外徑二三五耗以上ノ汽管ニハ鋼管ヲ用ウルコトヲ得ズ

第六節 雜則

第三十一條 管、特殊鋼材、黃銅材、可鍛鑄鐵材又ハ鑄鐵材ニ付テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認

ムル場合ニ限り其ノ指示スル所ニ依リ材料試験ヲ行フ
 第三十二條 乙種機關又ハ丙種機關ニ用ウル材料ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ材料試験ヲ省略スルコトヲ得但シ軸ノ一部ニ用ウル鑄鋼材ノ材料試験及汽罐又ハ每平方糎一〇疋以上ノ壓力ヲ受クル氣槽ニ用ウル鋼板ノ屈曲試験ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 第三十三條 管海官廳ハ材料規格ニ適合セザル材料ト雖モ其ノ使用ノ方法若ハ箇所ヲ限り又ハ其ノ他ノ條件ヲ附シテ之ヲ使用セシムルコトヲ得
 第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 汽機

第三十四條 汽機ハ容易ニ反轉セシメ且船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス
 第三十五條 軸ノ寸法ハ汽機及軸ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 往復動汽機ニ用ウル鍛鋼製ノ「クランク」軸、中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{PD_s}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)

D² ハ一推進軸系ニ於ケル低壓汽筒ノ數又ハ單式汽機ノ汽筒ノ數一箇ナルトキハ其ノ徑(糎ニテ)ノ二乗、二箇ナルトキハ各汽筒ノ徑(糎ニテ)ノ二乗ノ和

P ハ復水器ヲ備ヘザルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎疋ニテ)、復水器ヲ備フルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎疋ニテ)ニ一ヲ加ヘタルモノ

S ハ行長(糎ニテ)

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

往復動汽機ノ種類	「クランク」ノ數	「クランク」軸又ハ推力軸			中間軸		
		甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關		
單式汽機	一	一・四九	一・四二	一・四二	一・三五		
	二(「クランク」ノ角九〇度ノモノ)	一・三八	一・三一	一・三一	一・二五		
二聯成汽機	二(「クランク」ノ角一八〇度ノモノ)	一・五五	一・四七	一・四七	一・四〇		
	九〇(「クランク」ノ角一八〇度ノモノ)	一・〇七	一・〇二	一・〇二	〇・九六		
三聯成汽機	三又ハ四	一・二〇	一・一四	一・一四	一・〇八		
	三又ハ四	一・〇三	〇・九八	〇・九八	〇・九三		
四聯成汽機	四	〇・八八	〇・八四	〇・八四	〇・七九		
	四	〇・八六	〇・八二	〇・八二	〇・七八		

二 鋼製「クランク」腕ノ厚サ及幅

組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

$$t = 0.625D$$

一体型「クランク」軸ナルトキ

$$t = 0.438D$$

$$b t^2 = 0.417d_s$$

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)

W ハ組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ
 (耗ニテ)
 b ハ一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅(耗ニテ)
 d ハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)
 三 「タービン」汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{\frac{T}{R}}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)

T ハ計畫軸馬力

R ハ軸ノ計畫毎分回轉數

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸		推力軸	
	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
K	100	九五	105	100

四 三聯成汽機ト「タービン」汽機トヲ同一推進軸系ニ聯動スル汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{(68,000 \times \frac{T}{R}) + 0.032 PD^2 S \times (1 + \frac{14.50UD^2 S}{WC^2 R^2})}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)

P ハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎斤ニテ)

D ハ低壓汽筒ノ徑(糎ニテ)

S ハ行長(糎ニテ)

T ハ「タービン」汽機ノ計畫軸馬力

R ハ當該推進軸系ノ計畫毎分回轉數

W ハ聯動裝置ノ親齒車ノ重量(疋ニテ)

G ハ聯動裝置ノ親齒車ノ心圍ノ徑(糎ニテ)

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸		推力軸	
	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
K	二・四三	二・三一	二・五五	二・四二

五 鍛鋼製螺旋軸ノ徑

$$ds = d + \frac{P}{C}$$

ds ハ螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

d ハ汽機ノ種類ニ應ジ第一號、第三號、前號又ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

P ハ螺旋推進器ノ徑(耗ニテ)
C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

第一種螺旋軸ナルトキ	一四四
第二種螺旋軸ナルトキ	一〇〇

前項第四號ノ汽機ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑ハ前項ノ規定ニ拘ラズ夫々同項第一號ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸又ハ推力軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ハ前部軸鈎ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一項第一號、第三號、第四號又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

推力軸ハ推力受臺ノ前部又ハ後部ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一項第一號、第三號、第四號又ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第三十六條 軸鈎ヲ連結スル螺釘ノ軸鈎連結面ニ於ケル徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = 0.75 \sqrt{\frac{D^2}{Nd}}$$

d ハ螺釘ノ徑(耗ニテ)

N ハ螺釘ノ數

d₁ ハ螺釘心圈ノ徑(耗ニテ)

D ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

第三十七條 船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第三十五條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル軸ノ徑ノ四倍未滿ト爲スコトヲ得ズ

船尾管後端ノ軸受上部ノ内面ト螺旋軸トノ間隙C(耗ニテ)ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

$$C = 0.015 d + 2.5$$

d ハ螺旋軸ノ該部分ニ於ケル被金上ノ徑(耗ニテ)

第三十八條 甲種機關又ハ乙種機關ニ在リテハ往復動汽機ニハ各汽筒ノ兩端及汽筒間ノ蒸汽通路ニ、「タービン」汽機ニハ適當ノ箇所ニ有效ナル逃出口ヲ備ヘ該部ニ於ケル最大汽壓ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃汽スル様之ヲ調整スベシ

第三十九條 汽筒ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ

第四十條 汽機ノ動作部ニ對シテハ適當ナル圍牆又ハ柵欄ヲ設クベシ

第四十一條 汽筒又ハ之ニ附屬スル弁等ハ之ヲ製造シ削仕上テ爲シタルトキ夫々左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ内外全面ヲ削仕上ゲタル内筒ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

一 單式汽機ノ汽筒 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六斤以上ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六斤ヲ加ヘタル壓力汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六斤未滿ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

二 二聯成汽機

高壓汽筒 單式汽機ノ汽筒ニ同ジ

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乘ジタル壓力

三 三聯成汽機

高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六斤ヲ加ヘタル壓力

中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・七五ヲ乗ジタル壓力

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・三〇ヲ乗ジタル壓力

四 四聯成汽機

高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六斤ヲ加ヘタル壓力

第一中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓

第二中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乗ジタル壓力

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・二五ヲ乗ジタル壓力

五 「タービン」汽機ノ汽筒 各膨脹階段ノ初壓力ノ一・五〇倍及每平方糎二斤ノ中大ナル壓力

六 高壓「タービン」汽機ノ配汽室 汽罐ノ制限汽壓ノ一・五〇倍ノ壓力但シ適當ナル逃出弁ヲ備フルモノハ配汽室内蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

七 中壓又ハ低壓「タービン」汽機ノ配汽室 該室内蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

八 收汽室、收汽管、汽包室、汽筒蓋、弁匣及弁匣蓋 其ノ附屬スル汽筒ニ對スル壓力ト同一ノ壓力

第四十二條 復水器管ノ管板間ノ長サガ管ノ外徑ノ一二〇倍以上ナルトキハ一二〇倍毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ支板ヲ設クベシ

第四十三條 復水器ノ器胴、通水室又ハ蓋ハ之ヲ製造シタルトキ每平方糎一・五斤ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

復水器管ヲ取附ケタルトキハ二米以上ノ水高壓力ヲ以テ漏否試験ヲ執行スベシ

第二節 筒形汽罐及直立汽罐

第四十四條 主トシテ張力ヲ受クル部分ハ鍛合又ハ熔接スルコトヲ得ズ但シ鍛合部又ハ熔接部ニ覆板ヲ附シ適當ナル銲接合ト爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

小ナル汽兜ノ胴板又ハ直立汽罐ノ又管ノ縱接合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ鍛合又ハ熔接スルコトヲ得

第四十五條 工事ノ爲加熱シタル鋼板又ハ鋼製支柱ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

二枚以上ノ鋼板ヲ銲接合スル場合ニ於テハ之ヲ銲締スル以前ニ於テモ此等ノ鋼板ガ充分密著スル状態ト爲シ且銲孔ハ成ルベク該鋼板ヲ假接合シタル後鑽孔スベシ

鋼板ノ銲孔ハ鑽孔シタルモノト爲スベシ

第四十六條 胴板ニ設クル隋圓形ノ孔ハ短徑ヲ罐ノ長サニ平行セシムベシ

胴板ニ設クル人孔又ハ他ノ孔ノ徑ガ胴板ノ厚サノ二・五倍ニ七〇耗ヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ適當ナル補強環ヲ附シ該部分ノ強率ヲ胴板ノ縱接合ニ於ケル強率ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

長徑一五〇耗ヲ超ユル人孔其ノ他ノ孔ヲ鏡板ニ設クルトキハ相當ノ強力ヲ有スル緣環又ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナラザル深サヲ有スル曲線ニ依リテ鏡板ヲ補強スベシ

$$D = \frac{h}{t} \times W$$

h ハ孔ノ短徑部ニ於テ板ノ外面ヨリ測リタル曲線ノ深サ(耗ニテ)

t ハ板ノ厚サ(耗ニテ)

W ハ孔ノ短徑(耗ニテ)

第四十七條 人孔其ノ他ノ孔ニ用ウル押壓製ノ蓋ハ適當ナル熱處理ヲ爲シタルモノナルコトヲ要ス